

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

研究進捗状況報告書の概要

1 研究プロジェクト

学校法人名	自治医科大学	大学名	自治医科大学
研究プロジェクト名	非感染性疾患の病態解明と診断・治療法の開発拠点の形成		
研究観点	研究拠点を形成する研究		

2 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

生体にとって基本的な制御ネットワークの一つであるストレス応答の破綻が、がんや生活習慣病、心血管病といった非感染性疾患(Non-communicable disease:NCD)を引き起こすことが明らかとなってきた。これまで自治医科大学では、がんや炎症、生活習慣病を中心として、NCDに関連する数多くの先駆的な研究が行われており、国内外から高い評価を得ている。そこで、本研究プロジェクトでは、「慢性炎症」と「がん・幹細胞」の2つの研究領域を中心に、基礎・臨床の計23講座・部門を有機的に配置した全学的なトランスレーショナル・リサーチが展開可能な組織を構築した。これにより、生体ストレスによるネットワーク恒常性維持の破綻からNCD発症に至る機構の解明を分子レベルで遂行するとともに、新たな治療標的分子やバイオマーカーの同定、創薬を標的とする生体バイオイメージングシステムによる新規治療・診断法の開発と実用化など、イノベーション促進を視野に入れたトランスレーショナル・リサーチへと展開することで、世界のNCD研究における基礎・臨床連携研究拠点を形成を目指す。

3 研究プロジェクトの進捗及び成果の概要

- 自治医科大学 NCD 研究拠点を形成するため、研究システム導入による基盤整備を行って実験・研究を開始した。
- 平成 27 年 7 月 6 日に公開シンポジウムを実施し、参加研究グループの成果を発表するとともに、当該領域を代表する外部研究者による特別講演を行い、外部からの評価を受けた。また、参加研究グループによる定期的な成果発表会を実施し、本研究プロジェクトのさらなる推進のため、研究グループ同士の交流を深め、これを通じて自己・相互評価を行っている。
- 参加研究グループは、それぞれの専門の研究テーマにおいて NCD 研究の視点から研究を遂行している。これまで数多くの原著論文を発表するとともに、特許申請等の副次的効果も得られ、着実に研究成果をあげていると考えられ、おおむね目標を達成している状況にある。
- トランスレーショナル・リサーチとして、すでに研究成果を応用した臨床試験が開始されている。また、いくつかの研究グループでは、さらなるトランスレーショナル・リサーチ実現のための基礎と臨床における共同研究を開始している。

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

**平成 25 年度選定「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究進捗状況報告書**

- 1 学校法人名 自治医科大学 2 大学名 自治医科大学
- 3 研究組織名 自治医科大学 NCD 研究拠点
- 4 プロジェクト所在地 栃木県下野市薬師寺3311-1
- 5 研究プロジェクト名 非感染性疾患の病態解明と診断・治療法の開発拠点の形成
- 6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
永井 良三	自治医科大学・医学部	学長

- 8 プロジェクト参加研究者数
- 23
- 名

- 9 該当審査区分
- 理工・情報
- 生物・医歯
- 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
永井 良三	学長	研究の総括	研究組織の効率的な運営・トランスレーショナルリサーチの推進
高橋 将文	医学部・教授	生活習慣病・心血管病における自然炎症機構の解明	自然炎症の分子機構の解明・炎症領域まとめ
古川 雄祐	医学部・教授	幹細胞と間質細胞とのネットワーク解析	幹細胞と周囲環境ネットワーク機構の解明・幹細胞領域まとめ
矢田 俊彦	医学部・教授	視床下部炎症による脳・末梢関連障害の生活習慣病発症基盤の解明	脳・末梢臓器関連の解明
尾仲 達史	医学部・教授	慢性炎症における神経ペプチドの役割の解明	脳・末梢臓器関連の解明
岩本 禎彦	医学部・教授	生活習慣病における慢性炎症に関連する遺伝子変異の解析	慢性炎症の病態解明とバイオマーカーの開発

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
苅尾 七臣	医学部・教授	エクソソーム解析による心血管病の新規バイオマーカーの開発	心血管病バイオマーカーの開発・臨床データベース構築
石橋 俊	医学部・教授	脂質代謝異常が惹起する炎症における自然免疫細胞の役割の解明	脂質代謝異常が惹起する炎症機構の解明・臨床データベース構築
椎崎 和弘	医学部・講師	慢性腎臓病における自然炎症の分子機構の解明	慢性炎症の分子機構の解明・臨床データベース構築
簗田 清次	医学部・教授	関節リウマチ再燃過程解析による発症機構解明と治療標的分子の同定	慢性炎症の分子機構の解明と治療法開発・臨床データベース構築
松原 茂樹	医学部・教授	妊娠高血圧症候群における自然炎症機構の解明	自然炎症の分子機構の解明・臨床データベース構築
高橋 秀徳	医学部・講師	サイトカイン迅速測定による眼炎症性疾患オーダーメイド医療の開発	オーダーメイド医療および医療機器開発
遠藤 仁司	医学部・教授	がんミトコンドリア異常の網羅的解析による創薬標的の同定	がんにおけるミトコンドリア異常の解明
多胡 憲治	医学部・講師	がん遺伝子産物による炎症シグナル機構の解明	がんと炎症の関連における制御機構の解明
仁木 利郎	医学部・教授	肺がんにおける細胞間ネットワークと病態の関連の解析	がんと周囲環境ネットワーク機構の解明・臨床データベース構築
安田 是和	医学部・教授	NASH から肝臓がんに至る細胞間ネットワーク解析	がんと周囲環境ネットワーク機構の解明・臨床データベース構築
鈴木 光明	医学部・教授	婦人科がんの播種・転移・再発機構の解明	がんの浸潤・転移・進展機構の解明
山本 博徳	医学部・教授	消化管におけるがんや炎症性疾患の病態解析	がんと慢性炎症機構の解明・メタゲノム解析・臨床データベース構築
川上 潔	医学部・教授	歯周組織幹細胞の発生・分化・再生機構の解明	幹細胞の分化・再生機構の解明
花園 豊	医学部・教授	大型動物を用いたヒト造血システムの構築と解析	幹細胞を用いた再生医療の開発、モデル動物開発と前臨床試験
大森 司	医学部・准教授	iPS・間葉系幹細胞を用いた出血性疾患に対する新規治療法の開発	幹細胞を用いた再生医療の開発

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

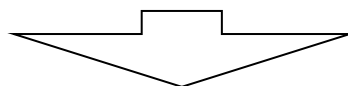
研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
小澤 敬也	医学部・客員教授	キメラ抗原受容体を利用した新規養子免疫遺伝子療法の確立	新規養子免疫療法の開発と有効性のメカニズム解明
黒尾 誠	医学部・教授	慢性腎臓病における慢性炎症の分子機構の解明	慢性炎症の分子機構の解明
西村 智	医学部・教授	生体分子イメージング法の開発とこれを利用した心血管病の病態解明	新規生体分子イメージング法の開発
(共同研究機関等) 浦野 泰照	東京大学・教授	蛍光・発光プローブの開発	新規診断技術・医療機器開発
濡木 理	東京大学・教授	同定標的因子における分子高次構造の決定	分子標的治療薬の開発
黒田 雅彦	東京医科大学・教授	がんにおけるmicroRNA異常の解析と間質への作用の解明	microRNA によるがん・炎症の病態解明と治療への応用
本田 賢也	理化学研究所	がん・生活習慣病におけるメタゲノム解析	メタゲノム解析
間野 博行	東京大学・教授	がんと周囲環境のクロストークにおけるゲノム解析	がんと周囲環境ネットワーク機構の解明・がん領域まとめ

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧(所属変更)

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
慢性腎臓病における慢性炎症の分子機構の解明	テキサス大学・教授	黒尾 誠	慢性炎症の分子機構の解明

(変更の時期:平成 25 年 10 月 1 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
テキサス大学・教授	自治医科大学・医学部・教授	黒尾 誠	慢性炎症の分子機構の解明

新(追加)

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
東京大学 TSBMI 特任准教授	医学部・教授	西村 智	新規生体分子イメージング法の開発

(追加の時期:平成 25 年 8 月 15 日)

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

旧(減員)

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
低酸素ストレス環境におけるがんの浸潤・転移機構の解明	医学部・教授	穂積 康夫	がんの浸潤・転移・進展機構の解明・臨床データベース構築

(変更の時期:平成 25 年 9 月 30 日)

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

11 研究進捗状況(※ 5枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

生体にとって基本的な制御ネットワークの一つであるストレス応答の破綻が、がんや生活習慣病、心血管病といった非感染性疾患(NCD)を引き起こすことが明らかとなってきた。これまで、自治医科大学ではがんや炎症、生活習慣病を中心として、NCD に関連する数多くの先駆的な研究が行われており、国内外から高い評価を得ている。そこで、本プロジェクトでは、生体ストレスによるネットワーク恒常性維持の破綻からNCD発症に至る機構の解明を分子レベルで遂行するとともに、新たな治療標的分子やバイオマーカーの同定から、創薬を標的とする生体バイオイメージングシステムによる新規治療・診断法の開発と実用化など、イノベーション促進を視野に入れたトランスレーショナル・リサーチへと展開することで、世界のNCD研究における基礎・臨床連携研究拠点の形成を目指す。

(2) 研究組織

1. 研究代表者の役割

研究代表者は、本プロジェクトに参加する基礎・臨床計23グループの研究主導を行い、グループ間の協力・分担・連携の統括を行っている。

2. 各研究者の役割分担や責任体制の明確さ

研究代表者の下、「慢性炎症」と「がん・幹細胞」の2つの研究領域を中心に、基礎・臨床研究グループを有機的に配置し、トランスレーショナル・リサーチが展開可能な組織を構築した。各研究領域の実施リーダーとして、高橋将文(炎症・免疫研究部)と古川雄祐(幹細胞制御研究部)を置き、参加研究グループや各領域の連携を強化している。各研究者は、それぞれの専門性の上にNCDにおけるストレス応答や生体ネットワークの視点を据えた研究を実施し、成果をあげる。また、各研究領域の実施リーダーが、研究の進捗状況や共同研究の定期的な確認と評価を行う。

3. 研究プロジェクトに参加する研究者の人数

本プロジェクトの遂行のため、計74名の研究者(主な研究者23名を含む)が参加している。

4. 大学院生・PD及びRAの人数・活用状況

大学院生 17名、PD 6名、RA 17名(延べ55名)が本研究プロジェクトに参加している。

5. 研究チーム間の連携状況

トランスレーショナル・リサーチ実施に向けた基礎・臨床の連携および共同研究が行われている。

6. 研究支援体制

学長が本研究プロジェクトの研究代表者となっていることから、大学本部からの支援を受け、分子病態治療研究センター、実験医学センター、研究支援課、大学リニューアル推進室、研究代表者・参加者が協力し、全学一致した体制で本研究プロジェクトを推進している。

7. 共同研究機関等との連携状況

テキサス大学や東京大学、東北大学、広島大学、信州大学、明治大学、北里大学等、国内外の研究機関と数多くの共同研究が実施されている。

(3) 研究施設・設備等

自治医科大学 NCD 研究拠点として、既存の大学施設(教育・研究棟: 15,893m²)を中心に、実験医学センター(4,503m²)を 74 名の研究者と 55 名の大学院生・PD・RA が利用している。また、研究設備については、FACS Aria セルソーター(255 時間)、生体ネットワーク再現システム(400 時間)、生体ネットワーク観察システム(339 時間)、生体ネットワーク構成細胞分離システム(37.5 時間)、ゲノム・エピゲノム解

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

析システム(784 時間)、炎症関連タンパク質解析システム(480 時間)を整備・利用している。

(4)進捗状況・研究成果等 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

<現在までの進捗状況及び達成度>

1. 自治医科大学 NCD 研究拠点の形成のための研究システム導入による基盤整備を行い、実験研究を開始した。
2. 平成 27 年 7 月 6 日に公開シンポジウムを実施し、参加研究グループの成果を発表するとともに当該領域を代表する外部研究者による特別講演を行って、外部からの評価を受けた。また、参加研究グループによる定期的な成果発表会を実施しており、本プロジェクトのさらなる推進のために研究グループ同士の交流を深めている。
3. 「慢性炎症」と「がん・幹細胞」の2つの研究領域を中心に、基礎・臨床研究グループを有機的に配置した研究組織を構築した。各研究グループは、それぞれの専門性の上にNCDにおけるストレス応答や生体ネットワークの視点を据えた研究を開始している。これまで数多くの原著論文を発表し、着実な成果をあげていることから、おおむね目標を達成している。
4. 本プロジェクトの前半期間における特筆すべき成果として、慢性炎症領域では、新規の炎症制御機構の解明や新規コレステロールエステル水解酵素の発見、オキシトシンの抗肥満・糖尿病作用や社会異常行動での役割解明、ゲノムワイド関連解析による新規遺伝子の同定、形態と機能を融合させた生体分子イメージング法の確立などがある。一方、がん・幹細胞領域では、多発性骨髄腫における抗がん剤耐性の新規エピジェネティック機構の解明やミトコンドリア遺伝子分配制御因子の発見、ヒツジ胎仔を利用したヒト造血幹細胞評価系の確立などがある。さらに、実際のトランスレーショナル・リサーチとして、難治性悪性リンパ腫に対する養子免疫遺伝子療法の臨床試験も開始している。
5. いくつかの研究グループでは本プロジェクトを基盤とした共同研究が行われており、基礎と臨床におけるトランスレーショナル・リサーチも開始されている。

<特に優れた研究成果>

【慢性炎症領域】

1. 代表的な NCD である 心血管病や生活習慣病における新規自然炎症経路インフラマソームの役割を解明した(*論文 3,4,6,7,24)。また、その 構成分子 NLRP3 がインフラマソームとは独立した機能により新たな炎症制御機構に寄与していることを明らかにした(*論文 2,5,22)。
2. 新規コレステロールエステル水解酵素 NCEH1 を同定し、これがマクロファージにおける主要な水解酵素であること(*論文 107)、その 欠損により酸化コレステロール負荷による小胞体ストレスが惹起され、アポトーシスが誘導されることを報告した(*論文 106)。
3. 神経ペプチド産生ニューロンを選択的に破壊する方法を開発し、これを利用して オキシトシン産生ニューロンを賦活化する生理的刺激や薬物を同定した(*論文 69)。また、オキシトシンの抗肥満・糖尿病作用および社会記憶の促進作用などを見出した(*論文 49,50,72,74)。
4. ゲノムワイド関連解析によって血清脂質および内臓脂肪蓄積に関連する 新規遺伝子 TRIB1 および GIP をそれぞれ同定し、非アルコール性脂肪肝や肥満の病態に寄与することを報告した(*論文 87,90,91)。一部は関連企業と共同で特許申請を行った。
5. 慢性腎臓病のバイオマーカーおよび起因物質としての新規カルシプロテイン粒子(CPP)の重要性を明らかにするとともに、その高感度測定法を新たに確立し、特許出願を行った。
6. 形態と機能を融合させた生体分子イメージング法を開発し、これを利用して 血栓止血反応に伴随する急性炎症・組織修復過程、血小板造血に関する新たな分子機構を同定した(*論文 364)。また、リゾリン

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

脂質合成酵素 ENPP2 の肥満・代謝性疾患での役割についても解明し(*論文 366)、循環器や代謝臓器、免疫細胞など、様々な細胞・組織・臓器における生体イメージングの可能性を示した。なお、本業績により、本年度のみで 10 件の学会賞を受賞しており、本研究成果は対外的にも非常に高く評価されている。

【がん・幹細胞領域】

1. 多発性骨髄腫では、骨髄間質細胞との接着によって骨髄腫細胞に抗がん耐性が賦与されることを示し(*論文 310)、この抗がん剤耐性(接着耐性)に関するエピジェネティック機構を初めて明らかにした(*論文 303)。また、この耐性獲得のエフェクター分子として、EZH2 およびその転写標的遺伝子である IGF-1、BCL-2、HIF-1 を同定した。
2. ミトコンドリア遺伝子の分配という機能を初めて提示し、ミトコンドリアヌクレオイド因子 TFAM が中心的な役割を担うことを報告した(*論文 281)。また、新規のがん関連小脳変性症の自己抗原として、クレアチニンキナーゼ B を同定した(*論文 276)。さらに、ES 細胞を用いたノックアウト個体の迅速な作製法も報告した(*論文 280)。これらに関して、日本・米国での特許出願を完了している。
3. ヒツジ胎仔を用いたヒト造血幹細胞評価系(ヒツジ子宮内移植系)を開発し、ヒト造血幹細胞の評価法としての有効性を報告した(*論文 327)。また、この系を用いて、幹細胞増幅因子 HoxB4 の導入がヒト幹細胞の造血再構築能を著明に増加させることを明らかにした。この技術は、すでに特許出願を済ませている。
4. トランスレーショナル・リサーチとして、難治性悪性リンパ腫患者を対象に、キメラ抗原受容体発現 T 細胞 (CAR) を用いた養子免疫遺伝子療法の臨床試験を開始・実施した (NCT02134262 [ClinicalTrials.gov]; 000015617 [UMIN])。今後、有効性・安全性をさらに高めながら臨床応用を進め、標準治療の選択肢の一つとして確立させることを目指す。

<問題点とその克服方法>

慢性炎症領域、がん・幹細胞領域とも、NCD 研究の視点に立って様々な研究プロジェクトを進めている点の特徴であるが、焦点が絞られていないことが問題点にもなっている。今後、各領域の実施リーダーが中心となって、研究の焦点を明確にしていくとともに、各グループの連携をさらに強化していく必要がある。各研究領域での具体的な問題点とその克服方法については以下のものがある。

【慢性炎症領域】

1. 炎症およびインフラマソーム活性化における細胞・組織・臓器ネットワークや時間軸での役割の解明が不十分である。これを克服するため、Cre-loxP システムと薬剤誘導性遺伝子改変技術を用いて、インフラマソーム構成分子の時空間的制御マウスを作製している。
2. 新規に同定した NCEH1 の病態における役割が明らかではないことから、NCEH1 と ACAT1 をはじめとするいくつかのコレステロール代謝酵素のダブル遺伝子改変マウスを作製し、病態におけるコレステロール代謝や動脈硬化・脂肪肝の形成について解析を行う。
3. 次世代シーケンサーを用いたゲノムワイド関連解析を大規模な集団で実施するには、コストが大きな障壁となる。これを克服するために、現在、東北メディカルメガバンクと共同研究事業を立ち上げており、今後、日本人のための一塩基多型 (SNP) タイピングアレイ (ジャポニカアレイ) を用いて疑似フルシーケンスを開始するところである。
4. 従来の CPP 測定法は感度が低く、動物実験には使用できなという欠点があった。今回、新たに開発した測定法 (特許出願済み) は高感度で動物種を選ばないことから、様々な動物モデルを用いて本測定法を検証していくとともに、ヒト臨床検体の測定を進める。
5. 形態と機能を融合させた生体分子イメージング法の開発には、新たな顕微鏡基盤技術が必要である。

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

このことから、国内外の光学機器メーカーや共同研究者を含め、多くの領域から要素技術を募り、研究開発を推進していく。

【がん・幹細胞領域】

1. 多発性骨髄腫における抗がん剤耐性獲得で同定したエフェクター分子のうち、どれが創薬シーズとなるかが明らかではない。今後、個々の機能解析を進め、創薬シーズの可能性を明らかにする。
2. ミトコンドリア遺伝子分配の生体内における役割を解析する遺伝子改変マウスを作製し、がんの発生・増殖・進展とミトコンドリア遺伝子の不安定性との関連を検証していく。
3. ヒト/ヒツジ造血キメラ率が低いことが課題となっている。これを克服するため、移植前処置によるヒト細胞の生着スペースの拡張、グラフトへの各種幹細胞増幅因子の導入、ヒト幹細胞因子の移植後処置による選択的な造血増幅を試みる。
4. CARを用いた養子免疫遺伝子療法の治療効果をさらに改善するため、CRISPR/Cas9システムを用いた方法を検討する。また、臨床試験における参加患者のリクルートのため、多くの医療機関に周知して、本トランスレーショナル・リサーチを推進していく。

<研究成果の副次的効果(実用化や特許の申請など研究成果の活用の見通しを含む。)>

<副次的効果>

本研究事業によって以下の特許申請や取得がなされた。

1. 出願国: 日本、出願番号: 2014-060342、出願人: 花王株式会社、発明名称: 内臓脂肪蓄積感受性の判定方法、出願日: 平成 26 年 3 月 24 日
2. 出願国: 日本、出願番号: 2015-211022、出願人: 矢田俊彦、出崎克也、発明名称: 血糖恒常性を維持するための医薬組成物、出願日: 平成 27 年 10 月 27 日
3. 出願国: 米国、出願番号: US 8,465,913 B2、出願人: Hitoshi Endo and Katsumi Kasashima, Jichi Medical University、発明名称: Mitochondrial function of prohibitin 2 (PHB2)、出願日: June 18, 2013
4. 出願国: 日本、出願番号: 2014-203679、出願人: 遠藤仁司、長尾恭光、花園豊、富永薫、大森司、自治医科大学、発明名称: 多能性幹細胞再樹立法、出願日: 平成 26 年 10 月 2 日
5. 出願国: 日本、出願番号: 5808904、出願人: 遠藤仁司、自治医科大学、発明名称: プロヒビチン2と PGC1 α との結合を用いた脂肪分化調節剤のスクリーニング方法、出願日: 平成 27 年 9 月 18 日(登録)
6. 出願国: 日本、出願番号: 2014-078986、出願人: 自治医科大学、明治大学、発明名称: 遺伝子ノックアウトブタ、出願日: 平成 26 年 4 月 7 日
7. 出願国: 日本、出願番号: 2015-168702、出願人: 自治医科大学、発明名称: 造血系細胞の作製方法、出願日: 平成 27 年 8 月 28 日
8. 出願国: 日本、出願番号: 2015-079186、出願人: 自治医科大学、発明名称: 蛍光プローブを用いた新規カルシウムプロテイン粒子(CPP)測定法、出願日: 平成 27 年 4 月 8 日

メディア報道としては、ヒツジ等の大型動物を用いた再生医療の研究成果に関して、日本経済新聞や読売新聞、下野新聞等で報道された。また、肥満・生活習慣病の研究成果に関して、日本経済新聞や朝日新聞、下野新聞、時事通信等で報道された。

トランスレーショナル・リサーチ等の実用化については、すでに本研究プロジェクトの成果を利用した臨床試験が開始されている。また、今後の臨床応用や実用化が期待されるものとしては、慢性腎不全の重症度を評価するバイオマーカーとしての血中 CPP や遺伝子ノックアウトブタの作製、肥満・生活習慣病に関する各種測定方法や創薬シーズなどがある。

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

<今後の研究方針>

問題点とその克服方法に従って本研究プロジェクトを推進していく。具体的には、NCD の病態基盤となる炎症機構および各疾患に特有の病態(脂質代謝や肥満など)という両面からの解析を行うことで、その分子機構の解明や新たな治療・診断法の開発を目指す。また、現在までに得られている創薬シーズや大動物を利用した幹細胞評価系、生体分子イメージングの技術を前臨床試験や技術イノベーションに繋げていく。さらに、現在行っているトランスレーショナル・リサーチである悪性リンパ腫に対する臨床試験を推進し、この治療法が有効であることを明らかにする。一方、研究グループ同士のみならず、国内外の研究機関や企業との共同研究を積極的に行い、NCD 関連する疾患に対する新規治療・診断法の開発と実用化を目指して研究を行っていく。

<今後期待される研究成果>

- 慢性炎症領域においては、NCD の発症・進展の基盤となる炎症機構の解明や、動脈硬化や肥満、慢性腎臓病といった各 NCD 関連疾患の病態の解明とともに、これら疾患に対する治療標的やバイオマーカー候補の同定が期待される。なかでも、インフラマソームに着目した炎症制御法の開発や慢性腎臓病の病態を反映する CPP のバイオマーカーとしての開発、ジャポニカアレイを用いた新規生活習慣病関連遺伝子の同定などについては、特許申請や将来的な臨床応用に繋がることを期待される。また、神経系と脂肪細胞や肝臓、膵臓などの末梢臓器との臓器間ネットワークの役割も明らかになる。一方、生体イメージング法の開発では、新たな技術革新とともに、生体分子機構のより詳細な可視化が期待され、医学研究のみならず様々な分野で幅広く応用されていくと考えられる。
- がん・幹細胞領域においては、多発性骨髄腫に対する創薬シーズの同定や大動物を用いた造血幹細胞増幅法の確立がなされ、トランスレーショナル・リサーチへの展開が期待される。また、現在実施している難治性悪性リンパ腫への CAR を用いた養子免疫遺伝子療法の前臨床試験では、本疾患に対する標準治療の一つとなる可能性がある。
- 以上の研究により、生体ストレスによるネットワーク恒常性維持の破綻から NCD の発症に至る機構の解明を目指す基礎・臨床連携拠点の構築が期待できる。また、新たな治療標的分子やバイオマーカーの同定、創薬を標的とする生体バイオイメージングシステムによる新規治療・診断法の開発と実用化など、トランスレーショナル・リサーチへの展開も予想されることから、本研究プロジェクトは学術的な重要性のみならず、イノベーションの推進にも貢献することが期待できる。

<プロジェクトの評価体制(自己評価・外部評価を含む。)>

- 国際雑誌への原著論文発表、学会発表および特許申請により、客観的に評価している。また、HPでの情報公開やメディアへの発表などについても、積極的に行っている。
- 研究グループによる成果発表会の定期的な開催により、自己・相互評価を行っている。
- 本プロジェクトに関連する外部専門家に評価を依頼し、その評価結果をフィードバックすることで、今後の研究遂行に役立てる。
- 本プロジェクトの中間報告会を兼ねた公開シンポジウム(平成27年7月)では、他大学からの参加者も多く、活発な議論が行われた。当該領域で国際的に評価の高い招待講演者からも高評価を受けたことから、客観的に評価されたものと考えられる。また、最終報告会を兼ねた公開シンポジウムを平成29年度に実施し、評価を受ける予定である。さらに、本プロジェクトの研究グループが中心となって毎年開催する国際シンポジウムにおいて、国内外の関連する研究者を招聘して研究成果の議論を活発に行っている。

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- (1) 非感染性疾患 (2) 慢性炎症 (3) がん
 (4) 幹細胞 (5) 生活習慣病 (6) 微小環境
 (7) ストレス応答 (8) 生体ネットワーク

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

<雑誌論文>

論文名、著者名、掲載誌名、査読の有無、巻、最初と最後の頁、発表年(西暦)について記入してください(左記の各項目が網羅されていれば、項目の順序を入れ替えても可)。また、現在から発表年次順に遡り、通し番号を付してください。

※別添表参照

<図書>

図書名、著者名、出版社名、総ページ数、発行年(西暦)について記入してください(左記の項目が網羅されていれば、項目の順序を入れ替えても可)。また、現在から発表年次順に遡り、通し番号を付してください。

※別添表参照

<学会発表>

学会名、発表者名、発表タイトル、開催地、発表年月(西暦)について記入してください(左記の項目が網羅されていれば、順序を入れ替えても可)。また、現在から発表年次順に遡り、通し番号を付してください。

※別添表参照

<研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等
 ホームページで公開している場合には、URLを記載してください。

<既に実施しているもの>

自治医科大学 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業シンポジウム2015
 (2015年7月6日 開催)

第10回 自治医科大学国際シンポジウム—Translational Epigenomics—
 (2013年10月17日 開催)

第11回 自治医科大学国際シンポジウム—Inflammation, Cancer and Microenvironment—
 (2014年10月30日 開催)

第12回 自治医科大学国際シンポジウム—Frontiers in Translational Neuroscience—
 (2015年11月20日 開催)

(URL: <http://www.jichi.ac.jp/kenkyushien/strategic/ncd.html>)

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

<これから実施する予定のもの>

自治医科大学 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業シンポジウム 2017
第 13 回、14 回 自治医科大学国際シンポジウム

14 その他の研究成果等

「12 研究発表の状況」で記述した論文、学会発表等以外の研究成果及び企業との連携実績があれば具体的に記入してください。また、上記11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付してください。

※ 論文や学会発表等になじまない研究である場合は、本欄を充実させること

1. 高橋将文 第 35 回日本炎症再生医学会・優秀演題賞
2. 高橋将文 最新医学 Vol.69. No.6 トップランナーに聞く 最先端の医療に挑む若手研究者へのインタビュー 新たな自然炎症経路・インフラマソームの研究(2014 年 6 月 10 日)
3. 矢田俊彦 日本経済新聞 食欲調整酵素のしくみを解明(2015 年 7 月 6 日)
4. 矢田俊彦 日経産業新聞 脳内酵素、食欲を低減、副作用少ない薬開発に光、自治医大など仕組み解明(2015 年 7 月 6 日)
5. 矢田俊彦 下野新聞 肥満・糖尿病治療に光、ラットでメカニズム解明、脳内物質が内蔵脂肪減(2013 年 10 月 9 日)
6. 矢田俊彦 朝日新聞 インスリン新たな経路発見(2013 年 7 月 15 日)
7. 矢田俊彦 日本工業新聞 膵臓分泌のインスリン、神経経路で脳に情報—自治医大が発見—(2013 年 6 月 28 日)
8. 矢田俊彦 時事通信 膵臓神経から脳へ=インスリン感知に新ルート—増強剤で肥満治療も—(2013 年 6 月 27 日)
9. 花園豊 日経産業新聞 難病克服へ iPS 活用 大型動物で再生医療研究(2015 年 2 月 10 日)
10. 花園豊 日本経済新聞 万能細胞受精卵に近づく 培養容易に実用化へ一歩(2014 年 11 月 23 日)
11. 花園豊 日本経済新聞 「臓器工場」実用化へ動く 動物の体内で人間の臓器を作る(2014 年 8 月 4 日)
12. 花園豊 下野新聞 「ヒト型」を「マウス型」に 培養、分化能力に違い(2014 年 1 月 31 日)
13. 花園豊 日本経済新聞 iPS 細胞の正体に迫る がん化と紙一重、謎多く(2013 年 12 月 22 日)
14. 花園豊 読売新聞 豚使う細胞実験容易に センター増設手術支援ロボも(2013 年 12 月 6 日)
15. 花園豊 日経北関東経済面 再生医療拠点を強化 ブタ用手術ロボ導入(2013 年 12 月 6 日)
16. 花園豊 時事通信社 免疫不全ブタ、半年で作製=再生医療研究を促進—明治大など(2013 年 10 月 10 日)
17. 花園豊 日本経済新聞 再生医療研究に力 北関東の中核拠点めざす(2013 年 9 月 7 日)
18. 花園豊 日本経済新聞 iPS 細胞から赤血球 輸血・貧血向け製剤(2013 年 8 月 27 日)
19. 花園豊 下野新聞 ヒツジから膨らむ想像(2013 年 8 月 26 日)
20. 花園豊 下野新聞 動物体内でヒト血液 iPS 研究本県でも進む(2013 年 8 月 20 日)
21. 花園豊 iPS 細胞が拓く新しい医療:現状と課題 平成 25 年度自治医科大学公開講座(下野)(2013 年 7 月 13 日)
22. 花園豊 下野新聞 iPS 実用化へ5拠点 技術開発、自治医大に支援(2013 年 7 月 3 日)
23. 黒尾誠 アステラス製薬(株)との共同研究契約「急性腎障害および慢性腎臓病の新規創薬標的としての Klotho-FGF 内分泌系」

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

24.	<u>西村智</u>	NHK これが体の新常識 動画提供(2016年3月23日)
25.	<u>西村智</u>	可視化情報全国講演会 ベストプレゼンテーション賞[仙台](2015年10月10日)
26.	<u>西村智</u>	サイトメトリ学会 最優秀発表賞[東京](2015年7月11日)
27.	<u>西村智</u>	動脈硬化学会 優秀ポスター賞[仙台](2015年7月10日)
28.	<u>西村智</u>	花王研究奨励賞「表面の科学」医学・生物学分野[東京](2015年6月5日)
29.	<u>西村智</u>	NHK ニュース報道及び下野新聞 血小板急増仕組み発見(2015年5月11日)
30.	<u>西村智</u>	TV朝日「モーニングバード」画像提供(2015年3月9日)
31.	<u>西村智</u>	総合健診医学会第43回学術大会長奨励賞[富山](2015年2月20日)
32.	<u>西村智</u>	第9回日本免疫学会研究奨励賞(2014年12月11日)
33.	<u>西村智</u>	第75回日本血液学会学術集会奨励賞[大阪](2014年10月31日)
34.	<u>西村智</u>	TV朝日「ワイド!スクランブル」画像提供(2014年8月5日)
35.	<u>西村智</u>	NHK出版 人体ミクロの大冒険ビジュアル版 細胞のミラクルワールド画像提供(2014年7月25日)
36.	<u>西村智</u>	Royal Microscopy Society 2014 Scientific Imaging Competition, Short Video, 1st prize (2014年6月30日)
37.	<u>西村智</u>	Milwaukee, SSC 2014 Best Oral Award(2014年6月23日)
38.	<u>西村智</u>	TV朝日「モーニングバード」画像提供(2014年5月26日)
39.	<u>西村智</u>	NHK「TVスペシャル人体ミクロの大冒険細胞」画像提供・出演(2014年3月29日及び2014年4月6日)
40.	<u>西村智</u>	TV朝日「モーニングバード」画像提供(2014年2月13日)
41.	<u>西村智</u>	NHK「健康診断スペシャル チョイス病気になった時」画像提供(2014年1月11日)
42.	<u>西村智</u>	最新医学 Vol.68.No.11 トップランナーに聞く 最先端の医療に挑む若手研究者へのインタビュー 蛍光で見る動物の神秘(2013年11月10日)
43.	<u>西村智</u>	日刊工業新聞 News ウェーブ 21「東大、脂肪組織炎症の原因解明ー肥満で免疫細胞が減少」(2013年10月25日)
44.	<u>西村智</u>	薬事日報「制御性 B 細胞、脂肪組織の炎症抑制ーメタボ治療への応用に期待」(2013年10月25日)

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

15 「選定時」に付された留意事項とそれへの対応

<「選定時」に付された留意事項>

留意事項が付されていない場合は「該当なし」と記載してください。

組織に、連携を計る名目的でない実施リーダーが必要ではないか。

<「選定時」に付された留意事項への対応>

付された留意事項に対し、どのような対応策を講じ、また、それにより、どのような成果があがったか等について、詳細に記載してください。

留意事項として、組織体制についての指摘をいただき、研究代表者である学長の下に実施リーダーとして、慢性炎症領域では高橋将文(炎症・免疫研究部)、がん・幹細胞領域では古川雄祐(幹細胞制御研究部)の2名を配置した。この2名の実施リーダーが、各研究参加グループの定期的な進捗状況の確認や、基礎と臨床における共同研究の橋渡しなど、本研究プロジェクトのハブ的な役割を果たし、参加研究グループおよび各研究領域の連携を強化している。また、定期的な成果発表会、中間・最終報告のためのシンポジウム等についても、この2名が中心となって企画・運営しており、本研究プロジェクトの効率的な運営に大きく貢献している。

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備考
		法人負担	私学助成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他()	
平成25年度	施設	0						
	装置	72,639	38,147	34,492				
	設備	153,846	51,281	102,565				
	研究費	50,000	27,059	22,941				
平成26年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	50,000	25,717	24,283				
平成27年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	50,000	25,448	24,552				
総額	施設	0	0	0	0	0	0	
	装置	72,639	38,147	34,492	0	0	0	
	設備	153,846	51,281	102,565	0	0	0	
	研究費	150,000	78,224	71,776	0	0	0	
総計	376,485	167,652	208,833	0	0	0		

※ 3年目(または2年目)は予定額。

17 施設・装置・設備の整備状況 (私学助成を受けたものはすべて記載してください。)

《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)(千円)

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
自治医科大学NCD 研究拠点	平成23年度	15,893m ²	189	65	0	0	

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

m²

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)

(千円)

装置・設備の名称	整備年度	型番	台数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置) BD FACS Aria セル ソーター	平成25年度	656700G2	1	255 h	72,639	34,492	私学助成
(研究設備) 生体ネットワーク再現 システム	平成25年度	BR-180LF BZ-9000	1	400 h	30,681	20,454	私学助成
生体ネットワーク観察 システム	平成25年度	651155	1	339 h	39,112	26,075	私学助成
生体ネットワーク構成 細胞分離システム	平成25年度	655490-01 FSX100-PCSET-2	1	37.5 h	26,575	17,717	私学助成
ゲノム・エピゲノム解析 システム	平成25年度	186-3003JA VIIA7-09	1	784 h	24,057	16,038	私学助成
炎症関連タンパク質解 析システム	平成25年度	ZEN5600	1	480 h	33,421	22,281	私学助成
(情報処理関係設備)				h			

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

18 研究費の支出状況

(千円)

年 度	平成 25 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消耗品費	35,711	研究用消耗品	35,711	試薬(18,749)、器具(7,245)、実験動物(2,036)、その他(7,681)
光熱水費				
通信運搬費、論文投稿関係	618	運搬費、論文投稿料	486	試料運搬費、論文投稿料
印刷製本費	121	印刷費	121	論文別刷費用
旅費交通費	778	学会参加旅費	778	研究学会参加旅費
報酬・委託料	3,340	校正料、研究委託費用	3,472	論文英文校正料、遺伝子解析、DNAシーケンス解析委託費用
雑費	108	参加費	108	学会参加費
修繕費	58	研究機器修繕費	58	キルソビヘッドマン修理費用
()				
計	40,734		40,734	
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)	4,660	研究補助	4,660	時給 820円, 年間時間数 2,280時間 実人数 4人 時給 950円, 年間時間数 715時間 実人数 1人
教育研究経費支出				
計	4,660		4,660	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	4,606		4,606	ハイパーサー(221)、液体窒素容器(340) iBlot GEL TRANSFER DEVICE(143) マルチガスインキュベーター(798)、冷却遠心機(429) 高解像度画像解析システム(2,675)
図 書				
計	4,606		4,606	
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント	13,020	インフラマソームの病態の解明 菌根膜細胞の解析	11,952	学内3人 学内1人
		視床下部神経の解析	598	学内1人
		視床下部神経の解析	470	学内1人
ポスト・ドクター	7,880	インフラマソームの病態の解明 造血管細胞の移植実験	3,227	学内1人 学内1人
		Nesfatim-1の代謝・循環調節における役割	1,474	学内1人
			3,179	学内1人
研究支援推進経費				
計	20,900			学内8人

年 度	平成 26 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消耗品費	29,747	研究用消耗品	29,747	試薬(18,069)、器具(5,301)、実験動物(1,770)、その他(4,607)
光熱水費				
通信運搬費、論文投稿関係	418	運搬費、論文投稿料	343	試料・実験動物運搬費、論文投稿料
印刷製本費	254	印刷費	254	論文別刷費用
旅費交通費	471	学会参加旅費	471	学会・研究会参加旅費
報酬・委託料	4,189	研究委託費用	4,264	DNAシーケンス解析・RNA抽出委託費用
雑費	191	参加費	191	学会参加費
修繕費	461	研究機器修繕費	461	リサーチ-修理費用
()				
計	35,731		35,731	
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)	7,684	研究補助	7,684	時給 820円, 年間時間数 5,273時間 実人数 7人 時給 950円, 年間時間数 1,749時間 実人数 4人
教育研究経費支出				
計	7,684		7,684	

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311029

設備関係支出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	6,585		6,585	遠心機(846)、超低温槽(3,365)、サーモスター(261) 実験専用作業台(999)、オートクレーブ(540) E1-ClipTip(124)、ライトサイクラー用無停電電源装置(249) ハンディ型自動セルカウンター(201)
図書				
計	6,585			
研究スタッフ関係支出				
リサーチ・アシスタント	3,785	インフラマソームの病態の解明	2,042	学内4人
		造血管細胞の移植実験	548	学内1人
		歯根膜細胞の解析	598	学内1人
		視床下部神経の解析	598	学内1人
ポスト・ドクター	15,678	インフラマソームの病態の解明	3,227	学内1人
		造血管細胞の移植実験	6,374	学内2人(H27.4.1付助教採用者 1名)
		血栓止血のイメージング	2,877	学内1人(H27.4.1付助教採用者 1名)
		Nesfabin-1の代謝・循環調節における役割	3,200	学内1人
研究支援推進経費				
計	19,463			学内12人

年度	平成 27 年度			
小科目	支出額	積算内訳		
		主な用途	金額	主な内容
教育研究経費支出				
消耗品費	31,337	研究用消耗品	31,337	試薬(17,239)、器具(7,998)、実験動物(1,591)、その他(4,509)
光熱水費				
通信運搬費、論文投稿関係	727	運搬費、論文投稿料	727	試料・実験動物運搬費、論文投稿料
印刷製本費	177	印刷費	177	論文別刷費用
旅費交通費	653	学会参加旅費	653	学会・研究会参加旅費
報酬・委託料	5,667	研究委託費用	4,933	解析委託費、英文校正費、研究機器保守料
雑費	109	参加費	109	学会・研究会 参加費
()				
計	38,670			
アルバイト関係支出				
人件費支出 (兼務職員)	7,340	研究補助	7,339	時給 830円, 年間時間数 1,760時間 実人数 1人 時給 960円, 年間時間数 2,759時間 実人数 6人
教育研究経費支出				
計	7,340			

設備関係支出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	3,990			レボゴ超低温槽(1,663)、液体窒素保存容器(500) 低温器具乾燥機(327) 超微量分光光度計(913) SimpliAmpサーマルサイクラー(587)
図書				
計	3,990			
研究スタッフ関係支出				
リサーチ・アシスタント	4,631	インフラマソームの病態の解明	1,793	学内3人
		造血管細胞の移植実験	598	学内1人
		歯根膜細胞の解析	598	学内1人
		造血・血栓のイメージング研究	498	学内1人
		視床下部神経の解析	1,145	学内2人
ポスト・ドクター	3,214	インフラマソームの病態の解明	3,214	学内1人
研究支援推進経費				
計	7,845			学内9人

1 3 研究発表の状況（研究論文等公表状況。印刷中も含む。）

《 雑 誌 論 文 》

（部門名）炎症・免疫研究部

査読の有無	通し番号	
有	論文1	Kimura H, Usui F, Karasawa T, Kawashima A, Shirasuna K, Inoue Y, Komada T, Kobayashi M, Mizushina Y, Kasahara T, Suzuki K, Iwasaki Y, Yada T, Caturegli P, <u>Takahashi M</u> . Immunoproteasome LMP7 deficiency improves obesity and metabolic disorders. <i>Sci Rep</i> 5: 15883, 2015
有	*論文2	Shirasuna K, Karasawa T, Usui F, Kobayashi M, Komada T, Kimura H, Kawashima A, Ohkuchi A, Taniguchi S, <u>Takahashi M</u> . NLRP3 deficiency improves angiotensin II-induced hypertension but not fetal growth restriction during pregnancy. <i>Endocrinology</i> 156: 4281-4292, 2015
有	*論文3	Komada T, Usui F, Kawashima A, Kimura H, Karasawa T, Inoue Y, Kobayashi M, Mizushina Y, Kasahara T, Taniguchi S, Muto S, Nagata D, <u>Takahashi M</u> . Role of NLRP3 inflammasomes for rhabdomyolysis-induced acute kidney injury. <i>Sci Rep</i> 5: 10901, 2015
有	*論文4	Karasawa T, Kawashima A, Usui F, Kimura H, Shirasuna K, Inoue Y, Komada T, Kobayashi M, Mizushina Y, Sagara J, <u>Takahashi M</u> . Oligomerized CARD16 promotes caspase-1 assembly and IL-1 β processing. <i>FEBS Open Bio</i> 5: 348-356, 2015
有	*論文5	Mizushina Y, Shirasuna K, Usui F, Karasawa T, Kawashima A, Kimura H, Kobayashi M, Komada T, Inoue Y, Mato N, Yamasawa H, Latz E, Iwakura Y, Kasahara T, Bando M, Sugiyama Y, <u>Takahashi M</u> . NLRP3 protein deficiency exacerbates hyperoxia-induced lethality through Stat3 protein signaling independent of interleukin-1beta. <i>J Biol Chem</i> 290: 5065-5077, 2015
有	*論文6	Usui F, Shirasuna K, Kimura H, Tatsumi K, Kawashima A, Karasawa T, Yoshimura K, Aoki H, Tsustui H, Noda T, Sagara J, Taniguchi S, <u>Takahashi M</u> . Inflammasome activation by mitochondrial oxidative stress in macrophages leads to the development of angiotensin II-induced aortic aneurysm. <i>Arterioscler Thromb Vasc Biol</i> 35: 127-136, 2015
有	*論文7	Shirasuna K, Usui F, Karasawa T, Kimura H, Kawashima A, Mizukami H, Ohkuchi A, Nishimura S, Sagara J, Noda T, Ozawa K, Taniguchi S, <u>Takahashi M</u> . Nanosilica-induced placental inflammation and pregnancy complications: Different roles of the inflammasome components NLRP3 and ASC. <i>Nanotoxicology</i> 9: 554-567, 2015
有	論文8	<u>Takahashi M</u> . Role of innate immune system in inflammation and cardiac remodeling after myocardial infarction. <i>Curr Vascular Pharm</i> (in press)
有	論文9	Usui F, Kobayashi M, <u>Takahashi M</u> . Letter regarding article “Inhibition of interleukin-1beta decrease aneurysm formation and progression in murine model of thoracic aortic aneurysm”. <i>Circulation</i> 131: e399, 2015
有	論文10	Inoue Y, <u>Takahashi M</u> . Comment on “Radiation exposure induces inflammatory pathway activation in immune cells”. <i>J Immunol</i> 194: 5039, 2015
有	論文11	Karasawa T, <u>Takahashi M</u> . Letter regarding article “Anti-inflammatory and anti-atherogenic effects of the inflammasome NLRP3 inhibitor, arglabin, in ApoE2.Ki mice fed a high fat diet” <i>Circulation</i> 131: 132, 2015
有	論文12	Inoue Y, Sadatomo A, <u>Takahashi M</u> . Role of NLRP3 inflammasomes in hepatic ischemia-reperfusion injury. <i>Inflammation and Regeneration</i> 35: 61-68, 2015

有	論文13	Kimura H, Caturegli P, <u>Takahashi M</u> , Suzuki K. New insights into the function of the immunoproteasome in immune and non-immune cells. J Immunol Res (in press)
有	論文14	Karasawa T, <u>Takahashi M</u> . RIP140 as a novel therapeutic target in the treatment of atherosclerosis. J Mol Cell Cardiol 81: 136-138, 2015
有	論文15	<u>Takahashi M</u> . High-mobility group box 1 protein in myocardial infarction: Should it be stimulated or inhibited? J Atheroscler Thromb 22: 553-554, 2015
有	論文16	Gautam M, Fujita D, Kimura K, Ichikawa H, Izawa A, Hirose M, Kashihara T, Yamada M, <u>Takahashi M</u> , Ikeda U, Shiba Y. Transplantation of adipose-tissue-derived stem cells improves cardiac contractile function and electrical stability in a rat myocardial infarction model. J Mol Cell Cardiol 81: 139-149, 2015
有	論文17	Kadoya H, Sato M, Sasaki T, Taniguchi S, <u>Takahashi M</u> , Kashihara N. Excess aldosterone is a critical danger signal for inflammasome activation in the development of renal fibrosis in mice. FASEB J 15-271734, 2015
有	論文18	Okada A, Kashima Y, Tomita T, Takeuchi T, Aizawa K, <u>Takahashi M</u> , Ikeda U. Characterization of cardiac oxidative stress levels in patients with arterial fibrillation. Heart Vessels (in press)
有	論文19	Nagayama S, Ohkuchi A, Shirasuna K, Takahashi K, Suzuki H, Hirashima C, Sakata A, Nishimura S, <u>Takahashi M</u> , Matsubara S. The frequency of peripheral blood CD4+Fox3+ regulatory T cells in women with preeclampsia and those with high risk factors for preeclampsia. Hypertens Preg (in press)
有	論文20	Yano K, Yasuda H, Takaoka K, <u>Takahashi M</u> , Nakamura H, Imai Y, Wakitani S. Fate, origin and roles of cells within free bone grafts. J Orthop Sci 20: 390-396, 2015
有	論文21	Hara K, Shirasuna K, Usui F, Karasawa T, Kimura H, Kawashima A, Ohkuchi A, Matsuyama S, Kimura K, <u>Takahashi M</u> . IFNT attenuates uptake of nanoparticle and secretion of interleukin-1beta in macrophages. PLoS One 9: e113974, 2014
有	*論文22	Inoue Y, Shirasuna K, Kimura H, Usui F, Kawashima A, Karasawa T, Tago K, Dezaki K, Nishimura S, Sagara J, Noda T, Iwakura Y, Tsutsui H, Taniguchi S, Yanagisawa K, Yada T, Yasuda Y, <u>Takahashi M</u> . NLRP3 regulates neutrophil function and contributes to hepatic ischemia-reperfusion injury independently of inflammasomes. J Immunol 192: 4342-4351, 2014
有	論文23	Ishizuka Y, Nakayama K, Ogawa A, Makishima S, Boonvist S, Hirao A, Iwasaki Y, Yada T, Yanagisawa Y, Miyashita H, <u>Takahashi M</u> , Iwamoto S. TRIB1 down-regulates hepatic lipogenesis and glycogenesis via multiple molecular interactions. J Mol Endocrinol 52: 145-158, 2014
有	*論文24	Komada T, Usui F, Shirasuna K, Kawashima A, Kimura H, Karasawa T, Nishimura S, Sagara J, Noda T, Taniguchi S, Muto S, Nagata D, Kusano E, <u>Takahashi M</u> . ASC in renal collecting duct epithelial cells contributes to inflammation and injury after unilateral ureteral obstruction. Am J Pathol 184: 1287-1298, 2014
有	論文25	Motoki H, Koyama J, Aizawa K, Koshikawa M, Kasai H, Izawa A, Tomita T, Kumazaki S, <u>Takahashi M</u> , Ikeda U. Impact of azelnidipine and amlodipine on left ventricular mass and longitudinal function in hypertensive patients with left ventricular hypertrophy. Echocardiography 31:1230-1238, 2014
有	論文26	Ninomiya T, Hiraga T, Hosoya A, Ohnuma K, Ito Y, <u>Takahashi M</u> , Ito S, Asashima M, Nakamura H. Enhanced bone-forming activity of side population cells in the periodontal ligament. Cell Transplant 23: 691-701, 2014
有	論文27	Okano T, Wakitani S, Okabe T, <u>Takahashi M</u> , Koike T, Nakamura H. Nucleated cells circulating in the peripheral blood contribute to the repair of osteochondral defects in the early phase of healing. J Tissue Eng Regen Med 8: 414-420, 2014

有	論文28	<u>Takahashi M.</u> NLRP3 inflammasome as a novel player in myocardial infarction. Int Heart J 55: 101-105, 2014
有	論文29	<u>Takahashi M.</u> Letter regarding article “Targeting interleukin-1 in heart disease”. Circulation 130: e62, 2014
有	論文30	<u>Takahashi M.</u> Reply to letter regarding article “NLRP3 inflammasome as a therapeutic target in myocardial infarction”. Int Heart J 55: 380, 2014
有	論文31	Yamasaki, Hashimoto Y, Takigami J, Terai S, <u>Takahashi M.</u> , Nakamura H. Circulating blood cells contribute to early-phase meniscal healing. J Tissue Eng Regen Med 8: 414-420, 2014
有	論文32	Inoue Y, Yasuda Y, <u>Takahashi M.</u> Role of the inflammasome in inflammatory responses and subsequent injury after hepatic ischemia-reperfusion injury. Hepatology 58: 2212, 2013
有	論文33	Kashima Y, <u>Takahashi M.</u> , Shiba Y, Itano N, Izawa A, Koyama J, Nakayama J, Sagara J, Taniguchi S, Kimata K, Ikeda U. Critical role of hyaluronan in neointimal formation after vascular injury. PLoS One 8: e58760, 2013
有	論文34	Koyama J, Minamisawa A, Aizawa K, Kasai H, Koshikawa M, Izawa A, Tomita T, Miyashita Y, Kumazaki S, <u>Takahashi M.</u> , Ikeda U. Peak systolic velocity of pulmonary venous flow and peak systolic mitral annular velocity are independent predictors of left ventricular global longitudinal strain in patients with cardiomyopathy. Int J Cardiol 168: 5462-5464, 2013
有	論文35	Ninomiya T, Hiraga T, Hosoya A, Ohnuma K, Ito Y, <u>Takahashi M.</u> , Ito S, Asashima M, Nakamura H. Enhanced bone-forming activity of side population cells in the periodontal ligament. Cell Transplant 2013 Feb 5 [Epub ahead of print]
有	論文36	<u>Takahashi M.</u> NLRP3 in myocardial ischemia-reperfusion injury: Inflammasome- dependent or -independent role in different cell types. Cardiovasc Res 99: 4-5, 2013

(部門名) 統合生理学部門

査読の有無	通し番号	
有	論文37	Fujitsuka N, Asakawa A, Morinaga A, Amitani MS, Amitani H, Katsuura G, Sawada Y, Sudo Y, Uezono Y, Mochiki E, Sakata I, Sakai T, Hanazaki K, <u>Yada T.</u> Yakabi K, Sakuma E, Ueki T, Niijima A, Nakagawa K, Okubo N, Takeda H, Asaka M, Inui A. Increased ghrelin signaling prolongs survival in mouse models of human aging through activation of sirtuin1. Mol Psychiatry Feb 2, 2016 [Epub ahead of print]
有	論文38	Taguchi M, Dezaki K, Koizumi M, Kurashina K, Hosoya Y, Lefor AK, Sata N, <u>Yada T.</u> Total gastrectomy-induced reductions in food intake and weight are counteracted by rikkunshito by attenuating glucagon-like peptide-1 elevation in rats. Surgery 159(5): 1342-1350, 2016
有	論文39	Kimura H, Usui F, Karasawa T, Kawashima A, Shirasuna K, Inoue Y, Komada T, Kobayashi M, Mizushina Y, Kasahara T, Suzuki K, Iwasaki Y, <u>Yada T.</u> Caturegli P, Takahashi M. Immunoproteasome subunit LMP7 Deficiency Improves Obesity and Metabolic Disorders. Scientific Reports, 2015 [Epub ahead of print]
有	論文40	Nakata M, Yamamoto S, Okada T, Darambazar G, Okano H, Ozawa K, <u>Yada T.</u> IL-10 gene transfer upregulates arcuate POMC and ameliorates hyperphagia, obesity and diabetes by substituting for leptin. Int J Obes (Lond) 2015. [Epub ahead of print]
有	論文41	Kurashina T, Dezaki K, Yoshida M, Rita RS, Ito K, Taguchi M, Miura R, Tominaga M, Ishibashi S, Kakei M, <u>Yada T.</u> The β -cell GHSR and downstream cAMP/TRPM2 signaling account for insulinostatic and glycemic effects of ghrelin. Scientific Reports 5: 14041, 2015 [Epub ahead of print]

有	論文42	Suyama S, Kodaira-Hirano M, Otgon-Uul Z, Ueta Y, Nakata M, <u>Yada T</u> . Fasted/fed states regulate postsynaptic hub protein DYNLL2 and glutamatergic transmission in oxytocin neurons in the hypothalamic paraventricular nucleus. <i>Neuropeptides</i> , 2015 [Epub ahead of print]
有	論文43	Sasaki T, Kinoshita Y, Matsui S, Kakuta S, Yokota-Hashimoto H, Kinoshita K, Iwasaki Y, Kinoshita T, <u>Yada T</u> , Amano N, Kitamura T: N-methyl D-aspartate receptor co-agonist D-serine suppresses intake of high-preference food. <i>Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol</i> . 309(5):R561-575, 2015
有	論文44	Kozuka C, Sunagawa S, Ueda R, Higa M, Ohshiro Y, Tanaka H, Shimizu-Okabe C, Takayama C, Matsushita M, Tsutsui M, Ishiuchi S, Nakata M, <u>Yada T</u> , Miyazaki JI, Oyadomari S, Shimabukuro M, Masuzaki H. A novel insulinotropic mechanism of whole grain-derived γ -oryzanol via the suppression of local dopamine D2 receptor signaling in mouse islet. <i>Br J Pharmacol</i> , 2015 [Epub ahead of print]
有	論文45	Kurita H, Xu KY, Maejima Y, Nakata M, Dezaki K, Santoso P, Yang Y, Arai T, Gantulga D, Muroya S, Lefor AK, Kakei M, Watanabe E, <u>Yada T</u> . Arcuate Na^+ , K^+ -ATPase senses systemic energy states and regulates feeding behavior through glucose-inhibited neurons. <i>Am J Physiol Endocrinol Metab</i> 309(4): E320-E333, 2015
有	論文46	Iwasaki Y, Dezaki K, Kumari P, Kakei M, <u>Yada T</u> . Ghrelin counteracts insulin-induced activation of vagal afferent neurons via growth hormone secretagogue receptor. <i>Neuropeptides</i> 52: 55-60, 2015
有	論文47	Kamiide Y, Inomata N, Furuya M, <u>Yada T</u> . Ghrelin ameliorates catabolic conditions and respiratory dysfunction in a chronic obstructive pulmonary disease model of chronic cigarette smoke-exposed rats. <i>Eur J Pharmacol</i> 755: 88-94, 2015
有	論文48	Kamiide Y, Furuya M, Inomata N, <u>Yada T</u> . Chronic exposure to cigarette smoke causes extrapulmonary abnormalities in rats. <i>Environ Toxicol Pharmacol</i> 39(2): 864-870, 2015
有	*論文49	Maejima Y, Rita RS, Santoso P, Aoyama M, Hiraoka Y, Nishimori K, Gantulga D, Shimomura K, <u>Yada T</u> . Nasal oxytocin administration reduces food intake without affecting locomotor activity and glycemia with c-Fos induction in limited brain areas. <i>Neuroendocrinology</i> 101(1): 35-44, 2015
有	*論文50	Iwasaki Y, Maejima Y, Suyama S, Yoshida M, Arai T, Katsurada K, Kumari P, Nakabayashi H, Kakei M, <u>Yada T</u> . Peripheral oxytocin activates vagal afferent neurons to suppress feeding in normal and leptin-resistant mice: A route for ameliorating hyperphagia and obesity. <i>Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol</i> 308: R360-R369, 2015
有	論文51	Darabazar G, Nakata M, Okada T, Wang L, Li E, Shinozaki A, Motoshima M, Mori M, <u>Yada T</u> . Paraventricular NUCB2/nesfatin-1 is directly targeted by leptin and mediates its anorexigenic effect. <i>Biochem Biophys Res Commun</i> 456(4): 913-918, 2015
有	論文52	Ayush EA, Iwasaki Y, Iwamoto S, Nakabayashi H, Kakei M, <u>Yada T</u> . Glucagon directly interacts with vagal afferent nodose ganglion neurons to induce Ca^{2+} signaling via glucagon receptors. <i>Biochem Biophys Res Commun</i> 456(3): 727-732, 2015
有	論文53	Rita R, Dezaki K, Kurashina T, Kakei M, <u>Yada T</u> : Partial blockade of Kv2.1 channel potentiates GLP-1's insulinotropic effects in islets and reduces its dose required for improving glucose tolerance in type 2 diabetic male mice. <i>Endocrinology</i> 156(1):114-123, 2015
有	論文54	Sedbazar U, Ayush EA, Maejima Y, <u>Yada T</u> . Neuropeptide Y and α -melanocyte-stimulating hormone reciprocally regulate nesfatin-1 neurons in the paraventricular nucleus of hypothalamus. <i>NeuroReport</i> 25(18): 1453-1458, 2014
有	論文55	Maejima Y, Sakuma K, Santoso P, Gantulga D, Katsurada K, Ueta Y, Hiraoka Y, Nishimori K, Tanaka S, Shimomura K, <u>Yada T</u> . Oxytocinergic circuit from paraventricular and supraoptic nuclei to arcuate POMC neurons in hypothalamus. <i>FEBS Letters</i> 588(23): 4404-4412, 2014

有	論文56	Katsurada K, Maejima Y, Nakata M, Kodaira M, Suyama S, Iwasaki Y, Kario K, <u>Yada T</u> . Endogenous GLP-1 acts on paraventricular nucleus to suppress feeding: Projection from nucleus tractus solitarius and activation of corticotropin-releasing hormone, nesfatin-1 and oxytocin neurons. <i>Biochem Biophys Res Commun</i> 451(2): 276-281, 2014
有	論文57	Yoshida M, Dezaki K, Uchida K, Kodera S, Lam N, Ito K, Rita R, Yamada H, Shimomura K, Ishikawa S, Sugawara H, Kawakami M, Tominaga M, <u>Yada T</u> , Kakei M. Involvement of cAMP-EPAC-TRPM2 activation in glucose- and incretin-induced insulin secretion. <i>Diabetes</i> 63(10): 3394-403, 2014
有	論文58	Yanagida K, Maejima Y, Santoso P, Otgon-Uul Z, Yang Y, Sakuma K, Shimomura K, <u>Yada T</u> . Hexosamine pathway but not interstitial changes mediates glucotoxicity in pancreatic β -cells as assessed by cytosolic Ca^{2+} response to glucose. <i>Aging (Albany NY)</i> 6(3): 207-214, 2014
有	論文59	Inoue Y, Shirasuna K, Kimura H, Usui F, Kawashima A, Karasawa T, Tago K, Dezaki K, Nishimura S, Sagara J, Noda T, Iwakura Y, Tsutsui H, Taniguchi S, Yanagisawa K, <u>Yada T</u> , Yasuda Y, Takahashi M. NLRP3 regulates neutrophil functions and contributes to hepatic ischemia-reperfusion injury independently of Inflammasomes. <i>J Immunol</i> 192(9): 4342-4351, 2014
有	論文60	Koizumi M, Hosoya Y, Dezaki K, <u>Yada T</u> , Hosoda H, Kangawa K, Nagai H, Lefor AT, Sata N, Yasuda Y. Serum ghrelin levels partially recover with the recovery of appetite and food intake after total gastrectomy. <i>Surg Today</i> 44(11): 2131-2137, 2014
有	論文61	Kawamata R, Suzuki Y, Yada Y, Koike Y, Kono Y, <u>Yada T</u> , Takahashi N. Gut hormone profiles in preterm and term infants during the first 2 months of life. <i>J Pediatr Endocrinol Metab</i> 27(7-8): 717-723, 2014
有	論文62	Uramura K, Maejima Y, Shimomura K, Santoso P, Katsuda S, Kobayashi D, Jodo E, Kodaira M, Otgon-Uul Z, Yang Y, Sakuma K, Takigawa M, Hazama A, <u>Yada T</u> . Chronic phencyclidine treatment induces long-lasting glutamatergic activation of VTA dopamine neurons. <i>Neuroscience Letters</i> 564C: 72-77, 2014
有	論文63	Ishizuka Y, Nakayama K, Ogawa A, Makishima S, Boonvisut S, Hirao A, Iwasaki Y, <u>Yada T</u> , Yanagisawa Y, Miyashita H, Takahashi M, Iwamoto S: TRIB1 down-regulates hepatic lipogenesis and glycogenesis via multiple molecular interactions. <i>J Mol Endocrinol</i> 52(2):145-158, 2014
有	論文64	<u>Yada T</u> , Damdindorj B, Rita RS, Kurashina T, Ando A, Taguchi M, Koizumi M, Sone H, Nakata M, Kakei M, Dezaki K. Ghrelin signalling in β -cells regulates insulin secretion and blood glucose. <i>Diabetes Obes Metab. Suppl</i> 1:111-117, 2014(review)
有	論文65	Maekawa F, Fujiwara K, Toriya M, Maejima Y, Nishio T, Toyoda Y, Nohara K, Yashiro T, <u>Yada T</u> . Brain-derived neurotrophic factor in VMH as the causal factor for and therapeutic tool to treat visceral adiposity and hyperleptinemia in type 2 diabetic Goto-Kakizaki rats. <i>Front Synaptic Neurosci</i> 5(7): 1-13, 2013
有	論文66	Manaka K, Nakata M, Shimomura K, Rita RS, Maejima Y, Yoshida M, Dezaki K, Kakei M, <u>Yada T</u> . Chronic exposure to valproic acid promotes insulin release, reduces KATP channel current and does not affect Ca^{2+} signaling in mouse islets. <i>J Physiol Sci</i> 64(1): 77-83, 2013
有	論文67	Maejima Y, Shimomura K, Sakuma K, Yang Y, Arai T, Mori M, <u>Yada T</u> . Paraventricular nucleus nesfatin-1 neurons are regulated by pituitary adenylate cyclase-activating polypeptide (PACAP). <i>Neuroscience Letters</i> 551: 39-42, 2013
有	論文68	Iwasaki Y, Shimomura K, Kohno D, Dezaki K, Ayush EA, Nakabayashi H, Kubota N, Kadowaki T, Kakei M, Nakata M, <u>Yada T</u> . Insulin activates vagal afferent neurons including those innervating pancreas via insulin cascade and Ca^{2+} influx: its dysfunction in IRS2-KO mice with hyperphagic obesity. <i>PLoS ONE</i> 8(6): e67198, 2013

査読の有無	通し番号	
有	*論文69	Takayanagi Y, Yoshida M, Takashima A, Takanami K, Yoshida S, Nishimori K, Nishijima I, Sakamoto H, Yamagata T, <u>Onaka T</u> . Activation of supraoptic oxytocin neurons by secretin facilitates social recognition. Biol Psychiat 2015 [Epub ahead of print]
有	論文70	<u>Onaka T</u> , Okabe S, Takayanagi Y, Yoshida M. Noxious or Non-Noxious Inputs to Oxytocin Neurons: Possible Roles in the Control of Behaviors. Interdiscipl Inform Sci 21: 189-195, 2015
無	論文71	尾仲達史 : エイジングとホルモン(4)ーオキシトシン. Horm Front gynecol 22 : 131-139, 2015
有	*論文72	Okabe S, Yoshida M, Takayanagi Y, <u>Onaka T</u> . Activation of hypothalamic oxytocin neurons following tactile stimuli in rats. Neurosci Lett 600: 22-27, 2015
有	論文73	Yoshimura M, Ohkubo JI, Hashimoto H, Matsuura T, Maruyama T, <u>Onaka T</u> , Suzuki H, Ueta Y. Effects of a subconvulsive dose of kainic acid on the gene expressions of the arginine vasopressin, oxytocin and neuronal nitric oxide synthase in the rat hypothalamus. Neurosci Res 99: 62-68, 2015
有	*論文74	Nagasawa M, Mitsui S, En S, Ohtani N, Ohta M, Sakuma Y, <u>Onaka T</u> , Mogi K, Kikusui T. Social evolution. Oxytocin-gaze positive loop and the coevolution of human-dog bonds. Science 348: 333-336, 2015
無	論文75	尾仲達史 : オキシトシンと社会的行動. Clin Neurosci 33: 177-181, 2015
無	論文76	尾仲達史、吉田匡秀、高柳友紀 : 不安・恐怖とオキシトシン. アンチ・エイジング医学 11: 24-33, 2015
無	論文77	尾仲達史 : ストレス・摂食・社会行動の相互作用: オキシトシンの働き. 心身医学 54: 643-656, 2014
有	論文78	Yoshida M, Takayanagi Y, <u>Onaka T</u> . The medial amygdala -medullary PrRP-synthesizing neuron pathway mediates neuroendocrine responses to contextual conditioned fear in male rodents. Endocrinology 155: 2996-3004, 2014
無	論文79	高柳友紀、尾仲達史. オキシトシンとウロコルチンによる摂食制御. 日本臨床 72: 224-230, 2014
無	論文80	尾仲達史. オキシトシンの働きと老化. 最新医学 69: 1021-1031, 2014
無	論文81	尾仲達史、高柳友紀. 母性行動と下垂体ホルモン. 精神科治療学 28: 777-784, 2013
有	論文82	Ikeda K, Satake S, <u>Onaka T</u> , Sugimoto H, Takeda N, Imoto K, Kawakami K. Enhanced inhibitory neurotransmission in the cerebellar cortex of the Atp1a3-deficient heterozygous mice. J Physiol 591: 3433-3449, 2013

(部門名) 人類遺伝学研究部

査読の有無	通し番号	
有	論文83	Boonvisut S, Nakayama K, Makishima S, Watanabe K, Miyashita H, Lkhagvasuren M, Kagawa Y, <u>Iwamoto S</u> . Replication analysis of genetic association of the NCAN-CILP2 region with plasma lipid levels and non-alcoholic fatty liver disease in Asian and Pacific ethnic groups. Lipids Health Dis 15: 8, 2016

有	論文84	Yang Z, Matsumoto A, Nakayama K, Jimbo EF, Kojima K, Nagata K, <u>Iwamoto S</u> , Yamagata T. Circadian-relevant genes are highly polymorphic in autism spectrum disorder patients. Brain Dev 38: 91-99, 2016
有	論文85	Horiguchi S, Nakayama K, <u>Iwamoto S</u> , Ishijima A, Minezaki T, Baba M, Kontai Y, Horikawa C, Kawashima H, Shibata H, Kagawa Y, Kawabata T. Associations between a fatty acid desaturase gene polymorphism and blood arachidonic acid compositions in Japanese elderly. Prostaglandins, Leukotrienes and Essential. Fatty Acids 105: 9-14, 2015
有	論文86	Fujita-Jimbo E, Tanabe Y, Yu Z, Kojima K, Mori M, Li H, <u>Iwamoto S</u> , Yamagata T, Momoi MY, Momoi T. The association of GPR85 with PSD-95-neuroigin complex and autism spectrum disorder: a molecular analysis. Mol Autism 6: 17, 2015
無	*論文87	<u>Iwamoto S</u> , Boonvisut S, Makishima S, Ishizuka Y, Watanabe K, Nakayama K. The role of TRIB1 in lipid metabolism; from genetics to pathways. Biochem Soc Trans 43: 1063-1068, 2015
有	論文88	Makishima S, Boonvisut S, Ishizuka Y, Watanabe K, Nakayama K, <u>Iwamoto S</u> . Sin3A-associated protein, 18 kDa, a novel binding partner of TRIB1, regulates MTTP expression. J Lipid Res 56: 1145-1152, 2015
有	論文89	Nakayama K, Miyashita H, <u>Iwamoto S</u> . Seasonal effects of the UCP3 and the RPTOR gene polymorphisms on obesity traits in Japanese adults. J Physiol Anthropol 33: 38, 2014
有	*論文90	Nakayama K, Watanabe K, Boonvisut S, Makishima S, Miyashita H, <u>Iwamoto S</u> . Common variants of GIP are associated with visceral fat accumulation in Japanese adults. Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol 307: G1108-1114, 2014
有	*論文91	Ishizuka Y, Nakayama K, Ogawa A, Makishima S, Boonvisut S, Hirao A, Iwasaki Y, Yada T, Yanagisawa Y, Miyashita H, Takahashi M, <u>Iwamoto S</u> . TRIB1 downregulates hepatic lipogenesis and glycogenesis via multiple molecular interactions. J Mol Endocrinol 52: 145-158, 2014
有	論文92	Naka I, Hikami K, Nakayama K, Koga M, Nishida N, Kimura R, Furusawa T, Natsuhara K, Yamauchi T, Nakazawa M, Ataka Y, Ishida T, Inaoka T, <u>Iwamoto S</u> , Matsumura Y, Ohtsuka R, Tsuchiya N, Ohashi J: A functional SNP upstream of the beta-2 adrenergic receptor gene (ADRB2) is associated with obesity in Oceanic populations. International journal of obesity 37:1204-1210, 2013
有	論文93	Nakayama K, Miyashita H, Yanagisawa Y, <u>Iwamoto S</u> . Seasonal effects of UCP1 gene polymorphism on visceral fat accumulation in Japanese adults. PLoS One 8: e74720, 2013

(部門名) 循環器内科学部門

査読の有無	通し番号	
有	論文94	Niijima S, Nagai M, Hoshide S, Takahashi M, Shimpo M, <u>Kario K</u> . Japan Morning Surge-Home Blood Pressure Study Investigators Group. Long sleep duration: A non-conventional indicator of arterial stiffness in Japanese at high risk of cardiovascular disease: the J-HOP Study. Journal of the American Society of Hypertension 2016 (In Press Accepted Manuscript)
有	論文95	Shibasaki S, Hoshide S, Eguchi K, Ishikawa J, <u>Kario K</u> . Japan Morning Surge-Home Blood Pressure (J-HOP) Study Group. Increase Trend in Home Blood Pressure on a Single Occasion Is Associated With B-Type Natriuretic Peptide and the Estimated Glomerular Filtration Rate. Am J Hypertens 28: 1098-105, 2015.
有	論文96	<u>Kario K</u> . Morning surge in blood pressure: a phenotype of systemic hemodynamic atherothrombotic syndrome. Am J Hypertens 28: 7-9, 2015

有	論文97	<u>Kario K</u> , Hoshide S, Haimoto H, Yamagiwa K, Uchiba K, Nagasaka S, Yano Y, Eguchi K, Matsui Y, Shimizu M, Ishikawa J, Ishikawa S. J-HOP study group. Sleep Blood Pressure Self-Measured at Home as a Novel Determinant of Organ Damage: Japan Morning Surge Home Blood Pressure (J-HOP) Study. J Clin Hypertens (Greenwich) 17: 340-8, 2015
有	論文98	<u>Kario K</u> . Prognosis in relation to blood pressure variability: pro side of the argument. Hypertension 65: 1163-9, 2015
有	論文99	Shimizu M, Hoshide S, Ishikawa J, Yano Y, Eguchi K, <u>Kario K</u> . Correlation of Central Blood Pressure to Hypertensive Target Organ Damages During Antihypertensive Treatment: The J-TOP Study. Am J Hypertens 28: 980-6, 2015
有	論文100	Hoshide S, Nagai M, Yano Y, Ishikawa J, Eguchi K, <u>Kario K</u> . Japan Morning Surge-Home Blood Pressure Study Investigators Group. Association of high-sensitivity cardiac troponin T and N-terminal pro-brain-type natriuretic peptide with left ventricular structure: J-HOP study. J Clin Hypertens (Greenwich) 16: 354-61, 2014
有	論文101	<u>Kario K</u> , Kuwabara M, Hoshide S, Nagai M, Shimpo M: Effects of nighttime single-dose administration of vasodilating vs sympatholytic antihypertensive agents on sleep blood pressure in hypertensive patients with sleep apnea syndrome. J Clin Hypertens (Greenwich) 16: 459-66, 2014
有	論文102	Hoshide S, <u>Kario K</u> , Yano Y, Haimoto H, Yamagiwa K, Uchiba K, Nagasaka S, Matsui Y, Nakamura A, Fukutomi M, Eguchi K, Ishikawa J. J-HOP Study Group. Association of morning and evening blood pressure at home with asymptomatic organ damage in the J-HOP Study. Am J Hypertens 27: 939-47, 2014
有	論文103	Ishikawa J, Shimizu M, Sugiyama Edison E, Yano Y, Hoshide S, Eguchi K, <u>Kario K</u> . J-TOP (Japan Morning Surge-Target Organ Protection) Study Investigators Group. Assessment of the reductions in night-time blood pressure and dipping induced by antihypertensive medication using a home blood pressure monitor. J Hypertens 32:82-9, 2014
有	論文104	<u>Kario K</u> . Proposal of a new strategy for ambulatory blood pressure profile-based management of resistant hypertension in the era of renal denervation. Hypertens Res 2013 36: 478-84, 2013
有	論文105	Saito T, Hojo Y, Hirose M, Ikemoto T, Katsuki T, <u>Kario K</u> . High-sensitivity troponin T is a prognostic marker for patients with aortic stenosis after valve replacement surgery. J Cardiol May 61(5): 342-7, 2013

(部門名) 内分泌代謝学部門

査読の有無	通し番号	
有	*論文106	Sekiya M, Yamamuro D, Ohshiro T, Honda A, Takahashi M, Kumagai M, Sakai K, Nagashima S, Tomoda H, Igarashi M, Okazaki H, Yagy H, Osuga JI, <u>Ishibashi S</u> . Absence of Nceh1 augments 25-hydroxycholesterol-induced ER stress and apoptosis in macrophages. J. Lipid Res 55(10): 2082-2092, 2014
有	*論文107	Sakai K, Igarashi M, Yamamuro D, Ohshiro T, Nagashima S, Takahashi M, Enkhtuvshin B, Sekiya M, Okazaki H, Osuga JI, <u>Ishibashi S</u> . Critical role of neutral cholesterol ester hydrolase 1 in cholesterol ester hydrolysis in murine macrophages. J Lipid Res 55(10): 2033-2040, 2014
有	論文108	Takahashi M, Yagy H, Tazoe F, Nagashima S, Ohshiro T, Okada K, Osuga J, Goldberg JI, <u>Ishibashi S</u> . Macrophage lipoprotein lipase modulates the development of atherosclerosis but not adiposity. J Lipid Res 54: 1124-1134, 2013

有	論文109	Nagashima S, Yagyu H, Ohashi K, Tazoe F, Takahashi M, Ohshiro T, Bayasgalan T, Okada K, Sekiya M, Osuga J, <u>Ishibashi S</u> . Liver-specific deletion of 3-hydroxy-3-methylglutaryl coenzyme A reductase causes hepatic steatosis and death. <i>Arterioscler Thromb Vasc Biol</i> 32(8): 1824-1831, 2012
---	-------	--

(部門名) 腎臓内科学部門

査読の有無	通し番号	
有	論文110	Morishita Y, Yoshizawa H, Watanabe M, Imai R, Imai T, Hirahara I, Akimoto T, Ookawara S, Muto S, <u>Nagata D</u> . MicroRNA expression profiling in peritoneal fibrosis. <i>Transl Res</i> , 2015 [Epub ahead of print]
有	論文111	Morishita Y, Imai T, Yoshizawa H, Watanabe M, Ishibashi K, Muto S, <u>Nagata D</u> . Delivery of microRNA-146a with polyethylenimine nanoparticles inhibits renal fibrosis in vivo. <i>Int J Nanomedicine</i> 10: 3475-3488, 2015
有	論文112	Yoshizawa H, Morishita Y, Watanabe M, Ishibashi K, Muto S, Kusano E, <u>Nagata D</u> . TGF- β ₁ -siRNA delivery with nanoparticles inhibits peritoneal fibrosis. <i>Gene Ther</i> 22: 333-340, 2015
有	論文113	Morishita Y, Yoshizawa H, Watanabe M, Ishibashi K, Muto S, Kusano E, <u>Nagata D</u> . siRNAs targeted to Smad4 prevent renal fibrosis in vivo. <i>Sci Rep</i> 4 : 6424, 2014

(部門名) アレルギー膠原病学部門

査読の有無	通し番号	
有	論文114	Yokota S, Itoh Y, Morio T, Sumitomo N, Daimaru K, <u>Minota S</u> . Macrophage activation syndrome in patients with systemic juvenile idiopathic arthritis under treatment with tocilizumab. <i>J Rheumatol</i> 42: 712-722, 2015
有	論文115	Takeda K, <u>Minota S</u> . Gross hematuria caused by the nutcracker syndrome. <i>Clin Exp Nephrol</i> 19: 982-3, 2015
有	論文116	Takeda K, Sato T, Norizuki M, Kamata Y, Nagatani K, Alan Kawarai Lefor, <u>Minota S</u> . Adult Kawasaki-like syndrome with eosinophilia and tenosynovitis in a patient with human immunodeficiency virus infection. <i>Rheumatology</i> 54: 1531-2, 2015
有	論文117	Kamata Y, <u>Minota S</u> . No increase in synovial fluid level of matrix metalloproteinase-3 by systemic administration of glucocorticoids in rheumatoid arthritis. <i>Eur J Intern Med</i> 26: 371-2, 2015
有	論文118	Ogata A, Atsumi T, Fukuda T, Hirabayashi Y, Inaba M, Ishiguro N, Kai M, Kawabata D, Kida D, Kohsaka H, Matsumura R, <u>Minota S</u> , Mukai M, Sumida T, Takasugi K, Tamaki S, Takeuchi T, Ueda A, Yamamoto K, Yamanaka H, Yoshifuji H, Nomura A. MUSASHI Study Investigators.: Sustainable efficacy of switching from intravenous to subcutaneous tocilizumab monotherapy in patients with rheumatoid arthritis: Extension of the MUSASHI study. <i>Arthritis Care Res</i> 67: 1354-62, 2015
有	論文119	Nagashima T, <u>Minota S</u> . Comment on: The efficacy of tacrolimus in patients with interstitial lung diseases complicated with polymyositis or dermatomyositis. <i>Rheumatology</i> 54: 1128-9, 2015
有	論文120	Nakamura J, Nagashima T, Yoshio T, <u>Minota S</u> . Arthritis mutilans in a patient with juvenile idiopathic arthritis. <i>Intern Med</i> 54: 689, 2015

有	論文121	<u>Minota S.</u> Comments on the paper showing an exceptionally favorable response to tofacitinib among Japanese rheumatoid patients and an issue surrounding clinical trial led by pharmaceutical company. Mod Rheumatol 25: 493-4, 2015
有	論文122	Murosaki T, Mori K, Nagashima T, <u>Minota S.</u> Hypertrophic Osteoarthropathy with associated esophageal cancer. Intern Med 54: 357-8, 2015
有	論文123	Nagashima T, <u>Minota S.</u> Caution is needed when interpreting changes of matrix metalloproteinase-3 in patients with rheumatoid arthritis. Rheumatol Int 34: 1025-6, 2014
有	論文124	Murosaki T, Nagashima T, Honne K, Aoki Y, <u>Minota S.</u> Invasive sphenoid sinus aspergillosis mimicking giant cell arteritis. Int J Rheum Dis 17: 476-8, 2014
有	論文125	Kamata Y, <u>Minota S.</u> Effects of phosphodiesterase type 5 inhibitors on Raynaud's phenomenon. Rheumatol Int 34: 1623-6, 2014
有	論文126	Hanai S, Sato T, Nagatani K, <u>Minota S.</u> Pseudogout of the sternoclavicular joints. Intern Med 53: 521-2, 2014
有	論文127	Takeda K, Sato T, Sugimoto E, <u>Minota S.</u> MRI of spinal ligament enthesitis in a patient with spondyloarthritis. Intern Med 53: 2657-8, 2014
有	論文128	Honne K, Nagashima T, Onishi S, Nagatani K, Iwamoto M, <u>Minota S.</u> Fluorodeoxyglucose positron emission tomography/computed tomography for diagnostic imaging in relapsing polychondritis with atypical manifestations. J Clin Rheumatol 19: 104-5, 2013
有	論文129	Yoshio T, Okamoto H, Hirohata S, <u>Minota S.</u> IgG Anti-NR2 Glutamate receptor autoantibodies from patients with systemic lupus erythematosus activate endothelial cells. Arthritis Rheum 65: 457-63, 2013
有	論文130	Nakamura J, Nagashima T, Akiyama Y, <u>Minota S.</u> Radiographic Features of Rhupus Arthropathy. Intern Med 52: 2837, 2013
有	論文131	Nagashima T, Fukushima N, <u>Minota S.</u> Clinical features of a new disease concept, IgG4-related thyroiditis: comments on the article by Watanabe et al. Scand J Rheumatol 42: 510-1, 2013
有	論文132	Maruyama A, Nagashima T, Ikenoya K, Aoki Y, Matsuyama Y, Iwamoto M, <u>Minota S.</u> Glucocorticoid-induced Normotensive Scleroderma Renal Crisis: A Report on Two Cases and a Review of the Literature in Japan. Intern Med 52: 1833-7, 2013
有	論文133	Nakajima A, Saito K, Kojima T, Amano K, Yoshio T, Fukuda W, Inoue E, Taniguchi A, Momohara S, <u>Minota S.</u> , Takeuchi T, Ishiguro N, Tanaka Y, Yamanaka H. No increased mortality in patients with rheumatoid arthritis treated with biologics: results from the biologics register of six rheumatology institutes in Japan. Mod Rheumatol 23: 945-52, 2013
有	論文134	Nagashima T, Matsumoto K, Murosaki T, Okada M, Iwamoto M, Makino S, <u>Minota S.</u> Posterior ischemic optic neuropathy in a patient with granulomatosis with polyangiitis (Wegner's). Rheumatol Int 33: 1915-6, 2013
有	論文135	Kamata Y, <u>Minota S.</u> Three-pointed star sign of lupus enteritis. Rheumatology 52: 1008, 2013

(部門名) 産科学部門

査読の有無	通し番号	
-------	------	--

有	論文136	Ida T, Goto T, Motoi T, Nagai I, <u>Matsubara S</u> , Fujiwara H, Kohyama A. Surgical removal of an isolated femoral metastasis of uterine cervical squamous cell carcinoma: A case report and review of the literature. <i>Eur J Gynaecol Oncol</i> (in press)
有	論文137	<u>Matsubara S</u> , Baba Y, Morisawa H, Takahashi H, Lefor AK. Maintaining position of the Bakri balloon after cesarean for placenta previa using an abdominal-traction stitch. <i>Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol</i> (in press)
有	論文138	<u>Matsubara S</u> , Lefor AL. “Right for publication”: Another strategy to promote publications by novice authors. <i>Aust Health Rev</i> (in press)
有	論文139	<u>Matsubara S</u> , Ohki S, Lefor AK. A hidden, but possibly significant, cause of secondary postpartum hemorrhage: Uterine artery pseudoaneurysm. <i>J Obstet Gynaecol Res</i> (in press)
有	論文140	<u>Matsubara S</u> , Takahashi H, Misawa Y, Lefor AK. Letter to “Post-partum hemoperitoneum: Do not miss false aneurysm as a cause of bleeding. <i>J Obstet Gynaecol Res</i> (in press)
有	論文141	<u>Matsubara S</u> , Takahashi H, Ohkuchi A, Lefor AK. Insertion of the Bakri balloon: The earlier, the better? <i>Aust N Z J Obstet Gynaecol</i> (in press)
有	論文142	<u>Matsubara S</u> , Takahashi H, Takei Y, Lefor AK. Caesarean hysterectomy for placenta praevia/accreta: Anterior or posterior first? <i>BJOG. An International Journal of Obstetrics and Gynaecology</i> (in press)
有	論文143	<u>Matsubara S</u> , Takahashi H, Takei Y, Lefor AK. The abnormally invasive placenta: Still a long way to go. <i>BJOG. An International Journal of Obstetrics and Gynaecology</i> (in press)
有	論文144	<u>Matsubara S</u> , Takahashi H. Pseudoaneurysm hidden behind secondary postpartum hemorrhage. <i>Birth</i> (in press)
有	論文145	<u>Matsubara S</u> . A clinically useful sign for auto-amputation of the ovary. <i>J Pediatr Adolescent Gynecol.</i> (in press)
有	論文146	<u>Matsubara S</u> . Comment on, “Vaginal bilateral cervical lips suture in combination with intrauterine Foley catheter to arrest postpartum hemorrhage”. <i>J Clin Exp Obstet Gynecol</i> (in press)
有	論文147	Okada Y, Inoue N, Fukushima N, Yoshikawa T, Takahashi Y, <u>Matsubara S</u> , Hasegawa Y. An infant with idiopathic mitral valve chordae rupture. <i>Pediatr Intern</i> (in press)
有	論文148	Shirasuna K, Shimamura N, Seno K, Ohtsu A, Shiratsuki S, Ohkuchi A, Suzuki H, <u>Matsubara S</u> , Nagayama S, Iwata H, Kuwayama T. Moderate hypoxia down-regulates interleukin-6 secretion and TLR4 expression in human Sw.71 placental cells. <i>Cellular Physiology and Biochemistry</i> , 2015 (in press)
有	論文149	Takahashi H, Usui R, Suzuki H, Baba Y, Suzuki T, Kuwata T, Ohkuchi A, <u>Matsubara S</u> . Uterine-fundal hypoechoic mass: A possible ultrasound sign for cesarean scar pregnancy. <i>Clin Exp Obstet Gynecol</i> (in press)
有	論文150	Takahashi H, Watanabe T, Usui R, Imada H, Mukoda Y, <u>Matsubara S</u> . Pregnancy complicated by congenital antithrombin deficiency: A case report, with special reference to placental thrombus formation. <i>Gazetta Medica Italiana</i> (in press)
有	論文151	Yamada T, Abe K, Baba Y, Inubashiri E, Kawabata K, Kubo T, Maegawa Y, Fuchi N, Nomizo M, Shimada M, Shiozaki A, Hamada H, <u>Matsubara S</u> , Akutagawa N, Kataoka S, Maeda M, Masuzaki H, Sagawa N, Nakai A, Saito S, Minakami H. Vaccination during the 2013 - 2014 influenza season in pregnant Japanese women. <i>European Journal of Clinical Microbiology & Infectious Diseases</i> (in press)

有	論文152	Yamada T, Kawakami S, Yoshida Y, Kawamura H, Ohta S, Abe K, Hamada H, Dohi S, Ichizuka K, Takita H, Baba Y, <u>Matsubara S</u> , Mochizuki J, Unno N, Maegawa Y, Maeda M, Inubashiri E, Akutagawa N, Kubo T, Shirota T, Oda Y, Yamada T, Yamagishi E, Nakai A, Fuchi N, Masuzaki H, Urabe S, Kudo Y, Nomizo M, Sagawa N, Maeda T, Mamitomo M, Kawabata K, Kataoka S, Shiozaki A, Saito S, Sekizawa A, Hisanori M. Influenza 2014 – 2015 among pregnant Japanese women: primiparous vs. multiparous women. <i>European J Clin Microbiol Infect Dis</i> (in press)
有	論文153	Yamada T, Mochizuki J, Hanaoka M, Hashimoto E, Ohkuchi A, Ito M, Kubo T, Nakai A, Saito S, Unno N, <u>Matsubara S</u> , Minakami H. Effects of campaign for postpartum vaccination on seronegative rate against rubella among Japanese women. <i>BMC Infectious Diseases</i> (in press)
有	論文154	Nagayama S, Ohkuchi A, Shirasuna K, Takahashi K, Suzuki H, Hirashima C, Sakata A, Nishimura S, Takahashi M, <u>Matsubara S</u> . The frequency of peripheral blood CD4+FoxP3+ regulatory T cells in women with pre-eclampsia and those with high-risk factors for pre-eclampsia. <i>Hypertens Pregnancy</i> 34: 443-455, 2015
有	論文155	Iwashita A, Baba Y, Usui R, Ohkuchi A, Muto S, <u>Matsubara S</u> . Respiratory arrest in an obese pregnant woman with hyperemesis gravidarum. <i>Case Rep Obstet Gynecol</i> ; ID 278391 (4 pages), 2015
有	論文156	<u>Matsubara S</u> . Re: The prevention and treatment of postpartum haemorrhage: what do we know, and where do we go to next?: The treatment of postpartum haemorrhage: holding the intrauterine balloon 'there'. <i>BJOG</i> 122: 1846-1846, 2015
有	論文157	<u>Matsubara S</u> . On-site hemostatic suturing for placenta previa: Concerns and clarifications. <i>Arch Gynecol Obstet</i> 293: 223-224, 2016
有	論文158	<u>Matsubara S</u> , Takahashi H, Usui R, Morisawa H, Nakamura H, Takei Y. Cesarean hysterectomy for placenta previa accreta in dichorionic twin: A surgery that remains challenging. <i>J Metern Fetal Neonat Med</i> (in press)
有	論文159	<u>Matsubara S</u> . Re: The Hayman uterine compression suture. B-Lynch suture: How to coin a concept in medicine. <i>BJOG</i> 122: 1715-1716, 2015
有	論文160	<u>Matsubara S</u> , Takahashi H, Lefor AK. A novel hemostatic technique during cesarean section for placenta previa: Combining “cervical inversion” and “holding the cervix”. <i>Minerva Gynecologica</i> 67: 488-9, 2015
有	論文161	Shibayama Y, Kuwata T, Yamaguchi J, Matsumoto M, Watanabe M, Nakano R, Kai K, Watanabe M, Watanabe R, Ohkuchi A, <u>Matsubara S</u> . Changes in standing body sway of pregnant women after long-term bed rest. <i>J Obstet Gynaecol</i> (in press)
有	論文162	Takahashi H, Ohkuchi A, Kuwata T, Usui R, Takahashi S, <u>Matsubara S</u> . Congenital mesoblastic nephroma: Its diverse clinical features –A literature review with a case report – <i>J Obstet Gynaecol</i> (in press)
有	論文163	Takahashi Y, Saga Y, Koyanagi T, Takei Y, Machida S, Taneichi A, Mizukami H, Sato Y, <u>Matsubara S</u> , Fujiwara H. The angiogenesis regulator vasohibin-1 inhibits ovarian cancer growth and peritoneal dissemination and prolongs host survival. <i>Int J Oncol</i> Oct 8, 2015
有	論文164	<u>Matsubara S</u> , Fujiwara H, Ohkuchi A, Takahashi H, Lefor AK: Surgical management of abnormally invasive placenta: Is decreased blood loss due to participation of gynecologic oncologists?. <i>Acta Obstet Gynecol Scand</i> 95: 119, 2016
有	論文165	Nagayama S, Ohkuchi A, Usui R, <u>Matsubara S</u> , <u>Suzuki M</u> . The role of the father in the occurrence of preeclampsia. <i>Med J Obstet Gynecol</i> 2: 1029, 2014
有	論文166	Imai K, Ohkuchi A, Nagayama S, Saito S, <u>Matsubara S</u> , <u>Suzuki M</u> . Pancytopenia in the first trimester: an indicator of hidden hyperthyroidism. <i>J Obstet Gynaecol Res</i> (in press)

有	論文167	<u>Matsubara S</u> , Takahashi H, Baba Y, Usui R, Igarashi T, Lefor AK. Intra-abdominal adhesions: Vaginal or abdominal delivery?. Arch Gynecol Obstet 292: 953–954, 2015
有	論文168	<u>Matsubara S</u> , Takahashi H, Lefor AK. Comments on “Alternate sequential suture tightening: a novel technique for uncontrolled postpartum hemorrhage”. Obstet Gynecol Intern ID 279513, 2015
有	論文169	Morisawa H, Makino S, Takahashi H, Sorita M, <u>Matsubara S</u> . Retinal detachment at hemolysis, elevated liver enzymes, and low platelet count (HELLP) syndrome: Color vision abnormality as the first and predominant manifestation. J Obstet Gynaecol Res 41: 1835-1838, 2015
有	論文170	<u>Matsubara S</u> , Takahashi H, Ohkuchi A. Need for systematic classification of various uterine compression sutures. J Obstet Gynaecol Res 41: 1676, 2015
有	論文171	Ohkuchi A, Hirashima C, Takahashi K, Shirasuna K, Suzuki H, Ariga H, Kobayashi M, Hirose N, <u>Matsubara S</u> , <u>Suzuki M</u> . A trio of risk factors for the onset of preeclampsia in the second and early third trimesters. Pregnancy Hypertens 4: 224–230, 2014
有	論文172	<u>Matsubara S</u> , Takahashi H, Baba Y, Usui R: Inserting Bakri balloon during cesarean section in patients with narrow cervix: Nelaton method (Matsubara). Acta Obstet Gynecol Scand 94: 1147-1148, 2015
有	論文173	<u>Matsubara S</u> , Takahashi H, Lefor AK. A commentary on “A new removable uterine compression by a brace suture in the management of severe postpartum hemorrhage”. Frontier in Surgery 2: 17 (article 17) 1-3, 2015
有	論文174	<u>Matsubara S</u> , Kuwata T, Takahashi H, Suzuki H. Vasa previa: Another ultrasound sign and caution at cesarean section. J Matern Fetal Neonat Med 29: 1139-1140, 2016
有	論文175	Matsuda Y, Ogawa M, Nakai A, Hayashi m, Satoh S, <u>Matsubara S</u> . Fetal/Placental weight ratio in term Japanese pregnancy: Its difference among gender, parity, and infant growth. Int J Med Sci 12: 301-305, 2015
有	論文176	Ishida Y, Zhao D, Ohkuchi A, Kuwata T, Yoshitake H, Yuge K, Takizawa T, <u>Matsubara S</u> , <u>Suzuki M</u> , Saito S, Takizawa T. Maternal peripheral blood natural killer cells incorporate placenta-associated microRNAs during pregnancy. Int J Mol Med 35: 1511-24, 2015
有	論文177	Takahashi H, <u>Matsubara S</u> . Authors' reply: No vaginal bleeding does not indicate no bleeding: Still valid for Bakri balloon and also for "holding the cervix". Acta Obstet Gynecol Scand 94: 557, 2015
有	論文178	<u>Matsubara S</u> . Re: removable uterine compression sutures for postpartum haemorrhage: Two questions. BJOG 122: 755-756, 2015
有	論文179	Eguchi K, Ohmaru T, Ohkuchi A, Hirashima C, Takahashi K, Suzuki H, Kario K, <u>Matsubara S</u> , <u>Suzuki M</u> . Ambulatory BP monitoring and clinic BP in predicting small-for-gestational-age infants during pregnancy. J Hum Hypertens 30: 62-67, 2016
有	論文180	Ishikawa T, Takizawa T, Iwaki J, Mishima T, Ui-Tei K, Takeshita T, <u>Matsubara S</u> , Takizawa T. Fc gamma receptor IIb participates in maternal IgG trafficking of human placental endothelial cells. Int J Mol Med 35: 1273-1289, 2015.
有	論文181	<u>Matsubara S</u> , Lefor AT, Ohkuchi A. Purse-string double-layer closure for cesarean incision (Turan technique): Some concerns. J Obstet Gynaecol Res 41: 828-829, 2015
有	論文182	Takahashi H, <u>Matsubara S</u> . Intrauterine hypo-echoic mass cephalad to cesarean scar pregnancy. Acta Obstet Gynecol Scand 94: 670-671, 2015

有	論文183	<u>Matsubara S</u> , Ohkuchi A, Suzuki H, Kimura M, Takahashi H, Fujiwara H. Cesarean hysterectomy: Amputation-first technique (Matsubara). <i>Acta Obstet Gynecol Scand</i> 94: 552-553, 2015
有	論文184	<u>Matsubara S</u> , Baba Y. Transverse uterine fundal incision for placenta praevia with accreta: Concern regarding its 'overuse'. <i>BJOG</i> 122: 448, 2015
有	論文185	<u>Matsubara S</u> , Baba Y, Takahashi H. Preventing Bakri balloon from sliding out during "holding the cervix": "fishing for the balloon shaft" technique (Matsubara). <i>Acta Obstet Gynecol Scand</i> 94: 910-911, 2015
有	論文186	<u>Matsubara S</u> , Baba Y. Uterine artery pseudoaneurysm after non-traumatic vaginal delivery as a cause of postpartum hemorrhage: Determination of its mechanism is urgently needed. <i>Acta Obstet Gynecol Scand</i> 94: 788-789, 2015
有	論文187	Matsumoto M, Koike S, <u>Matsubara S</u> , Kashima S, Ide H, Yasunaga H. Selection and concentration of obstetric facilities in Japan: A longitudinal study based on national census data. <i>J Obstet Gynaecol Res</i> 41: 919-25, 2015
有	論文188	Nagayama S, <u>Matsubara S</u> , Horie K, Kuwata T, Ohkuchi A, Usui R, Nakata M, <u>Suzuki M</u> . The ovarian artery: An unusual feeding artery of uterine artery pseudoaneurysm necessitating repetitive transarterial embolisation. <i>J Obstet Gynaecol</i> 35: 656-657, 2015
有	論文189	Takahashi H, <u>Matsubara S</u> , Kobayashi M, Ohkuchi A. Drainage failure of Bakri balloon: No drainage does not indicate no bleeding. <i>Acta Obstet Gynecol Scand</i> . 94: 336, 2015
有	論文190	<u>Matsubara S</u> . A stepwise cesarean section for placenta percreta: Effective only for "separable" placenta percreta? <i>Arch Gynecol Obstet</i> 291: 243-244, 2015
有	論文191	<u>Matsubara S</u> , Kuwata T, Takahashi H, Kimura Y. Diagnosis of placental mesenchymal dysplasia: Magnetic resonance imaging or color Doppler? <i>J Obstet Gynaecol Res</i> 41: 488, 2015
有	論文192	Kambe S, Yoshitake H, Yuge K, Ishida Y, Ali MM, Takizawa T, Kuwata T, Ohkuchi A, <u>Matsubara S</u> , <u>Suzuki M</u> , Takeshita T, Saito S, Takizawa T. Human exosomal placenta-associated miR-517a-3p modulates the expression of PRKG1 mRNA in Jurkat cells. <i>Biol Reprod</i> 91: 129,1-11, 2014
有	論文193	<u>Matsubara S</u> , Ohkuchi A, Kamesaki T, Ishikawa S, Nakamura Y, Matsumoto M. Clinical Research Support Team (CRST)-Jichi. Supporting rural remote physicians to conduct a study and write a paper: Experience of Clinical Research Support Team (CRST)-Jichi. <i>Rural Remote Health</i> 14: 2883, 2014
有	論文194	<u>Matsubara S</u> , Baba Y, Ohkuchi A. Cesarean incision in case of placenta previa: Does the transplacental approach cause fetal anemia? <i>Acta Obstet Gynecol Scand</i> 94: 226-227, 2015
有	論文195	<u>Matsubara S</u> . Perimortem cesarean section: Three possible procedures to overcome atonic bleeding after successful resuscitation. <i>Acta Obstet Gynecol Scand</i> 94: 121, 2015
有	論文196	Baba Y, Ohkuchi A, Usui R, Suzuki H, Kuwata T, <u>Matsubara S</u> . Calculating probability of requiring allogeneic blood transfusion using three preoperative risk factors on cesarean section for placenta previa. <i>Arch Gynecol Obstet</i> 291: 281-285, 2015
有	論文197	<u>Matsubara S</u> . Cervical tourniquet for anterior placenta previa: Clarification and concern. <i>J Obstet Gynaecol Res</i> 40: 2086-2087, 2014
有	論文198	Takahashi H, Baba Y, <u>Matsubara S</u> . Brain damage of surviving co-twin following single fetal death in monochorionic diamniotic twin pregnancy at 8-9 weeks gestation. <i>Acta Obstet Gynecol Scand</i> 93: 1336, 2014

有	論文199	<u>Matsubara S</u> , Baba Y, Ohkuchi A. Is anterior placentation per se a risk for cesarean section-related morbidity in placenta previa? J Perinatol 34: 649-649, 2014
有	論文200	<u>Matsubara S</u> . Uterine fundal pressure: Is it really a culprit of poor maternal and neonatal outcome? J Obstet Gynaecol Res 40: 1956-1956, 2014
有	論文201	<u>Matsubara S</u> . New prophylaxis methods for adverse events of uterine compression sutures: Removing compression threads. Acta Obstet Gynecol Scand 93: 1069-1070, 2014
有	論文202	<u>Matsubara S</u> . An easy insertion procedure of Bakri balloon during cesarean section for placenta previa: Use of Nelaton rubber catheter. Arch Gynecol Obstet 290: 613-614, 2014
有	論文203	Takahashi H, Yuge K, <u>Matsubara S</u> , Ohkuchi A, Kuwata T, Usui R, <u>Suzuki M</u> , Takizawa T. Differential expression of ADAM (a Disintegrin and Metalloproteinase) genes between human first trimester villous and extravillous trophoblast cells. J Nippon Med Sch 81: 122-9, 2014
有	論文204	Suzuki H, <u>Matsubara S</u> , Uchida S, Ohkuchi A: Ovary hyperstimulation syndrome accompanying molar pregnancy: Case report and review of the literature. Arch Gynecol Obstet 290: 803-806, 2014
有	論文205	<u>Matsubara S</u> , Takahashi Y, Yoshida T, Usui R, Koike Y. Reduced fetal movements at 27 weeks: an alarm for maternal-fetal listeriosis?. J Obstet Gynaecol 34: 740-741, 2014
有	論文206	<u>Matsubara S</u> . Placenta percreta: Multidisciplinary team may not be enough. Aus N Z J Obstet Gynaecol 54: 291, 2014
有	論文207	Takahashi K, Ohkuchi A, Furukawa R, <u>Matsubara S</u> , <u>Suzuki M</u> . Establishing measurements of subcutaneous and visceral fat area ratio in the early second trimester by magnetic resonance imaging in obese pregnant women. J Obstet Gynaecol Res 40: 1304-1307, 2014
有	論文208	Baba Y, <u>Matsubara S</u> , Ohkuchi A, Usui R, Kuwata T, Suzuki H, Takahashi H, <u>Suzuki M</u> . Anterior placentation as a risk factor for massive hemorrhage during cesarean section in patients with placenta previa. J Obstet Gynaecol Res 40: 1243-1248, 2014
有	論文209	<u>Matsubara S</u> , Ohkuchi A, Nonaka H, Ito H, Lefor AK. Prolapse of the small intestine from the uterine perforation at dilatation and curettage. Case Rep Obstet Gynecol: 164356, 2014
有	論文210	<u>Matsubara S</u> . Some clarification and concerns regarding a novel VV uterine compression suture. J Obstet Gynaecol Res 40: 1165-1166, 2014
有	論文211	Baba Y, <u>Matsubara S</u> , Kuwata T, Ohkuchi A, Usui R, Saruyama M, Nakata M, <u>Suzuki M</u> . Uterine artery pseudoaneurysm: Not a rare condition occurring after non-traumatic delivery or non-traumatic abortion. Arch Obstet Gynecol 290: 435-440, 2014
有	論文212	Takahashi H, <u>Matsubara S</u> , Saito K, Bando M. Good obstetric outcome after embolization of pulmonary arteriovenous malformation in hereditary hemorrhagic telangiectasia: planned pregnancy may be important also in this condition. Aus N Z J Obstet Gynaecol 54: 191-191, 2014
有	論文213	Hirashima C, Ohkuchi A, Takahashi K, Suzuki H, <u>Matsubara S</u> , <u>Suzuki M</u> . A novel three-step approach for predicting the imminent onset of preeclampsia within 4 weeks after blood sampling at 19-31 weeks of gestation. Hypertens Res 37: 519-25, 2014
有	論文214	<u>Matsubara S</u> , Takahashi Y, Kawai A. Uterine artery pseudoaneurysm manifesting at the time of evacuation for abortion: pseudoaneurysm without preceding events. Acta Obstet Gynecol Scand 93: 723-724, 2014
有	論文215	<u>Matsubara S</u> . A new approach for the Bakri balloon for placenta previa. Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol 182: 262-263, 2014

有	論文216	<u>Matsubara S.</u> Ureteral catheter is useful to prevent ureteral injuries not only for gynecologic surgery but also for cesarean hysterectomy for placenta previa accreta: the obstetrician's opinion. <i>Urologia</i> 81: 187-188, 2014
有	論文217	<u>Matsubara S.</u> , Nonaka H, Kobayashi M, Kawai A, Fujii H. Uterine artery pseudoaneurysm after dilatation and curettage in a woman with multiple hepatic and pulmonary cavernous hemangiomas. <i>Int J Gynecol Obstet</i> 125: 84-85, 2014
有	論文218	<u>Matsubara S.</u> , Kuwata T, Baba Y, Usui R, Suzuki H, Takahashi H, Ohkuchi A, <u>Suzuki M.</u> A novel "uterine sandwich" for haemorrhage at caesarean section for placenta praevia. <i>Aus N Z J Obstet Gynaecol</i> 54: 283-286, 2014
有	論文219	Takahashi H, Takizawa T, <u>Matsubara S.</u> , Ohkuchi A, Kuwata T, Usui R, Matsumoto H, Sato Y, Fujiwara H, Okamoto A, <u>Suzuki M.</u> , Takizawa T. Extravillous trophoblast cell invasion is promoted by the CD44-hyaluronic acid interaction. <i>Placenta</i> 35: 163-170, 2014
有	論文220	Takahashi H, <u>Matsubara S.</u> , Kuwata T, Saruyama M, Usui R, Ohkuchi A, Takizawa T, <u>Suzuki M.</u> Changes in expression of VEGF-D related genes in placental mesenchymal dysplasia <i>J Obstet Gynaecol Res</i> 40: 1145-1149, 2014
有	論文221	Takahashi H, <u>Matsubara S.</u> , Kuwata T, Ohkuchi A, Mukoda Y, Saito K, Usui R, <u>Suzuki M.</u> Maternal manifestation of Ballantyne's syndrome occurring concomitantly with the development of fetal congenital mesoblastic nephroma. <i>J Obstet Gynaecol Res</i> 40: 1114-1117, 2014
有	論文222	<u>Matsubara S.</u> Uterine necrosis after B-Lynch suture in classical caesarean section. <i>Aus NZ J Obstet Gynaecol</i> 53: 595-596, 2013
有	論文223	Yamada T, Kubo T, Mochizuki J, Hashimoto E, Ohkuchi A, Ito M, Hanaoka M, Nakai A, Saito S, Unno N, <u>Matsubara S.</u> , Minakami H. Immune status among Japanese during nationwide rubella outbreak in Japan 2012-2013. <i>J Immunol</i> 68: 300-302, 2014
有	論文224	<u>Matsubara S.</u> , Kobayashi M, Baba Y, Usui R. Uterine artery pseudoaneurysm rupture as a culprit of postpartum hemorrhage: not always after cesarean section. <i>J Emerg Med</i> 46: e97-98, 2014
有	論文225	<u>Matsubara S.</u> Letter to the editor: web-based education for placental complications of pregnancy. <i>J Obstet Gynaecol Can</i> 35: 881-882, 2013
有	論文226	Kuwata T, Takahashi H, <u>Matsubara S.</u> 'stained glass' sign for placental mesenchymal dysplasia. <i>Ultrasound Obstet Gynecol</i> 43: 355, 2014
有	論文227	<u>Matsubara S.</u> Combination of an intrauterine balloon and the "holding the cervix" technique for hemostasis of postpartum hemorrhage and for prophylaxis of acute recurrent uterine inversion. <i>Acta Obstet Gynecol Scand</i> 93: 314-315, 2014
有	論文228	<u>Matsubara S.</u> , Nakata M, Baba Y, Suzuki H, Nakamura H, <u>Suzuki M.</u> Uterine artery pseudoaneurysm hidden behind septic abortion: pseudoaneurysm without preceding procedure. <i>J Obstet Gynaecol Res</i> 40: 586-589, 2014
有	論文229	Horie K, Suzuki H, Ohkuchi A, <u>Matsubara S.</u> , Ikemoto T, <u>Suzuki M.</u> Thrombus just beneath a retrievable IVC filter in a pregnant woman with deep vein thrombosis: its removal requiring catheter thrombus fragmentation with fibrinolysis. <i>J Obstet Gynaecol Res</i> 40: 590-594, 2014
有	論文230	<u>Matsubara S.</u> An untold factor that may influence the rate of cesarean section. <i>Acta Obstet Gynecol Scand</i> 93: 218-218, 2014
有	論文231	<u>Matsubara S.</u> Uterine compression suture: not yet complete. <i>Aus NZ J Obstet Gynaecol</i> 53: 505-506, 2013

有	論文232	Takahashi K, Ohkuchi A, Suzuki H, Usui R, Kuwata T, Shirasuna K, <u>Matsubara S</u> , <u>Suzuki M</u> . Biophysical interaction between blood pressure and uterine artery Doppler for the occurrence of early-onset preeclampsia: A prospective cohort study. <i>Pregnancy Hypertension</i> 3: 270-277, 2013
有	論文233	Ando H, <u>Matsubara S</u> , Oi A, Usui R, <u>Suzuki M</u> , Fujimura A. Two nursing mothers treated with zonisamide: should breastfeeding be avoided?. <i>J Obstet Gynaecol Res</i> 40: 275-278, 2014
有	論文234	Suzuki H, Kuwata T, Ohkuchi A, Yada Y, <u>Matsubara S</u> , <u>Suzuki M</u> . Maternal perception of decreased fetal movement in one twin: a clue leading to the early detection of absent variability due to acute twin-to-twin transfusion syndrome. <i>Case Rep Obstet Gynecol</i> :345808,2013
有	論文235	Ohkuchi A, Hirashima C, Takahashi K, Suzuki H, <u>Matsubara S</u> , <u>Suzuki M</u> . Onset threshold of the plasma levels of soluble fms-like tyrosine kinase 1/placental growth factor ratio for predicting the imminent onset of preeclampsia within 4 weeks after blood sampling at 19-31 weeks of gestation. <i>Hypertens Res</i> 36: 1073-1080, 2013
有	論文236	<u>Matsubara S</u> . Reply: Cesarean hysterectomy for placenta previa accreta; extrapolating measures may have merits for ordinary obstetricians. <i>Acta Obstet Gynecol Scand</i> 92: 1431-1432, 2013
有	論文237	<u>Matsubara S</u> . Practical consideration of inserting intrauterine balloon during cesarean section for placenta previa. <i>Acta Obstet Gynecol Scand</i> 93: 120-121, 2014
有	論文238	Hirashima C, Ohkuchi A, Takahashi K, Suzuki H, Matsuda Y, <u>Matsubara S</u> , <u>Suzuki M</u> . Additive effects of mean blood pressure and bilateral notching in the second trimester on subsequent angiogenesis-related factors. <i>Hypertens Res</i> 37: 76-81, 2014
有	論文239	<u>Matsubara S</u> , Kuwata T, Usui Rie, Ohkuchi A. Uterine artery pseudoaneurysm: A master of deception. <i>Arch Gynecol Obstet</i> 289: 469-70, 2014
有	論文240	<u>Matsubara S</u> . Reply to Ngene et al. (2013): Uterotonic agents should be avoided during cesarean hysterectomy for placenta previa accreta until evidence is forthcoming. <i>Acta Obstet Gynecol Scand</i> 92:1339-1339, 2013
有	論文241	<u>Matsubara S</u> , Kuwata T, Fukui S. Fetal movement count may prevent fetal death as early as 26 weeks. <i>Acta Obstet Gynecol Scand</i> 92: 1426-1426, 2013
有	論文242	<u>Matsubara S</u> , Baba Y, Suzuki H, Suzuki H, Nagashima T, <u>Suzuki M</u> . Uterine compression suture combined with holding the cervix technique: A measure to achieve hemostasis for atonic bleeding during or after cesarean section. <i>Acta Obstet Gynecol Scand</i> 92: 1234-1235, 2013
有	論文243	<u>Matsubara S</u> , Yano H, Kuwata T, Usui R, Ohkuchi A. Is it time to classify various uterine compression suture techniques? <i>Arch Gynecol Obstet</i> 288: 1195-6, 2013
有	論文244	<u>Matsubara S</u> , Usui R, Sato T, Kuwata T, Ohkuchi A, Nakata M. Adenomyomectomy, curettage, and then uterine artery pseudoaneurysm occupying the entire uterine cavity. <i>J Obstet Gynaecol Res</i> 39: 1103-1106, 2013
有	論文245	Yanagisawa S, Maeda K, Tazuke Y, Tsuji Y, Kubota I, Koike Y, Yada Y, Kono Y, Takahashi N, <u>Matsubara S</u> . Do neonates conceived after assisted reproductive technology require neonatal surgery more frequently? A 5-year-long single-center experience. <i>J Obstet Gynaecol Res</i> 39: 974-978, 2013
有	論文246	<u>Matsubara S</u> . Cesarean hysterectomy for placenta praevia accreta: filling the bladder technique to identify an appropriate bladder separation site. <i>J Obstet Gynaecol</i> 33: 163-164, 2013
有	論文247	<u>Matsubara S</u> , Yano H, Ohkuchi A, Kuwata T, Usui R, <u>Suzuki M</u> . Uterine compression suture for postpartum hemorrhage: An overview. <i>Acta Obstet Gynecol Scand</i> 92: 378-385, 2013

有	論文248	<u>Matsubara S</u> , Kuwata T, Usui R, Watanabe T, Izumi A, Ohkuchi A, <u>Suzuki M</u> , Nakata M. Important surgical measures and techniques at cesarean hysterectomy for placenta previa accreta. Acta Obstet Gynecol Scand 92: 372-377, 2013
有	論文249	Hirashima C, Ohkuchi A, Takahashi K, Usui R, <u>Matsubara S</u> , <u>Suzuki M</u> . Prediction of early-onset preeclampsia using angiogenesis-related factors. Med J Obstet Gynecol 2: 1025, 2014
有	論文250	Hirose N, Ohkuchi A, Usui R, <u>Matsubara S</u> , <u>Suzuki M</u> . Risk of preeclampsia in women with CKD, dialysis or kidney transplantation. Med J Obstet Gynecol 2: 1028, 2014
有	論文251	Kuwata T, <u>Matsubara S</u> , Ohkuchi A. Adenomyomectomy: to perform or not to perform? – the thin uterine wall during pregnancy after adenomyomectomy. Gazzetta Medica Italiana 173(9): 489-490, 2014
有	論文252	<u>Matsubara S</u> , Kuwata T, Yoshiba T, Usui R, Ohkuchi A. Uterine compression suture for cesarean hysterectomy: possible applications to conditions other than atonic bleeding. J Clin Case Rep 4: 5, 2014
有	論文253	<u>Matsubara S</u> , Usui R, Ohkuchi A. Controversy on another possible risk of preterm delivery after cervical conization: time interval between conization and conception. Eur J Gynecol Oncol 35: 5-6, 2014
有	論文254	Minakami H, Maeda T, Fujii T, Hamada H, Iitsuka Y, Itakura A, Itoh H, Iwashita T, Kanagawa T, Kanai M, Kasuga Y, Kawabata M, Kobayashi K, Kotani T, Kudo Y, Makino Y, <u>Matsubara S</u> , Matsuda H, Miura K, Murakoshi T, Murotsuki J, Ohkuchi A, Ohno Y, Ohshiba Y, Satoh S, Sekizawa A, Sugiura M, Suzuki S, Takahashi T, Tsukahara Y, Unno N, Yoshikawa H. Guidelines for obstetrical practice in Japan: Japan Society of Obstetrics and (JAOG) 2014 edition. J Obstet Gynaecol Res 40: 1469-1499, 2014
有	論文255	Ohkuchi A, Takahashi K, Hirashima C, Usui R, <u>Matsubara S</u> , <u>Suzuki M</u> . Prediction of early-onset preeclampsia using uterine artery Doppler. Med J Obstet Gynecol 2: 1026, 2014
有	論文256	Ohmaru T, Ohkuchi A, Muto S, Hirashima C, <u>Matsubara S</u> , <u>Suzuki M</u> . Increased antiangiogenetic factors in severe proteinuria without hypertension in pregnancy: is kidney biopsy necessary?. CEN Case Rep 3: 86-89, 2014
有	論文257	Suzuki H, Ohkuchi A, Shirasuna K, Takahashi H, Usui R, <u>Matsubara S</u> , <u>Suzuki M</u> . Animal model of preeclampsia: Insight into possible biomarker candidates for predicting preeclampsia. Med J Obstet Gynecol 2: 1031, 2014
有	論文258	Takahashi H, Ohkuchi A, Usui R, Takizawa T, <u>Matsubara S</u> , <u>Suzuki M</u> . Importance of chromosome 19 miRNA cluster in pregnancy. Med J Obstet Gynecol 2: 1032, 2014
有	論文259	Takahashi K, Ohkuchi A, Kobayashi M, <u>Matsubara S</u> , <u>Suzuki M</u> . Recurrence risk of hypertensive disease in pregnancy. Med J Obstet Gynecol 2: 1023, 2014

(部門名) 眼科学

査読の有無	通し番号	
有	論文260	<u>Takahashi H</u> , Nomura Y, Nishida J, Fujino Y, Yanagi Y, Kawashima H. Vascular endothelial growth factor (VEGF) concentration is underestimated by enzyme-linked immunosorbent assay in the presence of anti-VEGF drugs. Invest Ophthalmol Vis Sci in press 2016
有	論文261	Wu Y, Nakagawa S, <u>Takahashi H</u> , Kawabata Y, Suzuki E, Uehara Y. The Angiotensin II Receptor Antagonist, Losartan, Enhances Regulator of G Protein Signaling 2 mRNA Expression in Vascular Smooth Muscle Cells of Wistar Rat. Hypertens Res advance online publication 14 January 2016

有	論文262	Nomura Y, <u>Takahashi H</u> , Fujino Y, Kawashima H, Yanagi Y. Association between aqueous humor C-X-C motif chemokine ligand 13 levels and subfoveal choroidal thickness in normal older subjects. Retina 36: 192-198, 2016
有	論文263	Nomura Y, <u>Takahashi H</u> , Tan X, Fujino Y, Kawashima H, Yanagi Y. Effect of posterior vitreous detachment on aqueous humor level of vascular endothelial growth factor in exudative age-related macular degeneration patients. Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 254: 53-57, 2016
有	論文264	Wu Y, <u>Takahashi H</u> , Suzuki E, Kruzliak P, Soucek M, Uehara Y. Impaired response of regulator of Gαq signaling-2 mRNA to angiotensin II and hypertensive renal injury in Dahlsalt-sensitive rats. Hypertens Res advance online publication 26 November 2015
有	論文265	Sakamoto S, Arai Y, <u>Takahashi H</u> , Fujino Y, Obata R, Yanagi Y, Kawashima H. Two Cases of Rapid Thinning of the Choroid Prior to Appearance of Polypoid Lesions. JSM Ophthalmology 3: 1033, 2015
有	論文266	<u>Takahashi H</u> , Nomura Y, Tan X, Fujino Y, Kawashima H, Yanagi Y. Effects of posterior vitreous detachment on aqueous humour levels of VEGF and inflammatory cytokines. Br J Ophthalmol 99: 1065-1069, 2015
有	論文267	<u>Takahashi H</u> , Ohkubo Y, Sato A, Takezawa M, Fujino Y, Yanagi Y, Kawashima H. RELATIONSHIP BETWEEN VISUAL PROGNOSIS AND DELAY OF INTRAVITREAL INJECTION OF RANIBIZUMAB WHEN TREATING AGE-RELATED MACULAR DEGENERATION. Retina 35: 1331-1338, 2015
有	論文268	Nomura Y, <u>Takahashi H</u> , Tan X, Obata R, Yanagi Y. Widespread choroidal thickening and abnormal midperipheral fundus autofluorescence characterize exudative age-related macular degeneration with choroidal vascular hyperpermeability. Clin Ophthalmol 9: 297-304, 2015
有	論文269	Tan X, <u>Takahashi H</u> , Nishida J, Aoki A, Inoue T, Yanagi Y. Excessive retinol intake exacerbates choroidal neovascularization through upregulated vascular endothelial growth factor in retinal pigment epithelium in mice. Exp Eye Res 131: 77-83, 2015
有	論文270	Nomura Y, <u>Takahashi H</u> , Tan X, Fujimura S, Obata R, Yanagi Y. Effects of vitreomacular adhesion on ranibizumab treatment in Japanese patients with age-related macular degeneration. Jpn J Ophthalmol 58: 443-447, 2014
有	論文271	<u>Takahashi H</u> , Hayashi T, Tsuneoka H, Nakano T, Yamada H, Katagiri S, Fujino Y, Noda Y, Yoshimoto M, Kawashima H. Occult macular dystrophy with bilateral chronic subfoveal serous retinal detachment associated with a novel RP1L1 mutation (p.S1199P). Doc Ophthalmol 129: 49-56, 2014
有	論文272	Yamamoto K, <u>Takahashi H</u> , Kanno M, Noda Y, Fujino Y. Changes in parafoveal retinal thickness and subfoveal choroidal thickness in a patient with dengue fever-associated maculopathy. J Ophthalmic Inflamm Infect 3: 63, 2013
有	論文273	Fujimura S, Ueta T, <u>Takahashi H</u> , Obata R, Smith RT, Yanagi Y. Characteristics of fundus autofluorescence and drusen in the fellow eyes of Japanese patients with exudative age-related macular degeneration. Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 251: 1-9, 2013
有	論文274	Obata R, <u>Takahashi H</u> , Ueta T, Yuda K, Kure K, Yanagi Y. Tomographic and angiographic characteristics of eyes with macular focal choroidal excavation. Retina 33: 1201-1210, 2013

(部門名) 機能生化学部門

査読の有無	通し番号	
-------	------	--

有	論文275	Akimoto C, Sakashita E, Kasashima K, Kuroiwa K, Tominaga K, Hamamoto T, and <u>Endo H</u> . Translational repression of the McKusick-Kaufman syndrome transcript by unique upstream open reading frames encoding mitochondrial proteins with alternative polyadenylation sites. <i>Biochem Biophys Acta</i> 1830: 2728-2738, 2013
有	*論文276	Tetsuka S, Tominaga K, Ohta E, Kuroiwa K, Sakashita E, Kasashima K, Hamamoto T, Namekawa M, Morita M, Natsui S, Morita T, Tanaka K, Takiyama Y, Nakano I, and <u>Endo H</u> . Paraneoplastic cerebellar degeneration associated with an onconeural antibody against creatine kinase, brain-type. <i>J Neurol Sci</i> 335: 48-57, 2013
有	論文277	川西康太郎、森田光哉、中原圭一、手塚修一、幸喜富、富永薫、遠藤仁司、屋代隆、田中恵子、中野今治。抗神経抗体が存在が確認できた膀胱癌を伴う傍腫瘍小脳変性症の1例。 <i>Brain and Nerve</i> 65(11): 1401-1405, 2013
有	論文278	Tucker E J, Wanschers BFJ, Szklarczyk R, Mountford HS, Wijeyeratne X W, van den Brand MAM, Leenders AM, Rodenburg RJ, Reljic B, Compton AG, Frazier AE, Bruno D L, Christodoulou J, <u>Endo H</u> , Ryan MT, Nijtmans LG, Huynen MA, and Thorburn DR. Mutations in the UQCC1-Interacting Protein, UQCC2, Cause Human Complex III Deficiency Associated with Perturbed Cytochrome b Protein Expression. <i>PLoS genetics</i> 9(12): e1004034, 2013.
有	論文279	Kasashima K, Nagao Y, and <u>Endo H</u> . Dynamic regulation of mitochondrial genome maintenance in germ cells. <i>Reprod Med Biol</i> 13 (1): 11-20, 2014.
有	*論文280	Yamamoto S, Nagao Y, Kuroiwa K, Hakamata Y, Ichida M, Saito-Ohara F, Tominaga K, and <u>Endo H</u> . Rapid selection of XO embryonic stem cells using Y chromosome-linked GFP transgenic mice. <i>Transgenic Res</i> 23: 757-765, 2014.
有	*論文281	Kasashima K. and <u>Endo H</u> . Interaction of human TFAM in mitochondria: its involvement in the dynamics of mitochondrial DNA nucleoids. <i>Genes to Cells</i> 20: 1017-1027, 2015.

(部門名) 構造生化学部門

査読の有無	通し番号	
有	論文282	Funakoshi-Tago M, Hattori T, Ueda F, <u>Tago K</u> , Ohe T, Mashino T and Tamura H. A proline type fullerene derivative inhibits adipogenesis through preventing PPAR γ activation. <i>Biochem. Biophys. Rep.</i> (In press)
有	論文283	Tominaga SI, Ohta S, <u>Tago K</u> . Soluble form of the ST2 gene product exhibits growth promoting activity in NIH-3T3 cells. <i>Biochem. Biophys. Rep.</i> (In press)
有	論文284	Funakoshi-Tago M, Okamoto K, Izumi R, <u>Tago K</u> , Yanagisawa K, Narukawa Y, Kiuchi F, Kasahara T, Tamura H. Anti-inflammatory activity of flavonoids in Nepalese propolis is attributed to inhibition of the IL-33 signaling pathway. <i>Int Immunopharmacol</i> 25 (1): 189-198, 2015
有	論文285	<u>Tago K</u> , Funakoshi-Tago M, Itoh H, Furukawa Y, Kikuchi J, Kato T, Suzuki K, Yanagisawa K. Arf tumor suppressor disrupts the oncogenic positive feedback loop including c-Myc and DDX5. <i>Oncogene</i> 34 (3): 314-322, 2015
有	論文286	Tominaga S, <u>Tago K</u> , Tsuda H, Komine M. Dual function of IL-33 on proliferation of NIH-3T3 cells. <i>Cytokine</i> 72 (1): 105-108, 2015
有	論文287	Torii T, Miyamoto Y, <u>Tago K</u> , Sango K, Nakamura K, Sanbe A, Tanoue A, Yamauchi J. Arf6 guanine nucleotide exchange factor cytohesin-2 binds to CCDC120 and is transported along neurites to mediate neurite growth. <i>J. Biol Chem</i> 289 (49): 33887-33903, 2014

有	論文288	Funakoshi-Tago M, Tsukada M, Watanabe T, Mameda Y, <u>Tago K</u> , Ohe T, Nakamura S, Mashino T, Kasahara T. Effect of chemical modification on the ability of pyrrolidinium fullerene to induce apoptosis of cells transformed by JAK2 V617F mutant. <i>Int Immunopharmacol</i> 20 (1): 258-263, 2014
有	論文289	Ueda F, Sumi K, <u>Tago K</u> , Kasahara T, Funakoshi-Tago M. Critical role of FANCC in JAK2 V617F mutant-induced resistance to DNA cross-linking drugs. <i>Cell Signal</i> 25 (11): 2115-2124, 2013

(部門名) 統合病理学部門

査読の有無	通し番号	
有	論文290	Ui T, Morishima K, Saito S, Sakuma Y, Fujii H, Hosoya Y, Ishikawa S, Aburatani H, Fukayama M, <u>Niki T</u> , Yasuda Y. The Hsp 90 inhibitor, 17-N-allylamino-17-demethoxy geldanamycin (17-AAG) synergizes with cisplatin and induces apoptosis in cisplatin-resistant esophageal squamous cell carcinoma cell lines via the Akt/XIAP pathway. <i>Oncol Rep</i> 31: 619-624, 2014
有	論文291	Ibrahim R, Matsubara D, Osman W, Morikawa T, Goto A, Morita S, Ishikawa S, Aburatani H, Takai D, Nakajima J, Fukayama M, <u>Niki T</u> , Murakami Y. Expression of PRMT5 in lung adenocarcinoma and its significance in epithelial mesenchymal transition. <i>Hum Pathol</i> 45: 1397-1405, 2014
有	論文292	Saito S, Morishima K, Ui T, Matsubara D, Tamura T, Oguni S, Hosoya Y, Sata N, Lefor AT, Yasuda Y, <u>Niki T</u> . Stromal fibroblasts are predictors of disease-related mortality in esophageal squamous cell carcinoma. <i>Oncol Rep</i> 32: 348-54, 2014
有	論文293	Matsubara D, Kishaba Y, Yoshimoto T, Sakuma Y, Sakatani T, Tamura T, Endo S, Sugiyama Y, Murakami Y, <u>Niki T</u> . Immunohistochemical analysis of the expression of E-cadherin and ZEB1 in non-small cell lung cancer. <i>Pathol Int</i> 64: 560-568, 2014
有	論文294	Saito S, Morishima K, Ui T, Hoshino H, Matsubara D, Ishikawa S, Aburatani H, Fukayama M, Hosoya Y, Sata N, Lefor AK, Yasuda Y, <u>Niki T</u> . The role of HGF/MET and FGF/FGFR in fibroblast-derived growth stimulation and lapatinib-resistance of esophageal squamous cell carcinoma. <i>BMC Cancer</i> (in press)
有	論文295	Yoshimoto T, Matsubara D, Nakano T, Tamura T, Endo S, Sugiyama Y, <u>Niki T</u> . Frequent loss of the expression of multiple subunits of the SWI/SNF complex in large cell carcinoma and pleomorphic carcinoma of the lung. <i>Pathol Int</i> 65: 595-602, 2015
有	論文296	Sakuma Y, Nishikiori H, Hirai S, Yamaguchi M, Yamada G, Watanabe A, Hasegawa T, Kojima T, <u>Niki T</u> , Takahashi H. Prolyl isomerase Pin1 promotes survival in EGFR-mutant lung adenocarcinoma cells with an epithelial-mesenchymal transition phenotype. <i>Lab Invest</i> (in press)

(部門名) 婦人科学部門

査読の有無	通し番号	
有	論文297	Takahashi Y, Saga Y, Koyanagi T, Takei Y, Machida S, Taneichi A, Mizukami H, Sato Y, <u>Matsubara S</u> , Fujiwara H. The angiogenesis regulator vasohibin-1 inhibits ovarian cancer growth and peritoneal dissemination and prolongs host survival. <i>Int J Oncol</i> 47: 2057-2063, 2015

有	論文298	Koyanagi T, Suzuki Y, Saga Y, Machida S, Takei Y, Fujiwara H, <u>Suzuki M</u> , Sato Y. In vivo delivery of siRNA targeting vasohibin-2 decreases tumor angiogenesis and suppresses tumor growth in ovarian cancer. Cancer Sci 104: 1705-1710, 2013
---	-------	---

(部門名) 消化器内科学部門

査読の有無	通し番号	
有	論文299	Sunada K, Shinozaki S, Nagayama M, Yano T, Takezawa T, Ino Y, Sakamoto H, Miura Y, Hayashi Y, Sato H, Lefor A. K, <u>Yamamoto H</u> . Long-term Outcomes in Patients with Small Intestinal Strictures Secondary to Crohn's Disease After Double-balloon Endoscopy-assisted Balloon Dilation. Inflamm Bowel Dis Oct 30, 2015 [Epub ahead of print]
有	論文300	Sakamoto H, Asahara T, Chonan O, Yuki N, Mutoh H, Hayashi S, <u>Yamamoto H</u> , Sugano K. Comparative analysis of gastrointestinal microbiota between normal and Cdx2 transgenic mice. Intestinal Research 13: 39-49, 2015
有	論文301	Sakamoto H, Mutoh H, Miura Y, Sashikawa M, <u>Yamamoto H</u> , Sugano K. SOX9 Is Highly Expressed in Nonampullary Duodenal Adenoma and Adenocarcinoma in Humans. Gut Liver 7: 513-518, 2015
有	論文302	Hayashi Y, <u>Yamamoto H</u> , Yano T, Kitamura A, Takezawa T, Ino Y, Sakamoto H, Miura Y, Shinhata H, Sato H, Sunada K, Sugano K. A calibrated, small-caliber tip, transparent hood to aid endoscopic balloon dilation of intestinal strictures in Crohn's disease: successful use of prototype. Endoscopy 45 Suppl 2: E373-4, 2013

(部門名) 幹細胞制御研究部

査読の有無	通し番号	
有	*論文303	Kikuchi J, Koyama D, Wada T, Izumi T, Hofgaard P.O, Bogen B, and <u>Furukawa Y</u> . Phosphorylation-mediated EZH2 Inactivation Promotes Drug Resistance in Multiple Myeloma J. Clin. Invest. 125: 4375-4390, 2015
有	論文304	Wada T, Koyama D, Kikuchi J, Honda H, and <u>Furukawa, Y</u> . Overexpression of the Shortest Isoform of Histone Demethylase LSD1 Primes Hematopoietic Stem Cells for Malignant Transformation. Blood 125: 3731-3746, 2015
有	論文305	Tago K, Funakoshi-Tago M, Itoh H, <u>Furukawa, Y</u> , Kikuchi J, Kato T, Suzuki K, and Yanagisawa K. Arf Tumor Suppressor Disrupts the Oncogenic Positive Feedback Loop Including c-Myc and DDX5. Oncogene 34: 310-318, 2015
有	論文306	Nemoto A, Saida S, Kato I, Kikuchi J, <u>Furukawa Y</u> , Maeda Y, Akahane K, Honna-Oshiro H, Goi K, Kagami K, Kimura S, Sato Y, Okabe S, Niwa A, Watanabe K, Nakahata T, Heike T, Sugita K, and Inukai T. Specific Anti-leukemic Activity of PD0332991, a CDK4/6 inhibitor, against Philadelphia Chromosome-positive Lymphoid Leukemia Mol. Cancer Ther., published online on December 4, 2015
有	論文307	Koyama D, Sato Y, Aizawa M, Maki T, Kurosawa M, Kuro-o M, and <u>Furukawa Y</u> . Soluble α Klotho as a Candidate for the Biomarker of Aging. Biochem. Biophys. Res. Commun 467: 1019-1025, 2015
有	論文308	Koyama D, Kikuchi J, Hiraoka N, Wada T, Kurosawa H, Chiba S, and <u>Furukawa Y</u> . Proteasome Inhibitors Exert Cytotoxicity and Increase Chemosensitivity via Transcriptional Repression of Notch1 in T-cell Acute Lymphoblastic Leukemia. Leukemia 28: 1216-1226, 2014

有	論文309	Hiraoka N, Kikuchi J, Yamauchi T, Koyama D, Wada T, Uesawa M, Akutsu M, Mori S, Nakamura Y, Ueda T, Kano Y, and <u>Furukawa Y</u> . Purine Analog-like Properties of Bendamustine Underlie Rapid Activation of DNA Damage Response and Synergic Effects with Pyrimidine Analogues in Lymphoid Malignancies. PLoS One 9: e90675, 2014
有	*論文310	Kikuchi J, Koyama D, Mukai HY, and <u>Furukawa, Y</u> . Suitable Drug Combination with Bortezomib for Multiple Myeloma under Stroma-free Conditions and in Contact with Fibronectin or Bone Marrow Stroma. Int. J. Hematol. 99: 726-736, 2014
有	論文311	Sripayap P, Nagai T, Hatano K, Kikuchi J, <u>Furukawa Y</u> , and <u>Ozawa K</u> . Romidepsin Overcomes Cell Adhesion-mediated Drug Resistance in Multiple Myeloma Cells. Acta Haematol 132: 1-4, 2014
有	論文312	Kikuchi J, Yamada S, Koyama D, Wada T, Nobuyoshi M, Izumi T, Akutsu M, Kano Y, and <u>Furukawa Y</u> . The Novel Orally Active Proteasome Inhibitor K-7174 Exerts Anti-myeloma Activity <i>in Vitro</i> and <i>in Vivo</i> by Down-regulating the Expression of Class I Histone Deacetylases. J. Biol. Chem 288: 25593-25602, 2013
有	論文313	Kikuchi J, Shibayama N, Yamada S, Wada T, Nobuyoshi M, Izumi T, Akutsu M, Kano Y, Sugiyama K, Ohki M, Park S-Y, and <u>Furukawa Y</u> . Homopiperazine Derivatives as a Novel Class of Proteasome Inhibitors with a Unique Mode of Proteasome Binding. PLoS One 8: e60649, 2013
有	論文314	Kuroda I, Inukai T, Zhang X, Kikuchi J, <u>Furukawa Y</u> , Nemoto A, Akahane K, Hirose K, Honna-Ooshiro H, Goi K, Kagami K, Yagita H, Tauchi T, Maeda Y, and Sugita K. BCR-ABL Regulates Death Receptor Expression for TNF-related Apoptosis-inducing Ligand (TRAIL) in Philadelphia Chromosome-positive Leukemia. Oncogene 32: 1670-1681, 2013
有	論文315	Hiraoka N, Kikuchi J, Koyama D, Wada T, Mori S, Nakamura Y, and <u>Furukawa Y</u> . Alkylating Agents Induce Histone H3K18 Hyperacetylation and Potentiate HDAC Inhibitor-mediated Global Histone Acetylation and Cytotoxicity in Mantle Cell Lymphoma. Blood Cancer J 3: e169, 2013

(部門名) 細胞生物研究部

査読の有無	通し番号	
有	論文316	Kawasaki T, Takahashi M, Yajima H, Mori Y and <u>Kawakami K</u> . Six1 is required for mouse dental follicle cell and human periodontal ligament-derived adult stem cell proliferation. Dev. Growth Diff. in press, 2016
有	論文317	Sato S, Yajima H, Furuta Y, Ikeda K and <u>Kawakami K</u> . Activation of Six1 expression in vertebrate sensory neurons. PLoS One, 10, e0136666, 2015
有	論文318	Ikeda K, Takahashi M, Sato S, Igarashi H, Ishizuka T, Yawo H, Arata S, Southard-Smith E M, <u>Kawakami K</u> and Onimaru H. A Phox2b BAC transgenic rat line useful for understanding respiratory rhythm generator neural circuitry. PLoS One, 10, e0132475, 2015
有	論文319	Tani M, Yazawa I, Ikeda K, <u>Kawakami K</u> , and Onimaru H. Long-lasting facilitation of respiratory rhythm by treatment with TRPA1 agonist, cinnamaldehyde, J. Neurophys. 114, 989-98, 2015
有	論文320	Tsuzawa K, Yazawa I, Shakuo T, Ikeda K, <u>Kawakami K</u> and Onimaru H. Effects of ouabain on respiratory rhythm generation in brainstem-spinal cord preparation from newborn rats and in decerebrate and arterially perfused in situ preparation from juvenile rats. Neuroscience, 286, 404-411, 2015
有	論文321	Sugimoto H, Ikeda K and <u>Kawakami K</u> . Heterozygous mice deficient in Atp1a3 exhibit motor deficits by chronic restraint stress. Behavioural Brain Res 272: 100-110, 2014

有	論文322	Yajima H, Suzuki M, Ochi H, Ikeda K, Sato S, Yamamura K, Ogino H, Ueno N, <u>Kawakami K</u> . Six1 is a key regulator of the developmental and evolutionary architecture of sensory neurons in craniates. BMC Biology 12: 40, 2014
有	論文323	Onimaru H, Ikeda K, Mariho T and <u>Kawakami K</u> . Cytoarchitecture and CO2 sensitivity of Phox2b-positive parafacial neurons in the newborn rat medulla. Prog Brain Res 209: 57-71, 2014
有	論文324	Ono K, Kita T, Sato S, O'Neill P, Mark S S, Paschaki M, Ito M, Gotoh N, <u>Kawakami K</u> , Sasai Y and Ladher R K. FGFR1-Frs2/3 signalling maintains sensory progenitors during inner ear hair cell formation. PLoS Genet 10: e1004118, 2014
有	論文325	Fujimoto Y, Tanaka S S, Yamaguchi Y L Kobayashi H, Kuroki S, Tachibana M, Shinomura M, Kanai Y, Morohashi K, <u>Kawakami K</u> and Nishinakamura R. Homeoproteins Six1 and Six4 regulate male sex determination and mouse gonadal development. Dev. Cell 26: 416-430, 2013
有	論文326	Ikeda K, Satake S, Onaka T, Sugimoto H, Takeda N, Imoto K and <u>Kawakami K</u> . Enhanced inhibitory neurotransmission in the cerebellar cortex of Atp1a3-deficient heterozygous mice. J. Physiol 591: 3433-3449, 2013

(部門名) 再生医学研究部

査読の有無	通し番号	
有	*論文327	Abe T, <u>Hanazono Y</u> , Nagao Y. A long-term follow-up study on the engraftment of human hematopoietic stem cells in sheep. Exp Anim 63(4): 475-481, 2014
有	論文328	Mizukami Y, Abe T, Shibata H, Makimura Y, Fujishiro SH, Yanase K, Hishikawa S, Kobayashi E, <u>Hanazono Y</u> . MHC-matched induced pluripotent stem cells can attenuate cellular and humoral immune responses but are still susceptible to innate immunity. PLOS ONE 13;9(6): e98319, 2014
有	論文329	Watanabe M, Nakano K, Matsunari H, Matsuda T, Maehara M, Kanai T, Kobayashi M, Matsumura Y, Sakai R, Kuramoto M, Hayashida G, Asano Y, Takayanagi S, Arai Y, Umeyama K, Nagaya M, <u>Hanazono Y</u> , Nagashima H. Generation of interleukin-2 receptor gamma gene knockout pigs from somatic cells genetically modified by zinc finger nuclease-encoding mRNA. PLOS ONE 9; 8(10): e76478, 2013
有	論文330	Arai Y, Ohgane J, Fujishiro S-H, Nakano K, Matsunari H, Watanabe M, Umeyama K, Azuma D, Uchida N, Sakamoto N, Makino T, Yagi S, Shiota K, <u>Hanazono Y</u> , Nagashima H. DNA methylation profiles provide a viable index for porcine pluripotent stem cells. Genesis 51(11): 763-776, 2013
有	論文331	Nakano K, Watanabe M, Matsunari H, Matsuda T, Honda K, Maehara M, Kanai T, Hayashida G, Kobayashi M, Kuramoto M, Arai Y, Umeyama K, Fujishiro S-H, Mizukami Y, Nagaya M, <u>Hanazono Y</u> , Nagashima H. Generating porcine chimeras using inner cell mass cells and parthenogenetic preimplantation embryos. PLOS ONE 23; 8(4): e61900, 2013
有	論文332	Fujishiro SH, Nakano K, Mizukami Y, Azami T, Arai Y, Matsunari H, Ishino R, Nishimura T, Watanabe M, Abe T, Furukawa Y, Umeyama K, Yamanaka S, Ema M, Nagashima H, <u>Hanazono Y</u> . Generation of naive-like porcine induced pluripotent stem cells capable of contributing to embryonic and fetal development. Stem Cells Dev 22(3): 473-482, 2013

(部門名) 病態生化学部門

査読の有無	通し番号	
有	論文333	<u>Ohmori T</u> , Mizukami H, Ozawa K, Sakata Y, and Nishimura S. New approaches to gene and cell therapy for hemophilia, J Thrombosis and Haemostasis 13: S133-S142, 2015
有	論文334	Nishimura S, Nagasaki M, Kunishima S, Sawaguchi A, Sakata A, Sakaguchi H, <u>Ohmori T</u> , Manabe I, Italiano JE Jr, Ryu T, Takayama N, Komuro I, Kadowaki T, Eto K, Nagai R. IL-1 α induces thrombopoiesis through megakaryocyte rupture in response to acute platelet needs. J Cell Biol 209: 453-66, 2015
有	論文335	Nishimura S, Nagasaki M, Okudaira S, Aoki J, <u>Ohmori T</u> , Ohkawa R, Nakamura K, Igarashi K, Yamashita H, Eto K, Uno K, Hayashi N, Kadowaki T, Komuro I, Yatomi Y, Nagai R. ENPP2 contributes to adipose tissue expansion in diet-induced obesity. Diabetes 63: 4154-4164, 2014
有	論文336	Sakata A, <u>Ohmori T</u> , Nishimura S, Suzuki H, Madoiwa S, Mimuro J, Kario K, and Sakata Y. Paxillin is an intrinsic negative regulator of platelet activation in mice. Thrombosis J 12: e1, 2014
有	論文337	Mimuro J, Mizukami H, Shima M, Matsushita T, Taki M, Muto S, Higasa S, Sakai M, <u>Ohmori T</u> , Madoiwa S, Ozawa K, and Sakata Y. The prevalence of neutralizing antibodies against adeno-associated virus capsids is reduced in young Japanese individuals. J Med Virol 86: 1990-1997, 2014
有	論文338	Kashiwakura Y, <u>Ohmori T</u> , Mimuro J, Madoiwa S, Inoue M, Hasegawa M, Ozawa K, and Sakata Y. Production of functional coagulation factor VIII from iPSCs using a lentiviral vector. Haemophilia 20: e40-44, 2014
有	論文339	Madoiwa S, Kitajima I, <u>Ohmori T</u> , Sakata Y, and Mimuro J. Distinct reactivity of the commercially available monoclonal antibodies of d-dimer and plasma FDP testing to the molecular variants of fibrin degradation products. Thromb Res 132: 457-464, 2013
有	論文340	Yasumoto A, Madoiwa S, Kashiwakura Y, Ishiwata A, <u>Ohmori T</u> , Mizukami H, Ozawa K, Sakata Y, Mimuro J. Overexpression of factor VII ameliorates bleeding diathesis of factor VIII-deficient mice with inhibitors. Thromb Res 131: 444-449, 2013
有	論文341	Mimuro J, Mizukami H, Hishikawa S, Ikemoto T, Ishiwata A, Sakata A, <u>Ohmori T</u> , Madoiwa S, Ono F, Ozawa K, Sakata Y. Minimizing the Inhibitory Effect of Neutralizing Antibody for Efficient Gene Expression in the Liver With Adeno-associated Virus 8 Vectors. Mol Ther 21: 318-323, 2013
有	論文342	Watanabe N, Ohashi K, Tatsumi K, Utoh R, Shim IK, Kanegae K, Kashiwakura Y, <u>Ohmori T</u> , Sakata Y, Inoue M, Hasegawa M, Okano T. Genetically modified adipose tissue-derived stem/stromal cells, using simian immunodeficiency virus-based lentiviral vectors, in the treatment of hemophilia B. Hum Gene Ther 24: 283-294, 2013

(部門名) 遺伝子治療研究部

査読の有無	通し番号	
有	論文343	Tsukahara T, Iwase N, Kawakami K, Iwasaki M, Yamamoto C, Ohmine K, Uchibori R, Teruya T, Ido H, Yasushi S, Urabe M, Mizukami H, Kume A, Nakamura M, Brentjens R, <u>Ozawa, K</u> . The Tol2 transposon system mediates the genetic engineering of T-cells with CD19-specific chimeric antigen receptors for B-cell malignancies. Gene Ther 22: 209-215, 2015

有	論文344	Tsukahara T, Ohmine K, Yamamoto C, Uchibori R, Ido H, Teruya T, Urabe M, Mizukami H, Kume A, Nakamura M, Mineno J, Takesako K, Riviere I, Sadelain M, Brentjens R, <u>Ozawa, K.</u> CD19 target-engineered T-cells accumulate at tumor lesions in human B-cell lymphoma xenograft mouse models. <i>Biochem Biophys Res Commun</i> 438: 84-89, 2013
---	-------	--

(部門名) 抗加齢医学研究部

査読の有無	通し番号	
有	論文345	Borst O, Munzer P, Schmid E, Schmidt EM, Russo A, Walker B, Yang W, Leibrock C, Szteyn K, Schmidt S, Elvers M, Faggio C, Shumilina E, <u>Kuro-o M</u> , Gawaz M & Lang F. 1,25(OH) ₂ vitamin D ₃ -dependent inhibition of platelet Ca ²⁺ signaling and thrombus formation in klotho-deficient mice. <i>FASEB J</i> 28: 2108-2119, 2014
有	論文346	Dubal DB, Yokoyama JS, Zhu L, Broestl L, Worden K, Wang D, Sturm VE, Kim D, Klein E, Yu GQ, Ho K, Eilertson KE, Yu L, <u>Kuro-o M</u> , De Jager PL, Coppola G, Small GW, Bennett DA, Kramer JH, Abraham CR, Miller BL & Mucke L. Life extension factor klotho enhances cognition. <i>Cell reports</i> 7: 1065-1076, 2014
有	論文347	Haenzi B, Bonny O, Masson R, Lienhard S, Dey JH, <u>Kuro-o M</u> & Hynes NE. Loss of Memo, a novel FGFR regulator, results in reduced lifespan. <i>FASEB J</i> 28: 327-336, 2014
有	論文348	Hu MC, <u>Kuro-o M</u> & Moe OW. alphaKlotho and vascular calcification: an evolving paradigm. <i>Curr Opin Nephrol Hypertens</i> 23: 331-339, 2014
有	論文349	Hu MC, Shi M, Cho HJ, Adams-Huet B, Paek J, Hill K, Shelton J, Amaral AP, Faul C, Taniguchi M, Wolf M, Brand M, Takahashi M, <u>Kuro-o M</u> , Hill JA & Moe OW. Klotho and phosphate are modulators of pathologic uremic cardiac remodeling. <i>J Am Soc Nephrol</i> 26: 1290-1302, 2015
有	論文350	Jiang L, Xiao L, Sugiura H, Huang X, Ali A, <u>Kuro-o M</u> , Deberardinis RJ & Boothman DA. Metabolic reprogramming during TGFbeta1-induced epithelial-to-mesenchymal transition. <i>Oncogene</i> 0, 2014
有	論文351	<u>Kuro-o M</u> . Calciprotein particle (CPP): a true culprit of phosphorus woes?. <i>Nefrologia</i> 34: 1-4, 2014
有	論文352	Moe OW & <u>Kuro-o M</u> . Fibroblast growth factor 23 and uremic vascular calcification: is it time to escalate from biomarker status to pathogenic agent?. <i>Kidney Int</i> 85: 1022-1023, 2014
有	論文353	Ravikumar P, Ye J, Zhang J, Pinch SN, Hu MC, <u>Kuro-o M</u> , Hsia CC & Moe OW. Alpha-Klotho protects against oxidative damage in pulmonary epithelia. <i>Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol</i> 307: L566-575, 2014
有	論文354	Xie J, Yoon J, An SW, <u>Kuro-o M</u> & Huang CL. Soluble Klotho Protects against Uremic Cardiomyopathy Independently of Fibroblast Growth Factor 23 and Phosphate. <i>J Am Soc Nephrol</i> 26: 1150-1160, 2014
有	論文355	Barker SL, Pastor J, Carranza D, Quinones H, Griffith C, Goetz R, Mohammadi M, Ye J, Zhang J, Hu MC, <u>Kuro-o M</u> , Moe OW & Sidhu SS. The demonstration of alphaKlotho deficiency in human chronic kidney disease with a novel synthetic antibody. <i>Nephrol Dial Transplant</i> 30: 223-233, 2015
有	論文356	Dubal DB, Zhu L, Sanchez PE, Worden K, Broestl L, Johnson E, Ho K, Yu GQ, Kim D, Betourne A, <u>Kuro-o M</u> , Masliah E, Abraham CR & Mucke L. Life Extension Factor Klotho Prevents Mortality and Enhances Cognition in hAPP Transgenic Mice. <i>J Neurosci</i> 35: 2358-2371, 2015

有	論文357	Leibrock CB, Alesutan I, Voelkl J, Michael D, Castor T, Kohlhofer U, Quintanilla-Martinez L, Kubler L, Mannheim JG, Pichler BJ, Rosenblatt KP, <u>Kuro-o M</u> & Lang F. Acetazolamide sensitive tissue calcification and aging of klotho-hypomorphic mice. J Mol Med (Berl), 2015
有	論文358	Leibrock CB, Alesutan I, Voelkl J, Pakladok T, Michael D, Schleicher E, Kamyabi-Moghaddam Z, Quintanilla-Martinez L, <u>Kuro-o M</u> & Lang F. NH4Cl Treatment Prevents Tissue Calcification in Klotho Deficiency. J Am Soc Nephrol 26: 2423-2433, 2015
有	論文359	Koyama D, Sato Y, Aizawa M, Maki T, Kurosawa M, Kuro-o M & Furukawa Y. Soluble alphaKlotho as a candidate for the biomarker of aging. Biochem Biophys Res Commun 467: 1019-1025, 2015
有	論文360	Leibrock CB, Voelkl J, Kohlhofer U, Quintanilla-Martinez L, <u>Kuro-o M</u> & Lang F. Bicarbonate-Sensitive Calcification and Life Span of klotho-deficient mice. Am J Physiol Renal Physiol 310, ajprenal.00037.02015, 2015
有	論文361	Otani-Takei N, Masuda T, Akimoto T, Honma S, Watanabe Y, Shiizaki K, Miki T, Kusano E, Asano Y, <u>Kuro-o M</u> & Nagata D. Association between Serum Soluble Klotho Levels and Mortality in Chronic Hemodialysis Patients. Int J Endocrinol 2015: 406269, 2015
有	論文362	Hu MC, Shi M, Zhang J, Addo T, Cho HJ, Barker SL, Ravikumar P, Gillings N, Bian A, Sidhu SS, <u>Kuro-o M</u> & Moe OW. Renal Production, Uptake, and Handling of Circulating alphaKlotho. J Am Soc Nephrol 27: 79-90, 2016

(部門名) 分子病態研究部

査読の有無	通し番号	
有	論文363	Nishimura D, Sakai H, Sato T, Sato F, <u>Nishimura S</u> , Toyama-Sorimachi N, Bartsch J, Sehara-Fuiasawa A. Roles of ADAM8 in eliminatin of injured muscle fibers prior to skelecal muscle regeneration.Mechanisms of Development 135: 58-67, 2015
有	*論文364	<u>Nishimura S</u> , Nagasaki M, Kunishima S, Sawaguchi A, Sakata A, Sakaguchi H, Ohmori T, Manabe I, J Italiano, Ryu T, Takayama N, Komuro I, Kadowaki T, Eto K, <u>Nagai R</u> . IL-1alph induces thrombopoiesis through megakaryocyte rupture in response to acute platelet needs.J Cell Biology 11; 209(3): 453-66, 2015
有	論文365	Ueno M, Maeno T, <u>Nishimura S</u> , Ogata F, Masubuchi H, Hara K, Yamaguchi K, Aoki F, Suga T, <u>Nagai R</u> , Kurabayashi M. Alendronate inhalation ameliorates elastase-induced pulmonary emphysema in mice by induction of apoptosis of alveolar macrophages.Nat Communciations 10(6): 6332, 2015
有	*論文366	<u>Nishimura S</u> , Nagasaki M, Okudaira S, Aoki J, Ohmori T, Ohkawa R, Nakamura K, Igarashi K, Yamashita H, Eto K, Uno K, Hayashi N, Kadowaki T, Komuro I, Yatomi Y, <u>Nagai R</u> . ENPP2 contributes to adipose Tissue expansion and insulin resistance in diet-induced obesity.Diabetes 63(12): 4154-64, 2014
有	論文367	Tanaka M, Ikeda K, Suganami T, Komiya C, Ochi K, Shirakawa I, Hamaguchi M, <u>Nishimura S</u> , Manabe I, Matsuda T, Kimura K, Inoue H, Inagaki Y, Aoe S, Yamasaki S, Ogawa Y. Macrophage-inducible C-type lectin underlies obesity-induced adipose tissue fibrosis. Nat Communciations 19(5): 4982, 2014
有	論文368	Noda S, Asano Y, <u>Nishimura S</u> , Taniguchi T, Fujiu K, Manabe I, Nakamura K, Yamashita T, Saigusa R, Akamata K, Takahashi T, Ichimura Y, Toyama T, Tsuruta D, Trojanowska M, <u>Nagai R</u> , Sato S:Simultaneous downregulation of KLF5 and Fli1 is a key feature underlying systemic sclerosis.Nat Commun 5: 5797, 2014

《 図 書 》

(部門名) 炎症・免疫研究部

通し番号	
図書1	高橋将文. 心血管病における無菌性炎症とインフラマソーム. 日本臨床検査自動科学会誌40(3): 191-197, 2015
図書2	唐澤直義、高橋将文. シグナル伝達を理解するために必要な知識: インフラマソーム. 分子消化器病 2: 78-82, 2014
図書3	井上賢之、高橋将文. 敗血症に関する基礎医学の最新知見. 炎症. Intesivist 6:479-492, 2014
図書4	小林基、高橋将文. Vascular inflammationとはどのような概念か. 血液内科 69:321-327, 2014
図書5	高橋将文. 新たな自然炎症経路・インフラマソームの研究. 最新医学69:112-119, 2014
図書6	Takahashi M. Role of innate immune system in inflammation and cardiac remodeling after myocardial infarction. Curr Vascular Pharm 2013 Apr 29 [Epub ahead of print]
図書7	高橋将文. 動脈硬化におけるインフラマソームの役割. 「Annual Review糖尿病・代謝・内分泌2013」(編集: 寺内康夫、伊藤裕、石橋俊) 中外医学社, 106-111, 2013
図書8	高橋将文. 血管での慢性炎症の分子機序を知る. Vascular Medicine 9: 23-28, 2013
図書9	高橋将文. 無菌性炎症とインフラマソーム. トピックス. Organ Biology 20: 164-165, 2013
図書10	高橋将文. 動脈硬化とインフラマソーム. 日本血栓止血学会誌24: 12-16, 2013

(部門名) 統合生理学部門

通し番号	
図書11	岩崎有作、桂田健一、河野大輔、矢田俊彦. 消化管ホルモンと迷走神経・中枢神経による摂食・代謝・生体恒常性調節. 内分泌・糖尿病・代謝内科 41(1): 6頁(3-8), 2015
図書12	前川文彦、矢田俊彦. 病態生理 糖尿病における中枢性摂食・代謝調節の破綻. 最新医学3月増刊号 70: 7頁(517-523), 2015
図書13	岩崎有作、矢田俊彦. 自律神経系による末梢環境感知と摂食・代謝調節—メタボリックシンドロームにおける変調. Clinical Neuroscience, 32(12): 4頁(1383-1386), 2014
図書14	中田正範、矢田俊彦. 摂食調節機構と神経ペプチド. 医学のあゆみ 250(9): 5頁(785-789), 2014
図書15	前島裕子、矢田俊彦. オキシトシンの中枢神経作用. 内分泌・糖尿病・代謝内科 39(1): 6頁(20-25), 2014

図書16	中田正範、 <u>矢田俊彦</u> . 摂食概日リズムと視床下部. アンチ・エイジング医学 10(2): 6頁(46-51), 2014
図書17	栗田英治、 <u>矢田俊彦</u> . 中枢グルコース感知と摂食調節機構. Diabetes Frontier 25(1):6頁(40-45), 2014
図書18	<u>矢田俊彦</u> . 膵臓の内分泌機能と炭水化物代謝の調節(翻訳). In ギャノン生理学. 原書24版 岡田泰伸(監訳)丸善 東京: 26頁(495-520), 2014

(部門名) 神経脳生理学部門

通し番号	
図書19	Wang Y, Takayanagi Y, <u>Onaka T</u> . Effects of medial amygdala lesions upon social behaviour in mice. In "Advances in Cognitive Neurodynamics(III) -Proceedings of the third International Conference on Cognitive Neurodynamics-2011". Edited by Yamaguchi Y. pp753-757Springer Netherlands, 2013

(部門名) 循環器内科学部門

通し番号	
図書20	<u>Kario K</u> . Essential Manual of 24-hour Blood Pressure Management from Morning to Nocturnal Hypertension. pp 1-150, Wiley-Blackwell, 2015

(部門名) アレルギー膠原病学部門

通し番号	
図書21	<u>簗田清次</u> . 自己免疫疾患(リウマチ)や喘息との関わり合い. 日本内科学会雑誌 第104巻 第1号: 71-4頁, 2015
図書22	<u>簗田清次</u> . リウマチ膠原病・アレルギー学. 週刊日本医事新報 4685: 26-31頁, 2014

(部門名) 機能生化学部門

通し番号	
図書23	<u>遠藤仁司</u> . エネルギーの流れ. In メディカルサイエンス 臨床化学検査学 病態生化学の視点から(太田敏子、川上康、下村弘治、寺平良治、三村邦宏 編集): pp36-45 近代出版, 2014

(部門名) 構造生化学部門

通し番号	
図書24	<u>多胡憲治</u> . ヒアルロン酸ががんの発症を抑制する. (トピックス: 生物系薬学). ファルマシア, 日本薬学会: 1頁, 2014

(部門名) 統合病理学部門

通し番号	
------	--

図書25	仁木利郎. 低分化な癌の鑑別. 深山正久, 野口雅之, 松野吉宏 (編), 腫瘍病理鑑別診断アトラス. 肺癌. P212-216, 文光堂 (東京), 2014
図書26	仁木利郎. 分類不能癌. 深山正久, 野口雅之, 松野吉宏 (編), 腫瘍病理鑑別診断アトラス. 肺癌. P140, 文光堂 (東京), 2014

(部門名) 婦人科学部門

通し番号	
図書27	小柳貴裕, 鈴木康弘, 高橋詳史, 嵯峨 泰, 鈴木光明, 佐藤靖史. 新規血管新生調節因子バズヒビン2を標的とした卵巣癌治療応用に関する基礎研究. 産婦人科の実際 金原出版: 217-221頁, 2015

(部門名) 消化器内科学部門

通し番号	
図書28	永山学, 砂田圭二郎, 矢野智則, 小野公平, 根本大樹, 宮田康史, 井野裕治, 竹澤敬人, 坂本博次, 新畑博英, 三浦義正, 林芳和, 佐藤博之, 山本博徳. 【クローン病診療における画像診断・内視鏡診断の活用法】 クローン病診療におけるダブルバルーン内視鏡. 「日本消化器病学会雑誌」 112: 1270-1280, 2015

(部門名) 病態生化学部門

通し番号	
図書29	大森司. 出血・血栓傾向のみかた. In: 神田善伸 編, 血液科研修ノート2016, 東京, 診断と治療社, (印刷中)
図書30	大森司. Ashwell-Morell受容体を介した血小板数調節メカニズム. In: 高久史麿, 小澤敬也, 金倉讓, 小島勢二, 矢富 裕 編, Annual Review血液2016, 東京, 中外医学社, (印刷中)
図書31	大森司. DIC. In: 門脇 孝, 小室一成, 宮地良樹 編, 日常診療に活かす診療ガイドラインUP-TO-DATE2016-2017, 大阪, 株式会社メディカルビュー社 (印刷中)
図書32	大森司. 出血傾向. In: 矢崎義雄 総編集, 内科学 第11版, 東京, 朝倉書店, (印刷中)
図書33	大森司. 播種性血管内凝固症候群. In: 山口徹, 北原光夫 編, 今日の治療指針2016, 東京, 医学書院, 724-426頁, 2016
図書34	大森司: 先天性出血病の遺伝子・細胞治療. In: 一瀬白帝, 丸山征郎, 家子正浩 編, 新・血栓止血血管学, 京都, 金芳堂, 91-98頁, 2015
図書35	大森司. 抗血栓薬. In: 日本血液学会 編, 血液専門医テキスト, 東京, 南江堂, 79-82頁, 2015
図書36	大森司. 播種性血管内凝固症候群 (DIC) . In: 金澤一郎, 永井良三 編, 【今日の診断指針 第7版, 東京, 医学書院, 1165-1168頁, 2015
図書37	大森司. 薬剤性血小板減少症. In: 大森 司, 矢富 裕 編, 出血性疾患マニュアル, 東京, 南江堂株式会社, 96-100頁, 2014
図書38	大森司. 抗血小板薬. In: 金倉讓 編, プリンシプル血液疾患の臨床, 東京, 中山書店, 206-215頁, 2014

(部門名) 抗加齢医学研究部

通し番号	
図書39	椎崎和弘、 <u>黒尾誠</u> . CKDにおけるKlothoの役割. In 腎疾患・透析最新の治療 2014-2016. 南江堂: 5頁, 2014
図書40	<u>黒尾誠</u> . FGF23-Klotho内分泌系とCKDにおける老化現象. In Annual Review 2015 腎臓. 中外医学社: 9頁, 2015
図書41	椎崎和弘、三浦裕、黒須洋、 <u>黒尾誠</u> . FGF23-Klotho内分泌系の生理機能. In 腎と骨代謝. 日本メディカルセンター: 6頁, 2015
図書42	土井盛博、正木崇生、 <u>黒尾誠</u> . Klotho蛋白の腎保護作用. In 腎と骨代謝. 日本メディカルセンター: 9頁, 2015

《 学 会 発 表 》

(部門名) 炎症・免疫研究部

通し番号	
学会1	<u>Takahashi, M.</u> The inflammasome in atherothrombosis. AHA Scientific Sessions 2015 Cardiovascular Seminar CVC.242 Orlando, Florida (America), November 7-11, 2015
学会2	臼井文武、木村博昭、唐澤直義、川島晃、谷口俊一郎、 <u>高橋将文</u> . 動脈硬化および大動脈瘤形成におけるNLRP3インフラマソームの役割. 第26回日本生体防御学会学術総会 (東京) 2015年7月10-12日
学会3	臼井文武、駒田敬則、唐澤直義、川島晃、木村博昭、武藤重明、長田太助、 <u>高橋将文</u> . 横紋筋融解症による急性腎障害におけるNLRP3インフラマソームの役割. 第36回日本炎症・再生医学会 (東京) 2015年7月21-22日
学会4	唐澤直義、木村博昭、臼井文武、川島晃、 <u>高橋将文</u> . 脂質代謝異常におけるASCの役割. 第36回日本炎症・再生医学会 (東京) 2015年7月21-22日
学会5	<u>高橋将文</u> . 心腎血管疾患における自然炎症の役割. 第38回日本高血圧学会総会 (愛媛) 2015年10月9-11日
学会6	<u>高橋将文</u> 、駒田敬則、臼井文武、川島晃、唐澤直義、木村博昭. 横紋筋融解症による急性腎障害におけるNLRP3インフラマソームの役割. 心血管抗加齢研究会2015 (大阪) 2015年11月28-29日
学会7	<u>Takahashi M,</u> Usui F, Shirasuna K, Kawashima A, Karasawa T, Kimura H. Inflammasome activation by mitochondrial oxidative stress in macrophages leads to the development of angiotensin II-induced aortic aneurysm. The 18th International Vascular Biology Meeting. April 14-17, 2014, Kyoto(Japan)
学会8	<u>Takahashi M,</u> Usui F, Shirasuna K, Kawashima A, Karasawa T, Kimura H. Inflammasome activation by mitochondrial oxidative stress in macrophages leads to the development of angiotensin II-induced aortic aneurysm. AHA Scientific Sessions 2014, Nov.15-19, 2014, Chicago(America)
学会9	臼井文武、木村博昭、唐澤直義、川島晃、 <u>高橋将文</u> . 大動脈瘤形成におけるNLRP3インフラマソームの役割の解析. 第35回日本炎症・再生医学会 (沖縄) 2014年7月2-4日

学会10	臼井文武、木村博昭、唐澤直義、川島晃、高橋将文. 大動脈瘤形成におけるNLRP3インフラマソームの役割. 第46回日本動脈硬化学会 (東京) 2014年7月10-11日
学会11	唐澤直義、川島晃、臼井文武、木村博昭、高橋将文. カスパーゼ1ホモログ分子CARD16による新規炎症惹起助の解析. 第35回日本炎症・再生医学会 (沖縄) 2014年7月2-4日
学会12	唐澤直義、川島晃、臼井文武、木村博昭、高橋将文. カスパーゼ1ホモログCOPsによる炎症制御機構の解析. 第46回日本動脈硬化学会 (東京) 2014年7月10-11日
学会13	木村博昭、川島晃、鈴木幸一、岩間信太郎、Patrizio Caturegli、高橋将文. LMP7欠損マウスの甲状腺異常. 第86回日本内分泌学会 (福岡) 2014年4月24-26日
学会14	白砂孔明、臼井文武、唐澤直義、木村博昭、川島晃、大口昭英、高橋将文. ナノ粒子は妊娠マウスの胎盤炎症と妊娠機能異常を引き起こす: 自然炎症経路・インフラマソームの関与. 第107回日本繁殖生物学会大会 (帯広) 2014年8月20-24日
学会15	高橋将文. Role of the inflammasome in cardiovascular disease. 講演 JIKEI SYMPOSIUM (東京) 2014年5月21日
学会16	高橋将文. Inflammasome activation in adventitial macrophages leads to the development of angiotensin II-induced aortic aneurysm. 第14回日本抗加齢医学会 (大阪) 2014年6月6-8日
学会17	高橋将文. NLRP3はインフラマソーム非依存性に肝虚血再灌流障害を軽減する. 第35回日本炎症・再生医学会 (沖縄) 2014年7月2-4日
学会18	高橋将文. 心血管病や生活習慣病における無菌性炎症とインフラマソーム. 第87回日本生化学会大会 シンポジウム (京都) 2014年10月15-18日
学会19	原教子、白砂孔明、臼井文武、唐澤直義、木村博昭、川島晃、大口昭英、松山秀一、木村康二、高橋将文. インターフェロン (IFN) γ はナノ粒子の取り込みを阻害してインターロイキン (IL) -1β 産生を抑制する. 第107回日本繁殖生物学会大会 (帯広) 2014年8月20-24日
学会20	Komada T, Muto S, Kusano E, <u>Takahashi M</u> . Inflammasome in renal collecting duct cells contributes to inflammation and fibrosis after unilateral ureteral obstruction. American Society of Nephrology KIDNEY WEEK 2013. TH-OR071, November 5-10, 2013, Atlanta (USA)
学会21	<u>Takahashi M</u> . Inflammasomes and sterile inflammation in cardiovascular disease. The 30th Annual Meeting of the International Society for Heart Research Japanese Section. Jun 29, 2013, San Diego (USA)
学会22	井上賢之、白砂孔明、木村博昭、臼井文武、川島晃、唐澤直義、多胡憲治、出崎克也、柳沢健、矢田俊彦、安田是和、高橋将文. 自然炎症を介した肝虚血再灌流障害の分子的機序の解明. 第12回自治医大シンポジウム (栃木) 2013年9月5日
学会23	駒田敬則、臼井文武、白砂孔明、木村博昭、川島晃、唐澤直義、武藤重明、草野英二、高橋将文. 片側尿管結紮腎における炎症惹起には集合尿細管でのインフラマソーム活性化が寄与する. 第12回自治医大シンポジウム (栃木) 2013年9月5日
学会24	高橋将文. 心血管疾患における無菌性炎症とインフラマソーム. (シンポジウム) 第42回日本心臓血管作動物質学会 (奈良) 2013年2月8-9日
学会25	高橋将文. 動脈硬化におけるインフラマソームの役割. (シンポジウム) 第45回日本動脈硬化学会総会・学術集会 (東京) 2013年7月18-19日
学会26	高橋将文. インフラマソームと大動脈瘤. (シンポジウム) 第21回日本血管生物医学学会学術集会 (大阪) 2013年9月26-28日

(部門名) 統合生理学部門

通し番号	
学会27	中田正範、王磊、楊怡飛、 <u>矢田俊彦</u> 。室傍核Nesfatin-1ニューロンによるバズプレッショントラッキングと血圧の調節。第36回日本肥満学会(名古屋) 2015年10月2-3日
学会28	Putra Santoso, Yuko Maejima, Kenju Shimomura, Masanori Nakata, <u>Toshihiko Yada</u> . AVP suppresses feeding and activates PVN Nesf-1 and Oxt neurons. 第36回日本肥満学会(名古屋) 2015年10月2-3日
学会29	岩崎有作、 <u>岩本禎彦</u> 、加計正文、 <u>矢田俊彦</u> 。グルカゴンによる求心性迷走神経の活性化：中枢作用を仲介する伝達経路。第36回日本肥満学会(名古屋) 2015年10月2-3日
学会30	小沢一世、岩崎有作、谷田守、 <u>矢田俊彦</u> 。GLP-1のアドレナリン分泌促進作用と感覚神経-中枢-副腎交感神経反射の役割。第36回日本肥満学会(名古屋) 2015年10月2-3日
学会31	須山成朝、小平美里、中田正範、 <u>矢田俊彦</u> 。摂食依存的な視床下部室傍核オキシトシンニューロンのシナプス可塑性。第36回日本肥満学会(名古屋) 2015年10月2-3日
学会32	<u>矢田俊彦</u> 。中枢神経/末梢投与オキシトシンによる摂食調節機構と肥満症治療基盤。第158回日本獣医学会学術集会生理学・生化学分科会シンポジウム(十和田) 2015年9月7-9日
学会33	伊藤聖学、吉田昌史、山田穂高、出崎克也、大河原晋、川上正舒、田部井薫、 <u>矢田俊彦</u> 、加計正文。腓路。第58回日本糖尿病学会年次学術集会(下関) 2015年5月21-24日 <input type="checkbox"/> 網
学会34	岩崎有作、Enkh-Amar Ayush、 <u>岩本禎彦</u> 、中林肇、加計正文、 <u>矢田俊彦</u> 。グルカゴンはグルカゴン受容体を介して求心性迷走神経を活性化する。第58回日本糖尿病学会年次学術集会(下関) 2015年5月21-24日
学会35	出崎克也、Sukma Rita Rauza、加計正文、 <u>矢田俊彦</u> 。腓路1のインスリン分泌促進作用を仲介する。第58回日本糖尿病学会年次学術集会(下関) 2015年5月21-24日 <input type="checkbox"/>
学会36	吉田昌史、出崎克也、中田正範、内田邦敏、伊藤聖学、山田穂高、富永真琴、川上正舒、 <u>矢田俊彦</u> 、加計正文。新規ブドウ糖刺激インスリン分泌惹起経路としてのTrpm2チャンネル。第58回日本糖尿病学会年次学術集会(下関) 2015年5月21-24日
学会37	山田穂高、吉田昌史、伊藤聖学、出崎克也、川上正舒、石川三衛、 <u>矢田俊彦</u> 、加計正文。GPR40シグナルは背景電流を増加させ腓路。第58回日本糖尿病学会年次学術集会(下関) 2015年5月21-24日 <input type="checkbox"/> 網
学会38	出崎克也、Sukma Rita Rauza、倉科智行、加計正文、 <u>矢田俊彦</u> 。腓路ネルを標的としたインスリン分泌機能改善。第58回日本糖尿病学会年次学術集会(下関) 2015年5月21-24日 <input type="checkbox"/>
学会39	王磊、中田正範、 <u>矢田俊彦</u> 。室傍核NUCB2/Nesfatin-1ノックダウンマウスの解析：摂食概日リズム障害と内臓肥満。第88回日本内分泌学会学術総会(東京) 2015年4月23-25日
学会40	吉田昌史、出崎克也、内田邦敏、石川三衛、川上正舒、富永真琴、 <u>矢田俊彦</u> 、加計正文。新規インスリン分泌惹起経路としてのTrpm2チャンネル。第88回日本内分泌学会学術総会(東京) 2015年4月23-25日

学会41	岩崎有作、前島裕子、吉田昌史、須山成朝、加計正文、 <u>矢田俊彦</u> . 末梢オキシトシン→求心性迷走神経→脳」軸の活性化による過食・肥満抑制. 第88回日本内分泌学会学術総会(東京) 2015年4月23-25日
学会42	岩崎有作、前島裕子、吉田昌史、荒井健、須山成朝、桂田健一、中林肇、加計正文、 <u>矢田俊彦</u> . 末梢Oxytocin は求心性迷走神経を活性化して摂食を抑制する. 第120回日本解剖学会総会・全国学術集会第92回日本生理学会大会合同大会(神戸) 2015年3月21-23日
学会43	Enkh-Amar Ayush、岩崎有作、岩本禎彦、 <u>矢田俊彦</u> . グルカゴンは求心性迷走神経に直接作用し活性化させる: 摂食調節への役割. 第120回日本解剖学会総会・全国学術集会第92回日本生理学会大会合同大会(神戸) 2015年3月21-23日
学会44	出崎克也、Rita Rauza Sukma、加計正文、 <u>矢田俊彦</u> . Kv2.1チャンネル阻害はGLP-1 誘発インスリン分泌を増強し2型糖尿病の耐糖能を改善する. 第120回日本解剖学会総会・全国学術集会第92回日本生理学会大会合同大会(神戸) 2015年3月21-23日
学会45	中田正範、Darambazar Gantulga、王磊、 <u>矢田俊彦</u> . 室傍核NUCB2/nesfatin-1ニューロンによる摂食調節. 第120回日本解剖学会総会・全国学術集会第92回日本生理学会大会合同大会(神戸) 2015年3月21-23日
学会46	小沢一世、岩崎有作、 <u>矢田俊彦</u> . GLP-1 末梢投与によるアドレナリン分泌促進. 第35回日本肥満学会(宮崎) 2014年10月24-25日
学会47	桂田健一、前島裕子、中田正範、荻尾七臣、 <u>矢田俊彦</u> . 脳の内因性GLP-1 は視床下部室傍核に作用し摂食を抑制する. 第35回日本肥満学会(宮崎) 2014年10月24-25日
学会48	岩崎有作、前島裕子、吉田昌史、荒井健、須山成朝、桂田健一、中林肇、加計正文、 <u>矢田俊彦</u> . オキシトシン末梢投与による求心性迷走神経を介した摂食抑制作用. 第35回日本肥満学会(宮崎) 2014年10月24-25日
学会49	河野大輔、佐々木努、小島至、北村忠弘、 <u>矢田俊彦</u> . 視床下部弓状核の甘味受容体による摂食調節機構. 第35回日本肥満学会(宮崎) 2014年10月24-25日
学会50	中田正範、小平美里、王磊、李恩旭、 <u>矢田俊彦</u> . 低血糖に対する糖代謝応答におけるPituitary adenylate cyclase activating polypeptide の意義. 第35回日本肥満学会(宮崎) 2014年10月24-25日
学会51	岩崎有作、下村健寿、河野大輔、出崎克也、Ayush Enkh-Amar、中林肇、窪田直人、門脇孝、加計正文、中田正範、 <u>矢田俊彦</u> . インスリンによる求心性迷走神経の活性化: 過食・肥満IRS2 KO マウスにおける障害および膵臓内パラクリン作用. 第68回日本栄養・食糧学会大会(札幌) 2014年5月30日-6月1日
学会52	出崎克也、Rita Rauza Sukma、Boldbaatar Damdindorj、加計正文、 <u>矢田俊彦</u> . グレリンはGLP-1の膵年次学術集会(大阪) 2014年5月22-24日
学会53	岩崎有作、下村健寿、河野大輔、出崎克也、Ayush Enkh-Amar、中林肇、窪田直人、門脇孝、加計正文、中田正範、 <u>矢田俊彦</u> . インスリンによる求心性迷走神経の活性化と過食・肥満・糖尿病を呈するIRS2欠損マウスにおけるその障害. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会(大阪) 2014年5月22-24日
学会54	李恩旭、中田正範、 <u>矢田俊彦</u> . 新規膵その病態的意義. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会(大阪) 2014年5月22-24日
学会55	中田正範、Gantulga Darambazar、小平美里、李恩旭、 <u>矢田俊彦</u> . 視床下部室傍核を介した代謝・食欲・血圧連関. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会(大阪) 2014年5月22-24日

学会56	小平美里、中田正範、苅尾七臣、 <u>矢田俊彦</u> . Angiotensin II の新規中枢標的：室傍核 Nesfatin-1ニューロン. 第51回日本臨床分子医学会学術集会(東京) 2014年4月11-12日
学会57	出崎克也、リタ スクマ ラウザ、ボルドバーター ダムディンドルジェ、 <u>矢田俊彦</u> . グレリンはGLP-1 のインクレチン効果を抑制する. 第91回日本生理学会大会(鹿児島) 2014年3月16-18日
学会58	前島裕子、佐久間和哉、下村健寿、 <u>矢田俊彦</u> . 室傍核オキシトシンの弓状核POMCニューロンを介した新規摂食抑制神経経路. 第91回日本生理学会大会(鹿児島) 2014年3月16-18日
学会59	前川文彦、藤原研、鳥谷真佐子、野原恵子、 <u>矢田俊彦</u> . 全身エネルギー代謝におけるBDNF の役割と糖尿病性内臓肥満症における治療可能性. 第91回日本生理学会大会(鹿児島) 2014年3月16-18日
学会60	岩崎有作、 <u>矢田俊彦</u> . 膵ホルモンは求心性迷走神経を介して脳に作用し、食欲を調節する. 第91回日本生理学会大会(鹿児島) 2014年3月16-18日
学会61	出崎克也、 <u>矢田俊彦</u> . Zucker Fattyラットの肥満初期における血中グレリン動態. 第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11-12日
学会62	楊怡飛、前島裕子、佐久間和哉、オトゴンウール ゼセムドルジェ、プトラ サントソ、岩崎有作、下村健寿、 <u>矢田俊彦</u> . 抗肥満作用のある抗鬱剤プロピオンがインスリン分泌に与える影響. 第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11-12日
学会63	Rauza Sukma Rita、出崎克也、 <u>矢田俊彦</u> . Glucose-induced insulin release is enhanced by blockade of Kv2.1 channels in β -cell. 第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11-12日
学会64	小平美里、 <u>矢田俊彦</u> . 摂食・代謝中枢室傍核Nesfatin-1ニューロンのAngiotensin II 応答. 第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11-12日
学会65	荒井健、前島裕子、藤塚直樹、 <u>矢田俊彦</u> . 5-HTによるARCPOMCニューロン活性化に対する六君子湯とisoliquiritigeninの抑制作用. 第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11-12日
学会66	田口昌延、出崎克也、服部智久、春田英律、小泉大、細谷好則、佐田尚宏、安田是和、 <u>矢田俊彦</u> . 胃全摘ラットの摂食・体重低下に対する六君子湯の改善効果. 第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11-12日
学会67	桂田健一、前島裕子、中田正範、苅尾七臣、 <u>矢田俊彦</u> . GLP-1は視床下部室傍核の摂食関連ペプチドニューロンを活性化する. 第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11-12日
学会68	オトゴンウール ゼセムドルジェ、前島裕子、佐久間和哉、楊怡飛、下村健寿、 <u>矢田俊彦</u> . 末梢投与オキシトシンの抗肥満・抗メタボリックシンドローム効果. 第34回日本肥満学会, 第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11-12日
学会69	プトラ サントソ、前島裕子、楊怡飛、オトゴンウール ゼセムドルジェ、佐久間和哉、下村健寿、 <u>矢田俊彦</u> . 室傍核 (PVN) のnesfatin-1/NUCB2ニューロンはPACAPによって制御されている. 第34回日本肥満学会(東京)2013年10月11-12日
学会70	岩崎有作、下村健寿、河野大輔、出崎克也、Enkh-Amar Ayush、中林肇、窪田直人、門脇孝、加計正文、中田正範、 <u>矢田俊彦</u> . 膵臓を支配する求心性迷走神経は膵臓から分泌されるインスリンを効率良く受容する. 第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11-12日
学会71	河野大輔、小島至、北村忠弘、 <u>矢田俊彦</u> . 甘味受容体による視床下部弓状核ニューロンの活性調節. 第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11-12日

学会72	李恩旭、小平美里、中田正範、 <u>矢田俊彦</u> 。高脂肪食負荷による肝臓LAR Tyrosine Phosphatase発現増強とインクレチンPACAPの役割。第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11-12日
学会73	前島裕子、佐久間和哉、楊怡飛、Otgon-Uul Zesemdorj、Putra Santoso、下村健寿、 <u>矢田俊彦</u> 。室傍核オキシトシンー弓状核POMCの双方向性摂食抑制神経経路。第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11-12日
学会74	中田正範、Gantulga Darambazar、小平美里、 <u>矢田俊彦</u> 。室傍核Nesfatin-1/NUCB2ニューロンによる代謝・循環調節。第34回日本肥満学会(東京) 2013年10月11-12日

(部門名) 神経脳生理学部門

通し番号	
学会75	岡部祥太、吉田匡秀、高柳友紀、 <u>尾仲達史</u> 。接触刺激に対するラット視床下部オキシトシン産生細胞の活性化と超音波発声。第42回日本神経内分泌学会 第23回日本神経行動内分泌研究会 合同学術集会 (仙台) 2015年9月18-19日
学会76	<u>Onaka T</u> , Takayanagi Y, Yoshida M, Okabe S. Noxious or Non-Noxious Inputs to Oxytocin Neurons: Possible Roles in the Control of Behaviors. Parvo- and Magnocellular Symposium in Sendai, Sendai, Japan, September 17, 2015
学会77	高柳友紀、吉田匡秀、 <u>尾仲達史</u> 。オキシトシンによる情動・社会行動の制御。第92回日本生理学会大会 (神戸) 2015年3月21-23日
学会78	<u>尾仲達史</u> 、吉田匡秀、高柳友紀。条件恐怖ストレスの神経内分泌反応における内側扁桃体の働き。第92回日本生理学会大会 (神戸) 2015年3月21-23日
学会79	<u>尾仲達史</u> 。神経内分泌系の条件恐怖反応の神経回路。平成26年度生理学研究所研究会「感覚刺激・薬物による快・不快情動生成機構とその破綻」(岡崎) 2014年10月7-8日
学会80	<u>尾仲達史</u> 。ストレスと下垂体後葉ホルモン。第6回耳鼻咽喉科心身医学研究会 (東京) 2014年10月4日
学会81	<u>Onaka T</u> , Yoshida M, Takayanagi Y. Lesions of vasopressin neurons by use of vasopressin-DTR transgenic rats. Satellite meeting of ICN 2014 in Sydney“Recent and Future Trends in Neuroendocrinology-from Asia and Oceania to Global-” Sydney, August 16, 2014
学会82	<u>尾仲達史</u> 。心身ストレスとその機序。生体機能の理解にもとづく災害ストレス支援の推進事業第1回シンポジウム (東京) 2013年11月12日
学会83	高柳友紀、 <u>尾仲達史</u> 。社会的記憶の制御におけるセクレチンーオキシトシンシステムの役割。第91回日本生理学会大会 (鹿児島) 2014年3月16-18日
学会84	山下雅子、 <u>尾仲達史</u> 、神部芳則、草間幹夫。摂食によるオキシトシン産生ニューロンの活性化：そのメカニズムと機能に関する研究。第58回 日本口腔外科学会総会・学術大会 (福岡) 2013年10月11-13日
学会85	<u>尾仲達史</u> 、高柳友紀、吉田匡秀。下垂体後葉ホルモンとストレス・摂食・社会行動。創薬薬理フォーラム第21回シンポジウム長井記念館 (東京) 2013年9月19-20日
学会86	<u>Onaka T</u> , Takayanagi Y, Yoshida M : Stress and energy metabolisms: roles of PrRP and oxytocin. The 36th Naito Conference on“Molecular Aspects of Energy Balance and Feeding Behavior” SAPPORO, Sapporo, September 10-13, 2013

学会87	Yoshida M, Takayanagi Y, <u>Onaka T</u> : The medial amygdala-medullary prolactin-releasing peptide neuron pathway mediates neuroendocrine responses to conditioned fear stimuli. 10th World Congress on Neurohophysial Hormones (WCNH2013) , Bristol, England, July 15-19, 2013
学会88	Tobin V, Knobloch S, Grinevich V, <u>Onaka T</u> , Leng G, Ludwig M: Immunohistochemical characterisation of vasopressin neurons in the retina which project to the suprachiasmatic nucleus in rats. 10th World Congress on Neurohophysial Hormones (WCNH2013) , Bristol, England, July 15-19, 2013
学会89	Tobin V, Tsuji T, Knobloch S, <u>Onaka T</u> , Grinevich V, Leng G, Ludwig M: Characterisation of vasopressin neurons in the retina which project to the suprachiasmatic nucleus in rats. 10th World Congress on Neurohophysial Hormones (WCNH2013) , Bristol, England, July 15-19, 2013
学会90	尾仲達史. ストレス, 摂食そして社会行動: 最近注目されるオキシトシンの働き. 第54回日本心身医学会総会ならびに学術講演会(横浜) 2013年6月26-27日
学会91	吉田匡秀, 高柳友紀, 尾仲達史. 恐怖記憶の想起による神経内分泌反応には内側扁桃体-延髄PrRP産生ニューロン経路が関与する. 第36回日本神経科学大会(京都) 2013年6月20-23日
学会92	橘雅弥, 平田郁子, 桑田綾乃, 山本知加, 實藤和佳子, 中村歩, 大石雅子, 下野九理子, 毛利育子, 尾仲達史, 木村正, 大藪恵一, 谷池雅子. 自閉症スペクトラムの小児に対する長期的オキシトシン点鼻治療の安全性と効果. 第55回日本小児神経学会学術集会(大分) 2013年5月30日-6月1日

(部門名) 人類遺伝学研究部

通し番号	
学会93	渡邊和寿, Supichaya Boonvisut, 中山 一大, Leibel Rudolph, <u>岩本禎彦</u> . 新規糖尿病感受性遺伝子Ildr2の機能解析. 第58回 日本糖尿病学会(山口) 2015年5月21-24日
学会94	中山一大, 大橋順, ルハグワスレン・ムンフトルガ, <u>岩本禎彦</u> . 高密度SNPジェノタイプピングによるモンゴル人特異的な自然選択の検出 第69回日本人類学会大会(東京) 2015年10月11日
学会95	Supichaya Boonvisut, 渡邊和寿, 中山一大, <u>岩本禎彦</u> . Resequencing analysis of NAFLD associated genes in 950 Japanese males. 日本人類遺伝学会 第60回大会(新宿) 2015年10月14-17日
学会96	<u>岩本禎彦</u> , 巻嶋咲穂, Supichaya Boonvisut, 渡邊和寿, 中山一大. 血清脂質関連遺伝子TRIB1の肝臓脂質レベル調節メカニズム. 第36回日本肥満学会(名古屋) 2015年10月2-3日
学会97	<u>Iwamoto S</u> , Makishima S, Boonvisut S, Ishizuka Y, Watanabe K, Nakayama K: Novel binding partners of TRIB1 involved in lipid metabolisms. the 2015 tribbles meeting, Budapest, Hungary, April 22-24, 2015
学会98	Boonvisut S, Makishima S, Watanabe K, Nakayama K, <u>Iwamoto S</u> . Minor allele of SNPs in NCAN-CILP2 region negatively affect on plasma triglyceride but positively on LDL in Japanese. 日本人類遺伝学会第59回大会(東京) 2014年11月20日
学会99	Makishima, S., Boonvisut, S., Watanabe, K., Nakayama, K., <u>Iwamoto, S</u> : A novel pathway involved in the susceptibility of non-alcoholic fatty liver diseases. American Society of Human Genetics 64th Annual Meeting, San Diego, USA, October 18-22, 2014

学会100	Boonvisut S, Makishima S, Watanabe K, Nakayama K, Iwamoto S: Functional fine mapping of the genes involved in plasma lipid metabolism in the LD-block of NCAN/CILP2/PBX4 region. American Society of Human Genetics 64th Annual Meeting, San Diego, USA, October 18-22, 2014
学会101	中山一大、大橋順、ムンフトルガ・ルハグワスレン、香川靖雄、宮下 洋、岩本禎彦. 多様な生活習慣をもつアジア・オセアニア人集団のゲノム情報の比較研究. 日本人類遺伝学会第59回大会（東京）2014年11月20日
学会102	中山一大、大橋順、香川靖雄、岩本禎彦. アジア・オセアニア人における代謝特性の民族差の理解を目指したゲノムワイドSNP研究. 第68回日本人類学会大会（浜松）2014年11月1日
学会103	中山一大、宮下洋、渡邊和寿、巻嶋咲穂、Boonvisut Supichaya、岩本禎彦. GIPおよびGIPRの遺伝的多型は日本人成人の内臓脂肪蓄積と関連する. 第35回日本肥満学会（宮崎）2014年10月25日
学会104	渡邊和寿、中山一大、Leibel Rudolph、岩本禎彦. 新規糖尿病感受性遺伝子I1dr2の機能解析. 第35回日本肥満学会（宮崎）2014年10月24日
学会105	中山一大、大橋 順、Munkhtulga Lkhagvasuren、宮下 洋、岩本禎彦. モンゴル人と東アジア農耕民族の代謝特性の解明を目指したゲノム人類学研究. 第68回日本栄養・食糧学会大会（札幌）2014年5月31日
学会106	中山一大、宮下洋、岩本禎彦. UCP1-3826G/Aが内臓脂肪蓄積に及ぼす影響の季節性. 日本人類遺伝学会第58回大会（仙台）2013年11月20-23日
学会107	中山一大、大橋順、ムンフトルガ・ルハグワスレン、岩本禎彦. モンゴル人の代謝特性の解明を目指したゲノムワイドSNP研究. 第67回日本人類学会大会（つくば）2013年11月2日
学会108	中山一大、宮下洋、柳沢佳子、岩本禎彦. 熱産生関連遺伝子多型が内臓脂肪蓄積に及ぼす影響の季節性. 第68回日本生理人類学会（金沢）2013年6月8日
学会109	巻嶋咲穂、Boonvist Supichaya、森川千絵、中山一大、岩本禎彦. 新規肝臓脂質レベル調節分子の同定. 第33回日本肥満学会（東京）2013年10月11-12日
学会110	Boonvisut Supichaya、巻嶋咲穂、森川千絵、中山一大、岩本禎彦. Functional screening of NCAN-CILP2 region for the genes involved in plasma lipid metabolism. 日本人類遺伝学会第58回大会（仙台）2013年11月20-23日

(部門名) 内分泌代謝学部門

通し番号	
学会111	坂井謙斗、永島秀一、高橋学、山室大介、五十嵐正樹、岡崎啓明、大須賀淳一、石橋俊. マウス腹腔MΦの細胞内コレステリルエステル水解機構 - Lipeおよび Ncehl1に対する阻害剤を用いた解析. 第45回日本動脈硬化学会総会・学術集会（東京）2013年7月18-19日
学会112	Sakai K, Nagashima S, Takahashi M, Yamamuro D, Yagyu H, Osuga J, Ishibashi S. Pharmacological evidence for the dominant role of neutral CE hydrolase 1 in the hydrolysis of CE in murine macrophages. 81st European Atherosclerosis Society Congress, Lyon, France, June 2-5, 2013
学会113	高橋学、野牛宏晃、永島秀一、岡田健太、大城太一、大須賀淳一、石橋俊. Macrophage lipoprotein lipase modulates the development of atherosclerosis, but not obesity. 第44回日本動脈硬化学会総会・学術集会. 第44回日本動脈硬化学会総会・学術集会（福岡）2012年7月19-20日

学会114	Takahashi M, Yagyu H, Nagashima S, Oshiro T, Okada K, Osuga J, Goldberg IJ, Ishibashi S. Macrophage Lipoprotein lipase modulates the development of atherosclerosis, but not obesity. American Diabetes Association 72nd scientific sessions, Philadelphia, PA, USA, June 8-12, 2012
-------	--

(部門名) アレルギー膠原病学部門

通し番号	
学会115	室崎貴勝、石澤彩子、佐野照弘、釜田康行、岩本雅弘、 <u>簗田清次</u> 。著明な膝関節炎とCRP高値、アルドラーゼ高値を伴った好酸球性血管浮腫の一例。第26回日本リウマチ学会関東支部学術集会（宇都宮）2015年12月5日
学会116	石澤彩子、室崎貴勝、釜田康行、岩本雅弘、 <u>簗田清次</u> 。治療中に下肢虚血・壊死をきたし緊急下肢切断術を施行したIgA血管炎の1例。第43回日本臨床免疫学会総会（神戸）2015年10月22日
学会117	花井俊一朗、永谷勝也、秋山陽一郎、石澤彩子、長嶋孝夫、佐藤健夫、岩本雅弘、 <u>簗田清次</u> 。Sjogren症候群が疑われた竹節状声帯の一例。第43回日本臨床免疫学会総会（神戸）2015年10月23日
学会118	石井英輔、石澤彩子、釜田康行、永谷勝也、岩本雅弘、 <u>簗田清次</u> 。全身性エリテマトーデス治療中に痛風による多関節炎をきたした1例。第617回日本内科学会関東地方会（東京）2015年9月12日
学会119	石澤彩子、秋山陽一郎、花井俊一朗、武田孝一、永谷勝也、岩本雅弘、 <u>簗田清次</u> 。両側反回神経麻痺をきたした好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の1例。第64回日本アレルギー学会学術大会（東京）2015年5月26日
学会120	石澤彩子、岩本雅弘、長嶋孝夫、永谷勝也、釜田康行、秋山陽一郎、本根杏子、丸山暁人、室崎貴勝、武田孝一、中村潤、 <u>簗田清次</u> 。当科入院中に転倒を経験したりウマチ性疾患患者の特徴についての検討。第59回日本リウマチ学会総会・学術集会（名古屋）2015年4月25日
学会121	花井俊一朗、秋山陽一郎、石澤彩子、武田孝一、永谷勝也、佐藤健夫、岩本雅弘、 <u>簗田清次</u> 。頸部に限局した肉芽腫性血管炎に慢性好酸球性肺炎が続発した1例。第59回日本リウマチ学会総会・学術集会（名古屋）2015年4月25日
学会122	秋山陽一郎、佐藤健夫、室崎貴勝、永谷勝也、 <u>簗田清次</u> 。過去15年における関節リウマチ患者に合併した感染症の予後因子と変化の検討。第59回日本リウマチ学会総会・学術集会（名古屋）2015年4月24日
学会123	室崎貴勝、佐藤健夫、秋山陽一郎、永谷勝也、 <u>簗田清次</u> 。赤血球内MTX-PG濃度とMTXの有効性についての検討。第59回日本リウマチ学会総会・学術集会（名古屋）2015年4月24日
学会124	佐藤健夫、室崎貴勝、秋山陽一郎、永谷勝也、 <u>簗田清次</u> 。ANCAサブタイプに基づくANCA関連血管炎の呼吸器系病変の臨床像と臨床経過の比較。第59回日本リウマチ学会総会・学術集会（名古屋）2015年4月23日
学会125	永谷勝也、室崎貴勝、佐藤健夫、 <u>簗田清次</u> 。当施設におけるバイオフリー寛解40症例の2年間の前向き観察研究。第59回日本リウマチ学会総会・学術集会（名古屋）2015年4月23日
学会126	島菜月、長嶋孝夫、岩本雅弘、 <u>簗田清次</u> 。当院における巨細胞性動脈炎の臨床的特徴。第59回日本リウマチ学会総会・学術集会（名古屋）2015年4月23日
学会127	長嶋孝夫、岩本雅弘、釜田康行、永谷勝也、丸山暁人、本根杏子、室崎貴勝、吉尾卓、岡崎仁昭、 <u>簗田清次</u> 。リウマチ膠原病患者に発症したニューモシスチス肺炎43例の臨床的検討。第111回日本内科学会講演会（東京）2014年4月12日

学会128	Murosaki T, Sato T, Akiyama Y, Nagatani K, <u>Minota S</u> . Clinical Characteristics of Japanese Patients with Anti-Neutrophil Cytoplasmic Antibody: Comparison between Antibody to Myeloperoxidase and Proteinase 3.9th International Congress on Autoimmunity 2014, Nice, France, March 29, 2014
学会129	Akiyama Y, Sato T, Murosaki T, Nagatani K, <u>Minota S</u> . Changes in the Type and Prognosis of Infectious Complications in Patients with Rheumatoid Arthritis in the Last 15 years in Japan. ACR 2014 Annual Meeting, Boston, Massachusetts, November 17, 2014
学会130	Murosaki T, SatoT, Akiyama Y, Nagatani K, <u>Minota S</u> . Clinical Characteristics of Japanese Patients with Anti-Neutrophil Cytoplasmic Antibody: Comparison between Antibody to Myeloperoxidase and Proteinase 3. ACR 2014 Annual Meeting, Boston, Massachusetts, November, 17, 2014
学会131	中村潤、丸山暁人、花井俊一郎、石澤彩子、室崎貴勝、釜田康行、本根杏子、佐藤健夫、長嶋孝夫、岩本雅弘、永谷勝也、 <u>簗田清次</u> . 難治性心膜炎に対してコルヒチンが有効であった混合性結合組織病の1例. 第25回日本リウマチ学会関東支部学術集会(横浜) 2014年12月14日
学会132	井元和代、室崎貴勝、小川真由子、武田孝一、秋山陽一郎、永谷勝也、岩本雅弘、 <u>簗田清次</u> . 乾癬性関節炎に合併したSLEの1例. 第608回日本内科学会関東地方会(東京) 2014年9月13日
学会133	丸山暁人、長嶋孝夫、室崎貴勝、釜田康行、永谷勝也、吉尾卓、岡崎仁昭、岩本雅弘、 <u>簗田清次</u> . 急性腓炎を合併したSLEの3例. 第42回日本臨床免疫学会(東京) 2014年9月26日
学会134	秋山陽一郎、長嶋孝夫、石澤彩子、室崎貴勝、丸山暁人、本根杏子、釜田康行、岩本雅弘、 <u>簗田清次</u> . 抗PL-12抗体陽性患者5例の臨床的検討. 第58回日本リウマチ学会総会・学術集会(東京) 2014年4月26日
学会135	長嶋孝夫、釜田康行、丸山暁人、室崎貴勝、永谷勝也、本根杏子、石澤彩子、中村潤、秋山陽一郎、吉尾卓、岩本雅弘、岡崎仁昭、 <u>簗田清次</u> . 皮膚潰瘍を生じた皮膚筋炎の臨床的特徴. 第58回日本リウマチ学会総会・学術大会(東京) 2014年4月25日
学会136	室崎貴勝、佐藤健夫、秋山陽一郎、永谷勝也、 <u>簗田清次</u> . 当科でのANCA陽性患者の臨床像の検討. 第58回日本リウマチ学会総会・学術集会(東京) 2014年4月25日
学会137	武田孝一、秋山陽一郎、中村潤、永谷勝也、長嶋孝夫、佐藤健夫、 <u>簗田清次</u> . 後天性血友病Aを合併し後天性von Willebrand症候群も疑われたSLEの1例. 第58回日本リウマチ学会総会・学術集会(東京) 2014年4月25日
学会138	花井俊一郎、佐藤健夫、武田孝一、永谷勝也、岩本雅弘、 <u>簗田清次</u> . ミノサイクリンによる薬剤誘発性ループスの1例. 第58回日本リウマチ学会総会・学術集会(東京) 2014年4月25日
学会139	大館花子、室崎貴勝、丸山暁人、本根杏子、永谷勝也、 <u>簗田清次</u> . 関節リウマチと酷似した症状を呈した先端巨大症の1例. 第604回日本内科学会関東地方会(東京) 2014年3月8日
学会140	Yoshio T, Okamoto H, Kurasawa K, Dei Y, Hirohata S, <u>Minota S</u> . The presence of IgG-immune complexes in the cerebrospinal fluids is associated with central neurocychiatric manifestatin but not with intrathecal production of proimmflammatory cytokines/chemokines such as interferon- α in systemic lupus erythematosus. ACR/ARHP 2013 Annual Meeting, San Diego, California, October 28, 2013
学会141	釜田康行、長嶋孝夫、岩本雅弘、 <u>簗田清次</u> . 副腎皮質ステロイドが血清・関節液MMP-3に与える影響. 第26回日本アレルギー学会春季臨床大会(京都) 2014年5月9日
学会142	長嶋孝夫、丸山暁人、中村潤、石澤彩子、室崎貴勝、秋山陽一郎、釜田康行、永谷勝也、岩本雅弘、吉尾卓、岡崎仁昭、 <u>簗田清次</u> . 炎症性筋疾患の関節症状と自己抗体との関係. 第63回日本アレルギー学会秋季学術大会(東京) 2013年11月28日

学会143	中村潤、長嶋孝夫、永谷勝也、吉尾卓、岩本雅弘、 <u>簗田清次</u> . B型肝炎ウイルス既感染関節リウマチ患者への生物学的製剤投与と再活性化. 第63回日本アレルギー学会秋季学術大会(東京)2013年11月28日
学会144	丸山暁人、長嶋孝夫、石澤彩子、室崎貴勝、本根杏子、釜田康行、永谷勝也、吉尾卓、岡崎仁昭、岩本雅弘、 <u>簗田清次</u> . 当科におけるループス腸炎の臨床的検討. 第41回日本臨床免疫学会総会(下関)2013年11月28日
学会145	Nakamura J, Nagashima T, Nagatani K, Yoshio T, Iwamoto Y, <u>Minota S</u> : Incidence of hepatitis B virus reactivation in patients with rheumatoid arthritis during treatment with biologics.ACR/ARHP 2013 Annual Meeting,San Diego, California, October 28, 2013
学会146	室崎貴勝、秋山陽一郎、永谷勝也、渡部貴裕、長嶋孝夫、 <u>簗田清次</u> . 肺高血圧症とSLE様の所見を伴った、原発性Sjögren症候群合併Basedow病の一例. 第22回日本シェーグレン症候群学会学術集会(大阪)2013年9月14日
学会147	釜田康行、 <u>簗田清次</u> . 副腎皮質ステロイドによる膠原病合併症肺高血圧症の治療. 第2回日本肺循環学会学術集会(東京)2013年6月22日
学会148	西村貴裕、皆方大佑、中村潤、室崎貴勝、釜田康行、長嶋孝夫、金井信 <u>簗田清次</u> . 強皮症の経過中に半月体形成性糸球体腎炎を合併した1例. 第596回日本内科学会関東地方会(東京)2013年5月11日
学会149	中村潤、秋山陽一郎、上田佳孝、永谷勝也、長嶋孝夫、岩本雅弘、 <u>簗田清次</u> . 血清TARC高値であったnon-episodic angioedema with eosinophiliaの1例. 第25回日本アレルギー学会春季臨床大会(横浜)2013年5月11日
学会150	長嶋孝夫、永谷勝也、釜田康行、丸山暁人、本根杏子、室崎貴勝、岩本雅弘、吉尾卓、岡崎仁昭、 <u>簗田清次</u> . 4種類の生物学的製剤による関節リウマチの治療効果・1年継続率の比較. 第110回日本内科学会総会・講演会(東京)2013年4月14日
学会151	本根杏子、岩本雅弘、櫻井武男、磯武信、 <u>簗田清次</u> . 関節リウマチにおけるTNF阻害薬有効性の予測のためのGWAS解析. 第57回日本リウマチ学会総会・学術集会(京都)2013年4月18日
学会152	石澤彩子、中村潤、室崎貴勝、池ノ谷紘平、丸山暁人、本根杏子、秋山陽一郎、釜田康行、永谷勝也、長嶋孝夫、岡崎仁昭、吉尾卓、岩本雅弘、 <u>簗田清次</u> . 関節リウマチ患者の疾患活動性に関する予後予測因子の検討. 第57回日本リウマチ学会総会・学術集会(京都)2013年4月19日
学会153	長嶋孝夫、永谷勝也、岩本雅弘、丸山暁人、本根杏子、室崎貴勝、釜田康行、吉尾卓、岡崎仁昭、 <u>簗田清次</u> . エタネルセプト減量とその後の治療効果について. 第57回日本リウマチ学会総会・学術集会(京都)2013年4月19日
学会154	室崎貴勝、永谷勝也、 <u>簗田清次</u> . β -D-グルカン陽性関節リウマチ患者に対するTNF阻害薬の使用経験. 第57回日本リウマチ学会総会・学術集会(京都)2013年4月20日

(部門名) 産科学部門

通し番号	
学会155	馬場洋介、松原茂樹、鈴木寛正、高橋宏典、薄井里英、大口昭英、 <u>鈴木光明</u> . 前置胎盤におけるTransplacental approachと新生児貧血の関連. 第67回日本産科婦人科学会(横浜)2015年4月11日(日本産科婦人科学会誌2015;67:798)
学会156	平嶋周子、大口昭英、高橋佳代、鈴木寛正、 <u>松原茂樹</u> 、 <u>鈴木光明</u> . 妊娠中期、後期前半の胎盤成長因子濃度とその後のSGA児及びsmall placenta発生との関連. 第67回日本産科婦人科学会(横浜)2015年4月10日(日本産科婦人科学会誌2015;67:509)

学会157	平嶋洋斗、竹井裕二、馬場洋介、猿山美幸、高橋詳史、町田静生、種市明代、藤原寛行、 <u>松原茂樹</u> 。子宮筋腫核出術後に未破裂で発見された子宮動脈仮性動脈瘤 -症例報告-。第130回関東連合産婦人科学会（幕張）2015年10月25日（関東産婦誌2015;52:491）
学会158	木村円、鈴木寛正、大口昭英、森沢宏行、小古山学、馬場洋介、高橋宏典、廣瀬典子、猿山美幸、薄井里英、 <u>松原茂樹</u> 。子宮内反整復後の弛緩出血に対するMY縫合+Bakri バルーン（MY-sandwich）：症例報告。第129回関東連合産婦人科学会（東京）2015年6月7日（関東連合産婦人科会誌2015;52:291）
学会159	小林真実、廣瀬典子、大口昭英、大丸貴子、 <u>松原茂樹</u> 、鈴木光明。妊娠高血圧腎症における赤血球膜脂肪酸組成中の飽和、一価不飽和、 ω -3脂肪酸比率。第67回日本産科婦人科学会（横浜）2015年4月12日（日本産科婦人科学会誌2015;67:913）
学会160	永山志穂、高橋佳代、大口昭英、平嶋周子、猿山美幸、鈴木寛正、 <u>松原茂樹</u> 、鈴木光明。糖尿病家族歴と妊娠糖尿病、妊娠高血圧あるいは妊娠高血圧腎症発症との関係。第67回日本産科婦人科学会（横浜）2015年4月10日（日本産科婦人科学会誌2015;67:622）
学会161	永山志穂、高橋佳代、大口昭英、平嶋周子、猿山美幸、鈴木寛正、 <u>松原茂樹</u> 。糖尿病家族歴、高血圧家族歴の妊娠糖尿病、妊娠高血圧、及び、妊娠高血圧腎症発症に及ぼす影響：多変量解析。第39回日本産婦人科栄養・代謝研究会（同抄録p15）。（東京）2015年8月22日
学会162	小川正樹、松田義雄、中井章人、林昌子、佐藤昌司、 <u>松原茂樹</u> 。出生児体重/胎盤重量比に関する研究：在胎週数別曲線の作成。第67回日本産科婦人科学会（横浜）2015年4月10日（日本産科婦人科学会誌2015;67:633）
学会163	佐野実穂、鈴木寛正、薄井里英、桑田円、横山端浩、堀江健司、高橋宏典、馬場洋介、大口昭英、 <u>松原茂樹</u> 。リトドリンの有害事象-心房細動（症例報告）。第40回栃木県母性衛生学会（栃木）2015年6月27日
学会164	猿山美幸、大口昭英、高橋佳代、大丸貴子、平嶋周子、鈴木寛正、 <u>松原茂樹</u> 、鈴木光明。家庭血圧測定における変曲点の在胎週数、血圧レベル、及び、その後2週間の血圧増加速度を用いた妊娠高血圧腎症並びに妊娠高血圧の発症予知。第67回日本産科婦人科学会（横浜）2015年4月12日（日本産科婦人科学会誌2015;67:922）
学会165	鈴木寛正、平嶋周子、大口昭英、高橋佳代、永山志穂、高橋宏典、猿山美幸、薄井里英、 <u>松原茂樹</u> 、鈴木光明。妊娠中期の血清galectin-1低値と、妊娠高血圧腎症及び妊娠高血圧の発症リスク。第67回日本産科婦人科学会（横浜）2015年4月12日（日本産科婦人科学会誌2015;67:912）
学会166	高橋宏典、 <u>松原茂樹</u> 、大口昭英、薄井里英、桑田知之、馬場洋介、鈴木寛正、瀧澤俊広、鈴木光明。妊娠初期栄養膜細胞における α Disintegrin and Metalloproteinase (ADAM) ファミリーの発現：絨毛外栄養膜細胞浸潤へのADAM関与可能性。第67回日本産科婦人科学会（横浜）2015年4月10日（日本産科婦人科学会誌2015;67:508）
学会167	山口順子、高橋宏典、桑田知之、 <u>松原茂樹</u> 。胎児異常などを指摘された妊婦さんへのメンタルヘルス支援-自治医大附属病院における取り組み-。第12回周産期メンタルヘルスケア学会（下野）2015年10月31日
学会168	Ohkuchi A, Hirashima C, Saruyama M, Takahashi K, Ohmaru T, Suzuki H, <u>Matsubara S, Suzuki M</u> . Prediction of preeclampsia using angiogenesis-related factors or home blood pressure monitoring. Workshop on the 46th International Congress on Pathophysiology of Pregnancy. September 19, 2014. Tokyo (Keio Plaza Hotel) (Hypertension research in pregnancy 2014; 2:70-71)

学会169	Saruyama M, Ohkuchi A, Takahashi K, Ohmaru T, Hirashima C, Suzuki H, <u>Matsubara S, Suzuki M</u> . The existence of inflection point in home blood pressure monitoring at earlier gestational weeks in preeclampsia and gestational hypertension. 46th International Congress on Pathophysiology of Pregnancy. September 19, 2014, (Tokyo) (Hypertension research in pregnancy 2014; 2:89)
学会170	安倍まさき、高橋詳史、薄井里英、大口昭英、 <u>松原茂樹</u> 、 <u>鈴木光明</u> 。妊娠27週で早産した母児リステリア症。第8回日本早産予防研究会（栃木）2014年11月15日
学会171	馬場洋介、 <u>松原茂樹</u> 、桑田知之、大口昭英、薄井里英、猿山美幸、 <u>鈴木光明</u> 。子宮動脈仮性動脈瘤は無侵襲的な分娩・流産後にも発症する：22例の検討。第66回日本産婦人科学会総会（東京）2014年4月20日（日本産科婦人科学会雑誌2014;66:801）
学会172	馬場洋介、高橋宏典、大橋麻衣、齋藤こよみ、薄井里英、桑田知之、大口昭英、 <u>松原茂樹</u> 、 <u>鈴木光明</u> 。MD双胎1児死亡後の生存児脳形態異常：妊娠8週での1児死亡後に認められた変化。第80回栃木県産婦人科科学会（宇都宮）2014年9月7日
学会173	堀江健司、永山志穂、薄井里英、大口昭英、神谷千津子、小森咲子、 <u>松原茂樹</u> 、 <u>鈴木光明</u> 。QT延長症候群合併妊娠において胎児心磁図により先天性QT延長症候群が予測出来た1例。第127回関東連合産婦人科学会総会（東京）2014年6月22日（関東連合産科婦人科学会雑誌2014;51:267）
学会174	堀江健司、大口昭英、馬場洋介、鈴木寛正、桑田知之、薄井里英、 <u>松原茂樹</u> 、 <u>鈴木光明</u> 。切迫早産妊婦におけるリトドリンの副反応に対するイソクサプリンの効果。第66回日本産婦人科学会総会（東京）2014年4月20日（日本産科婦人科学会雑誌2014;66:780）
学会175	今井賢、永山志穂、堀江健司、鈴木寛正、桑田知之、薄井里英、大口昭英、 <u>松原茂樹</u> 、 <u>鈴木光明</u> 。重症妊娠悪阻を契機に発見された汎血球減少症、真性甲状腺機能亢進症。第66回日本産婦人科学会総会（東京）2014年4月20日（日本産科婦人科学会雑誌2014;66:809）
学会176	岩下あゆみ、馬場洋介、平嶋洋斗、佐藤尚人、高橋詳史、木村円、薄井里英、大口昭英、 <u>松原茂樹</u> 、 <u>鈴木光明</u> 。重症妊娠悪阻：腎不全・呼吸停止を示した症例。第80回栃木県産婦人科科学会（宇都宮）2014年9月7日
学会177	高橋宏典、弓削主哉、 <u>松原茂樹</u> 、大口昭英、桑田知之、薄井里英、松本久宣、佐藤幸保、藤原浩、岡本愛光、瀧澤俊広、 <u>鈴木光明</u> 。CD44を介した絨毛外栄養細胞の浸潤調節機構の解明。第66回日本産婦人科学会総会（東京）2014年4月18日（日本産科婦人科学会雑誌2014;66:433）
学会178	神戸沙織、弓削主哉、石田洋一、大口昭英、 <u>松原茂樹</u> 、 <u>鈴木光明</u> 、齋藤滋、瀧澤俊広、竹下俊行。ヒト胎盤特異的マイクロRNAはエクソソームを介して母体免疫細胞の遺伝子発現を修飾している。第66回日本産婦人科学会総会（東京）2014年4月18日（日本産科婦人科学会雑誌2014;66:435）
学会179	小林真実、高橋佳代、大口昭英、鈴木寛正、有賀治子、廣瀬典子、平嶋周子、 <u>松原茂樹</u> 、 <u>鈴木光明</u> 。妊娠高血圧症候群既往歴は、血圧高値と子宮動脈血流速度異常とは独立した妊娠高血圧腎症の危険因子である。第66回日本産婦人科学会総会（東京）2014年4月19日（日本産科婦人科学会雑誌2014;66:678）
学会180	桑田知之、市塚清健、名取道也、前山朝子、 <u>松原茂樹</u> 、 <u>鈴木光明</u> 。経膈プローブHPV汚染：現状と対策。第66回日本産婦人科学会総会（東京）2014年4月19日（日本産科婦人科学会雑誌2014;66:670）
学会181	永山志穂、桑田知之、堀江健司、薄井里英、大口昭英、 <u>松原茂樹</u> 、 <u>鈴木光明</u> 。子宮動脈と卵巣動脈との両者塞栓を要した仮性動脈瘤。第66回日本産婦人科学会総会（東京）2014年4月19日（日本産科婦人科学会雑誌2014;66:697）
学会182	柴山幸奈、中野理恵、渡部睦美、松本美智子、山口順子、渡辺道子、桑田知之、 <u>松原茂樹</u> 、甲斐君枝、渡邊亮一。安静の違いによる妊婦の重心動揺の比較-切迫早産治療後の転倒予防の援助-。第39回栃木県母性衛生学会総会（栃木）2014年6月28日

学会183	渡辺尚、木村円、内田真一郎、田中均、高橋詳史、薄井里英、松原茂樹. 当科における開腹術後の静脈血栓予防. 第24回日本産婦人科新生児血液学会(横浜)2014年6月13日
学会184	有賀治子、高橋佳代、大口昭英、永山志穂、桑田知之、相原敏則、前田貢作、小野滋、谷口周平、河田浩敏、松原茂樹、鈴木光明. 胎児腎上部嚢胞性腫瘍の2例. 126回関東連合産婦人科学会(浜松)2013年10月27日
学会185	馬場洋介、松原茂樹、桑田知之、薄井里英、大口昭英、鈴木光明. 前壁付着の前置胎盤は帝王切開時大出血の独立危険因子である. 第49回日本周産期新生児医学会学術集会(横浜)2013年7月15日(日本周産期新生児医学会誌2013;49:688)
学会186	平嶋洋斗、鈴木寛正、戸代原加奈、薄井里英、桑田知之、大口昭英、松原茂樹、鈴木光明. 帝王切開後膿瘍へのドレナージのタイミング:症例報告. 第38回栃木県母性衛生学会総会(宇都宮)2013年7月2日
学会187	廣瀬典子、桑田知之、小林真実、薄井里英、大口昭英、松原茂樹、鈴木光明. 産褥子宮摘出術14例(4年)の検討. 第65回日本産科婦人科学会総会(札幌)2013年5月11日(日本産科婦人科学会雑誌2013;65:767)
学会188	神戸沙織、吉武 洋、石田洋一、大口昭英、松原茂樹、鈴木光明、齋藤 滋、瀧澤俊広、竹下俊行. 妊娠末梢血natural killer細胞における胎盤特異的マイクロRNA標的遺伝子候補の検索. 第65回日本産科婦人科学会総会(札幌)2013年5月12日(日本産科婦人科学会雑誌2013;65:849)
学会189	神戸沙織、吉武 洋、石田洋一、瀧澤敬美、大口昭英、松原茂樹、鈴木光明、竹下俊行、齋藤 滋、瀧澤俊広. エクソソームを介した胎盤特異的マイクロRNAによる胎盤免疫細胞間情報伝達機構. 第31回日本胎盤学会(名古屋)2013年10月26日
学会190	小林真実、桑田知之、廣瀬典子、薄井里英、大口昭英、松原茂樹、鈴木光明. 産科疾患への血管内治療の有効性:当院6年37症例の経験. 第65回日本産科婦人科学会総会(札幌)2013年5月11日(日本産科婦人科学会雑誌2013;65:766)
学会191	桑田知之、松原茂樹. 羊水中に浮かんで見える1本の血管から 卵膜付着とMangrove sign. 日本超音波医学会第86回学術集会(大阪)2013年5月24日
学会192	桑田知之、松原茂樹、廣瀬典子、小林真実、橘 直之、向田幸子、薄井里英、大口昭英、谷野 均、鈴木光明. 前置胎盤術後出血に対する新規手術法(M-Y(Matsubara-Yano) sandwich法)の考案. 第65回日本産科婦人科学会総会(札幌)2013年5月11日(日本産科婦人科学会雑誌2013;65:830)
学会193	桑田知之、高橋宏典、猿山美幸、薄井里英、大口昭英、松原茂樹、鈴木光明. 超音波カラードプラ法を用いたPMD(間葉性異形成胎盤)の診断:症例報告. 第49回日本周産期新生児医学会学術集会(横浜)2013年7月15日(日本周産期新生児医学会誌2013;49:686)
学会194	松原茂樹. key note speaker:帝王切開時大出血への新規対抗策 -MY sutureとMY sandwich- シンポジウム 「母児安全のための帝王切開の工夫」 第36回日本産婦人科手術学会(東京)2013年9月28日(講演抄録集78)
学会195	永島友美、溝口由香子、齋藤こよみ、廣瀬典子、薄井里英、桑田知之、大口昭英、松原茂樹、鈴木光明. 妊婦の胆のう炎:胆のう切除を要した例. 第77回栃木県産科婦人科学会(宇都宮)2013年1月27日
学会196	大口昭英、堀江健司、鈴木寛正、桑田知之、薄井里英、松原茂樹、鈴木光明. 塩酸リトドリンの副反応とその対応について. 第7回日本早産予防研究会学術集会(東京)2013年11月23日

学会197	大丸貴子、大口昭英、高橋佳代、猿山美幸、鈴木寛正、平嶋周子、桑田知之、薄井里英、 <u>松原茂樹</u> 、 <u>鈴木光明</u> 。妊娠初期の外來血圧第1回目、2回目、3回目測定値を用いた妊娠高血圧症候群発症予知。第65回日本産科婦人科学会総会（札幌）2013年5月10日（日本産科婦人科学会雑誌2013;65:617）
学会198	齋藤こよみ、高橋宏典、薄井里英、鈴木はる奈、永島友美、桑田知之、大口昭英、 <u>松原茂樹</u> 、 <u>鈴木光明</u> 。肺動静脈瘻治療後に良好な転帰をとった遺伝性出血性毛細血管拡張症合併妊娠。第125回関東産科婦人科学会（東京）2013年6月16日（関東産科婦人科学会雑誌2013;50:341）
学会199	猿山美幸、大口昭英、平嶋周子、高橋佳代、鈴木寛正、大丸貴子、有賀治子、桑田知之、薄井里英、 <u>松原茂樹</u> 、 <u>鈴木光明</u> 。妊娠初期に高血圧と診断された妊婦では、約半数が分娩時高血圧を呈する。第65回日本産科婦人科学会総会（札幌）2013年5月10日（日本産科婦人科学会雑誌2013;65:617）
学会200	猿山美幸、桑田知之、鈴木寛正、高橋宏典、馬場洋介、薄井里英、大口昭英、 <u>松原茂樹</u> 、 <u>鈴木光明</u> 。無症候性の産褥子宮内仮性動脈瘤：1ヶ月健診時診断の重要性。第49回日本周産期新生児医学会学術集会（横浜）2013年7月16日（日本周産期新生児医学会誌2013;49:733）
学会201	鈴木寛正、桑田知之、高橋宏典、廣瀬典子、薄井里英、大口昭英、 <u>松原茂樹</u> 、 <u>鈴木光明</u> 。双胎1児の胎動消失感：急速発症TTTSによる胎児機能不全（症例報告）。第49回日本周産期新生児医学会学術集会（横浜）2013年7月15日（日本周産期新生児医学会誌2013;49:652）
学会202	高橋宏典、吉武 洋、 <u>松原茂樹</u> 、大口昭英、桑田知之、薄井里英、岡本愛光、 <u>鈴木光明</u> 、瀧澤俊広。CD44による絨毛外栄養細胞の浸潤機構：WNTシグナルによる促進。第31回日本胎盤学会（名古屋）2013年10月26日
学会203	高橋宏典、菊池邦正、大口昭英、 <u>松原茂樹</u> 、桑田知之、薄井里英、松本久宣、佐藤幸保、藤原 浩、岡本愛光、瀧澤俊広、 <u>鈴木光明</u> 。MicroRNAを介した絨毛栄養膜細胞による絨毛外栄養膜細胞の浸潤制御。第65回日本産科婦人科学会総会（札幌）2013年5月10日（日本産科婦人科学会雑誌2013;65:514）
学会204	高橋詳史、渡辺尚、木村円、田中均、藤原寛行、 <u>松原茂樹</u> 、 <u>鈴木光明</u> 。血清が茶褐色を呈した内膜症嚢胞破裂の1例。第125回関東産科婦人科学会（東京）2013年6月16日（関東産科婦人科学会雑誌2013;50:365）
学会205	内田真一郎、鈴木寛正、佐藤尚人、昇 千穂美、町田静生、桑田知之、薄井里英、大口昭英、 <u>松原茂樹</u> 、 <u>鈴木光明</u> 、木村孔三。卵巣過剰刺激症候群を発症した胞状奇胎。第78回栃木県産科婦人科学会学術講演会（宇都宮）2013年9月1日
学会206	葭葉貴弘、大口昭英、齋藤こよみ、馬場洋介、渡辺 尚、桑田知之、薄井里英、 <u>松原茂樹</u> 、 <u>鈴木光明</u> 。産科異常出血に関する分娩様式別のリスク因子：6126例の多変量解析。第65回日本産科婦人科学会総会（札幌）2013年5月11日（日本産科婦人科学会雑誌2013;65:764）

(部門名) 眼科学

通し番号	
*学会207	坂本晋一、高橋秀徳、富永聡子、佐藤彩、竹澤美貴子、井上裕治、藤野雄次郎、田邊樹郎、川島秀俊。滲出型加齢黄斑変性の視力良好例に対するアフリベルセプト計画的投与。第54回日本網膜硝子体学会総会（東京）2015年12月4-6日
*学会208	添田めぐみ、新井悠介、高橋秀徳、井上裕治、藤野雄次郎、田邊樹郎、川島秀俊。硝子体側に血管進展があり硝子体出血を繰り返すRetinal astrocytic hamartomaの特殊例。第69回日本臨床眼科学会（名古屋）2015年10月22-25日

*学会209	Inoda S, <u>Takahashi H</u> , Tan X, Kakinuma N, Nomura Y, Sakamoto S, Arai Y, Fujino Y, Kawashima H, Yanagi Y: Aqueous humor inflammatory cytokine levels in chronic retinal vein occlusion. The Association for Research in Vision and Ophthalmology, Denver, Colorado, May 4-8, 2015
*学会210	伊野田悟、高橋秀徳、譚雪、垣沼奈津子、野村陽子、坂本晋一、新井悠介、富永聡子、佐藤彩、藤野雄次郎、川島秀俊、柳靖雄. 網膜静脈閉塞症慢性期における前房中炎症性サイトカイン濃度. 第119回日本眼科学会総会（札幌）2015年4月16-19日
*学会211	高橋秀徳、坂本晋一、垣沼奈津子、富永聡子、佐藤彩、竹澤美貴子、斎藤由香、斎藤信一郎、新井悠介、藤野雄次郎、川島秀俊、柳靖雄. 滲出型加齢黄斑変性に対する抗血管内皮増殖因子療法中の過度な網膜菲薄化と視力低下. 第119回日本眼科学会総会（札幌）2015年4月16-19日
学会212	嘉村由美、中島基宏、大河原百合子、高橋秀徳、佐藤幸裕. 増殖硝子体網膜症に対する硝子体手術の合併症－20ゲージと23ゲージの比較－. 第119回日本眼科学会総会（札幌）2015年4月16-19日
学会213	反保宏信、大河原百合子、高橋秀徳、佐藤幸裕：糖尿病患者の眼底スクリーニング－散瞳2方向と4方向カラー撮影の比較. 第20回日本糖尿病眼学会総会（東京）2015年3月6-8日
学会214	高橋秀徳、譚雪、垣沼奈津子、坂本晋一、野村陽子、藤野雄次郎、新井悠介、佐藤彩、竹澤美貴子、川島秀俊、青木彩、柳靖雄. 滲出型加齢黄斑変性における炎症系サイトカイン前房中濃度と治療予後の関連. 第68回日本臨床眼科学会（神戸）2014年11月13-16日
学会215	Sakamoto S, <u>Takahashi H</u> , Tan X, Nomura Y, Iriyama A, Fujino Y, Sato A, Takezawa M, Kawashima H, Yanagi Y: Changes in the concentrations of various cytokines in the anterior chamber at the induction phase of ranibizumab treatment in age-related macular degeneration. The Association for Research in Vision and Ophthalmology, Orlando, Florida, May 4-8, 2014
学会216	Sakamoto S, <u>Takahashi H</u> , Fujino Y, Yanagi Y, Kawashima H: Two age-related macular degeneration patients whose choroidal thickness has decreased rapidly before polypoid lesion appeared. The World Ophthalmology Congress, Tokyo, Japan, April 2-6, 2014
学会217	大河原百合子、高橋秀徳、佐藤幸裕. 増殖硝子体網膜症に対する硝子体手術後の血管新生緑内障. 第118回日本眼科学会総会（東京）2014年4月2-6日
学会218	<u>Takahashi H</u> , Hayashi T, Tsuneoka H, Fujino Y, Yoshimoto M, Kawashima H: Occult Macular Dystrophy With Bilateral Chronic Subfoveal Serous Retinal Detachment. 第52回日本網膜硝子体学会総会 The 8th Congress of Asia Pacific Vitreo-retina Society, Nagoya, Japan, Dec 6-8, 2013
学会219	坂本晋一、新井悠介、高橋秀徳、藤野雄次郎、小畑亮、柳靖雄、川島秀俊. ラニビズマブ頻回投与中に脈絡膜が著明に菲薄化した1例. 第30回日本眼循環学会（東京）2013年7月19-20日
学会220	<u>Takahashi H</u> , Tan X, Nomura Y, Iriyama A, Fujino Y, Okubo Y, Sato A, Takezawa M, Kawashima H, Yanagi Y: Associations between Posterior Vitreous Detachment and Concentrations of Various Cytokines in Eyes with Age-related Macular Degeneration and Normal Control Eyes. The Association for Research in Vision and Ophthalmology, Seattle, Washington, May 5-9, 2013
学会221	高橋秀徳、譚雪、柳靖雄、野村陽子、藤村茂人、川島秀俊. 加齢黄斑変性および正常対象眼における後部硝子体剥離と各種サイトカイン濃度の関連. 第117回日本眼科学会総会（東京）2013年4月4～7日

（部門名）機能生化学部門

通し番号	
------	--

学会222	坂下英司, 笠嶋克巳, <u>遠藤仁司</u> . F1 γ の酸性pH誘導による選択的スプライシング調節 第15回日本RNA学会年会 (松山) 2013年7月24-26日 (要旨集P-54)
学会223	益子貴史, 坂下英司, 笠嶋克巳, <u>遠藤仁司</u> . 発生段階特異的 RNA 結合蛋白質 Drb1 の細胞内局在性の解析 第15回日本RNA学会年会 (松山) 2013年7月24-26日 (要旨集P-99)
学会224	笠嶋克巳, 富永薫, <u>遠藤仁司</u> . TFAMによるミトコンドリアゲノム分配機構の解析. 第86回日本生化学会年会 (横浜) 2013年9月11-13日 (プログラム集p. 142)
学会225	Kasashima, K., Sumitani, M., and <u>Endo, H.</u> Molecular mechanism of TFAM-regulated mitochondrial DNA/nucleoid distribution. The 4th International Symposium on Dynamics of Mitochondria, Okinawa, Japan, October 28 – November 1, 2013, Abstract book p. 156
学会226	長尾 恭光, 堀居 拓郎, 太田 恵理子, 小葉 清美, 笠嶋 克己, 畑田 出穂, 徳永 智也, 今井 裕, 國田 智, <u>遠藤 仁司</u> . 培養時間とマウス精子ミトコンドリアDNA量の関係 第60回日本実験動物学会総会 (筑波) 2013年5月15-17日 (0-44)
学会227	宮田五月, 五味 玲, 山口 崇, <u>遠藤仁司</u> , 卜部匡司, 小沢敬也, 渡辺英寿. 変異型IDHグリオーマにおける網羅的代謝解析: 新規バイオマーカー検出の可能性. 第14回日本分子脳神経外科学会 (横浜) 2013年10月18-19日
学会228	益子貴史, 坂下英司, 笠嶋克巳, 富永薫, 松浦徹, <u>遠藤仁司</u> . 発生段階特異的RNA結合蛋白質Drb1の細胞内局在と細胞質凝集体形成能の解析. 第16回日本RNA学会年会 (名古屋) 2014年7月23-25日 (要旨集P-63)
学会229	笠嶋克巳, <u>遠藤仁司</u> . ミトコンドリア内におけるTFAM間相互作用に必要なドメインの同定. 第87回日本生化学会年会 (京都) 2014年10月15-18日 (プログラム集p. 149)
学会230	長尾恭光, 戸塚義和, 堀井拓郎, 守谷尚倫, 小葉清美, 畑田出穂, 徳永智也, <u>花園豊</u> , 國田智, 今井裕, <u>遠藤仁司</u> . インジェクション法によるMus spretusテトラプロイドキメラマウスの作製. 第61回日本実験動物学会総会 (札幌) 平成26年5月15-17日
学会231	笠嶋克巳, <u>遠藤仁司</u> . TFAMによるミトコンドリアDNA動態調節機構の解析. 第38回日本分子生物学会年回. 第88回日本生化学会大会合同年会 (神戸) 2015年12月1-4日 (プログラム集p. 859)
学会232	<u>遠藤 仁司</u> , 山本 智, 長尾 泰光, 黒岩 憲二, 市田 勝, 富永 薫. Rapid selection of XO embryonic stem cells using Y chromosome-linked GFP transgenic mice. 第38回日本分子生物学会年回. 第88回日本生化学会大会合同年会 (神戸) 2015年12月1-4日 (プログラム集p. 4274-5)
学会233	益子 貴史, 坂下 英司, 笠嶋 克巳, 黒岩 憲二, 富永 薫, 松浦 徹, <u>遠藤 仁司</u> . 発生段階特異的RNA結合蛋白質Drb1の細胞質封入体形成機構の解析. 第38回日本分子生物学会年回. 第88回日本生化学会大会合同年会 (神戸) 2015年12月1-4日 (プログラム集p. 4552-4553)

(部門名) 構造生化学部門

通し番号	
学会234	<u>多胡憲治</u> . ST2遺伝子産物 (IL1RL1) の機能解析の近況. 奈良先端科学技術大学院大学異分野融合ワークショップ「生体における情報伝達制御システムの破綻と疾患」 (奈良) 2015年12月11-12日
学会235	<u>多胡憲治</u> , 多胡めぐみ, 太田聡, 松儀実広, 柳澤健. 新規IL-33シグナル調節蛋白質IFITM3の同定. 第88回日本生化学会大会・第38回日本分子生物学会年会 (神戸) 2015年12月1-4日

*学会236	多胡憲治. 古典的Rasが誘起する発がんシグナル伝達系における新規Rasファミリーの役割と古典的Rasによる転写因子NF-κB活性化促進の分子機構. 奈良先端未来開拓コロキウム「生体機能を司る細胞間ネットワーク制御機構の最前線」(奈良) 2014年12月18-19日
学会237	多胡憲治、多胡めぐみ、杉山直幸、伊東広、柳澤健. 新規がん抑制遺伝子産物 TRB3はκB-RasのSUMO化を介してRas(G12V)の発がんシグナルを制御する. 第37回日本分子生物学会年会(横浜) 2014年11月25-27日
*学会238	多胡憲治、多胡めぐみ、太田聡、松儀実広、柳澤健. がん化型Ras変異体はNF-κBの過剰な活性化を引き起こす. 第87回日本生化学会大会(京都) 2014年10月15-18日
学会239	多胡憲治. がん抑制遺伝子産物Arfはc-MycとDDX5により構成されるポジティブフィードバックループを抑制する. 奈良先端未来開拓コロキウム「生体における恒常性維持機構とその破綻による疾病」(奈良) 2013年10月21-22日
学会240	多胡憲治、多胡めぐみ、太田聡、松儀実広、柳澤健. がん化型Ras変異体が誘起する発がんシグナルはTNFαによるNF-κBの活性化を増強する. 第86回日本生化学会大会(横浜) 2013年9月11-13日

(部門名) 統合病理学部門

通し番号	
学会241	Matsubara D, Ibrahim R, Osman W, Goto A, Morikawa T, Morita S, Ishikawa S, Aburatani H, Fukayama M, <u>Niki T</u> , Murakami Y. Expression of PRMT5 in lung adenocarcinoma and its significance in epithelial-mesenchymal transition. Annual Meeting of American Association for Cancer Research, San Diego, April 5-9, 2014.
学会242	Ui T, Morishima K, Saito S, Sakuma Y, Fujii H, Hosoya Y, Yasuda Y, <u>Niki T</u> . The HSP90 inhibitor 17-AAG improves chemoresistance of cisplatin-resistant esophageal squamous cell carcinoma cell lines. Annual Meeting of American Association for Cancer Research, San Diego, April 5-9, 2014.
学会243	佐久間裕司, <u>仁木利郎</u> . EGFR遺伝子変異陽性肺癌に内在するZEB1発現細胞の研究. 第55回日本肺癌学会総会(京都) 2014年11月14-16日
学会244	吉本多一郎, 松原大祐, 坂谷貴司, 福嶋敬宜, <u>仁木利郎</u> . 非小細胞肺癌におけるクロマチンリモデリング因子(BRG1, BRM, ARID1A, ARID1B, BAF47)の発現異常について. 第73回日本癌学会総会(横浜) 2014年9月25-27日
学会245	松原大祐, 伊東剛, 田中一大, 森川鉄平, 中島淳, <u>仁木利郎</u> . 肺腺癌におけるYAP1(a Hippo signalingにおける転写因子)の発現パターンと病理組織学的形態, 予後との関連性について. 第73回日本癌学会総会(横浜) 2014年9月25-27日

(部門名) 婦人科学部門

通し番号	
学会246	Saga Y, Takahashi Y, Koyanagi T, <u>Suzuki M</u> , Sato Y: Suppression of ovarian cancer by muscle-mediated expression of vasohibin-1 using adeno-associated virus serotype 1-derived vector. 10th Vasohibin Meeting, Zao, Japan, January 10, 2015
学会247	小柳貴裕, 嵯峨泰, 高橋詳史, 佐藤尚人, 町田静生, 種市明代, 竹井祐二, 藤原寛行, <u>鈴木光明</u> . 新規血管新生調節因子バゾヒビン2中和抗体の開発と卵巣癌治療応用へ向けた基礎研究. 第66回日本産科婦人科学会総会(東京) 2014年4月18-20日

学会248	小柳貴裕、嵯峨泰、高橋詳史、町田静生、種市明代、竹井祐二、藤原寛行、鈴木光明. 卵巣癌細胞が産生する新規血管新生調節因子Vasohibin - 2を標的とした治療法の開発. 第52回日本臨床細胞学会秋期大会 (大阪) 2013年11月2-3日
学会249	嵯峨泰、高橋詳史、小柳貴裕、鈴木光明、佐藤靖史. Vasohibin-1は卵巣癌細胞のインドール酸素添加酵素発現の抑制を介して腫瘍免疫寛容を阻害する. 第9回Vasohibin研究会 (蔵王) 2013年1月11-12日

(部門名) 消化器内科学部門

通し番号	
学会250	小野公平、坂本博次、根本大樹、宮田康史、永山学、井野裕治、竹澤敬人、新畑博英、三浦義正、林芳和、矢野智則、佐藤博之、砂田圭二郎、大澤博之、 <u>山本博徳</u> . (ポスターセッション6) 治療方針の決定に免疫染色が有用であった colitic cancer の1例. 第11回日本消化管学会総会学術集会 (東京) 2015年2月13日
学会251	永山学、矢野智則、林芳和、沼尾規且、北村絢、井野裕治、竹澤敬人、新畑博英、三浦義正、佐藤博之、坂本博次、砂田圭二郎、佐藤貴一、 <u>山本博徳</u> 、菅野健太郎. (シンポジウム:クローン病難治例の診断と治療) クローン病の難治性腸狭窄に対するステロイド局注併用内視鏡的バルーン拡張術は安全で有効である. 第51回小腸研究会 (名古屋) 2013年11月19日

(部門名) 細胞生物研究部

通し番号	
学会252	<u>川上潔</u> 、矢嶋浩 :. Six4/Six5二重変異は骨格筋再生を促進しmdxマウスの寿命をのばす. BMB2015 第38回日本分子生物学会年会 第88回日本生化学会大会 合同大会 (神戸) 2015年12月1-4日
学会253	田中聡、山口泰華、藤本由佳、 <u>川上潔</u> 、西中村隆一. 転写因子Six1とSix4は、生殖巣を構成する体細胞と生殖細胞の前駆細胞形成を制御する. BMB2015 第38回日本分子生物学会年会 第88回日本生化学会大会 合同大会 (神戸) 2015年12月1-4日
学会254	<u>Kawakami K</u> , Sugimoto H, Ikeda K: Atp1a3 heterozygous knock-out mice show reduced social interaction and lower rank in social dominance compared with wild type. 4th Symposium on ATP1A3 in Disease, Washington, USA, August 27-29, 2015
学会255	Ikeda K, <u>Kawakami K</u> . Spontaneous dystonia in Atp1a3+/- . 4th Symposium on ATP1A3 in Disease, Washington, USA, August 27-29, 2015
学会256	池田啓子、鬼丸洋、高橋将文、佐藤滋、 <u>川上潔</u> . 呼吸中枢神経系解析に有用なトランスジェニックラット. Neuroscience 2015 (神戸) 2015年7月28-30日
学会257	佐竹伸一郎、池田啓子、 <u>川上潔</u> 、井本敬二. Atp1a3+/-マウス小脳プルキンエ細胞におけるグルタミン酸輸送体電流の減弱. Neuroscience 2015 (神戸) 2015年7月28-30日
学会258	杉本大樹、 <u>川上潔</u> . ナトリウムポンプ (Atp1a3) は社会階層形成を制御する. Neuroscience 2015 (神戸) 2015年7月28-30日
学会259	飯塚眞喜人、池田啓子、鬼丸洋、 <u>川上潔</u> 、泉崎雅彦. 新生ラット胸髄呼吸性介在ニューロンにおけるグルタミン酸トランスポーターVGLUT1およびVGLUT2の発現. Neuroscience 2015 (神戸) 2015年7月28-30日

*学会260	Kawasaki T, Takahashi M, Mori Y, <u>Kawakami K</u> . Role of Six1 for cell proliferation in the periodontal ligament tissue. 48th Annual Meeting of the Japanese Society of Developmental Biologists, Tsukuba, Japan, June 2-5, 2015
学会261	Yajima H, Sato S, Hayashi T, Takeuchi T, <u>Kawakami K</u> . A missing link in the evolution of sensory architecture in craniates. 48th Annual Meeting of the Japanese Society of Developmental Biologists, Tsukuba, Japan, June 2-5, 2015
学会262	Takahashi M, <u>Kawakami K</u> . Six4 and Six5 are required for ventral body wall closure and morphogenesis of the primary body wall. 48th Annual Meeting of the Japanese Society of Developmental Biologists, Tsukuba, Japan, June 2-5, 2015
学会263	Tanaka S, Yamauchi Y, Fujimoto Y, <u>Kawakami K</u> , Nishinakamura R: Six1 and Six4 homeodomain proteins regulate mouse primordial germ cell formation. 48th Annual Meeting of the Japanese Society of Developmental Biologists, Tsukuba, Japan, June 2-5, 2015
学会264	<u>Kawakami K</u> , Ikeda K, Chiken S, Sugimoto H: Dystonia model mouse deficient of Na-pump alpha3 subunit gene. Proceedings of the 120th Annual Meeting of The Japanese Association of Anatomists and the 92nd Annual Meeting of The Physiological Society of Japan, Kobe, Japan, March 21-23, 2015
学会265	Onimaru H, Lin S, Tani M, Yazawa I, Ikeda K, <u>Kawakami K</u> : TRPA1 agonist, cinnamaldehyde induced long-lasting facilitation of respiratory rhythm in the brainstem-spinal cord preparation isolated from newborn rat and in the in situ perfused- preparation from juvenile rat. Neuroscience2014, Washington,DC., USA, November 15-19, 2014
学会266	佐藤滋、矢嶋浩、川上潔. Six1遺伝子の感覚神経系における役割とその発現制御. 日本遺伝学会第86回大会（長浜）2014年9月17-19日
学会267	杉本大樹、川上潔. 急性発症型ジストニアパーキンソンニズム原因遺伝子(Atp1a3)欠損マウスはストレス負荷により歩幅の減少をしめす. 第37回日本神経科学大会（横浜）2014年9月11-13日
学会268	矢嶋浩、佐藤滋、川上潔: マウス髄内一次感覚神経様細胞の成り立ちから考える脊椎動物一次感覚神経の進化. 日本動物学会第85回仙台大会（仙台）2014年9月11-13日
学会269	<u>Kawakami K</u> , Satake S, Sugimoto H, Ikeda, K: Altered motor memory in behaviour and electrophysiological analyses in Atp1a3 heterozygous knockout mice. Third symposium ATP1A3 in Disease, Lunteren, The Netherlands, August 29-31, 2014
学会270	Ikeda K, Chiken S, Nambu A, Sugimoto H, <u>Kawakami K</u> . Behavioral and electrophysiological analyses of Atp1a3 knockout mice and implication for pathophysiology of dystonia. Third symposium ATP1A3 in Disease Lunteren, The Netherlands, August 29-31, 2014
学会271	Ikeda K, <u>Kawakami K</u> . c-Fos expression in epilepsy-prone Atp1a2 and Atp1a3 knockout mouse brains during development. 47th Annual Meeting for the Japanese Society of Developmental Biologists, Nagoya, May 27-30, 2014
学会272	池田啓子、川上潔. The focus of epilepsy in the brain of mice deficient of Na-pump genes. 第119回日本解剖学会総会・全国学術集会（下野）2014年3月27-29日
学会273	川上潔. ナトリウムポンプの生体機能とナトリウムポンプ病の病態. 分子遺伝学シンポジウム2014（京都）2014年3月1日
学会274	田中聡、藤本由佳、山口泰華、立花誠、金井克晃、諸橋憲一郎、川上潔、西中村隆一: 転写因子Six1/Six4は、マウス生殖腺形成と雄性分化を制御する. 第36回日本分子生物学会年会（神戸）2013年12月3-6日

学会275	高橋将文、川上潔. Six4/Six5二重遺伝子変異マウスにおける臍帯ヘルニア発症機序の解析. 第36回日本分子生物学会年会 (神戸) 2013年12月3-6日
学会276	<u>Kawakami K</u> , Ikeda K, Sugimoto H: Toward the understanding of Na-pump disease. The 10th Nikko International Symposium 2013, Shimotsuke, Japan, October 17, 2013
学会277	Ikeda K, Satake S, <u>Kawakami K</u> . Increased inhibitory neurotransmission in the cerebellum of the Atp1a3-deficient heterozygous mice. Second Symposium on ATP1A3 in disease, Rome, Italy, September 23-24, 2013
学会278	Sugimoto H, Ikeda K, <u>Kawakami K</u> . Atp1a3-deficient heterozygous mice show shorter stride and fall latency in hanging box in chronic stress condition. Second Symposium on ATP1A3 in disease. Rome, Italy, September 23-24, 2013
学会279	Kawasaki T, Takahashi M, Kusama M, <u>Kawakami K</u> : Expression of Six1 in the periodontal ligament and the origin of periodontal ligament stem cells. Gordon Research Conference Neural Crest & Cranial Placodes, Easton, USA, July 21-26, 2013
学会280	佐竹伸一郎、池田啓子、川上潔、井本敬二: Atp1a3+/-マウス小脳皮質において登上線維伝達物質のシナプス外拡散は強く抑制されている. Neuro2013 (京都) 2013年6月20-23日
学会281	<u>Kawakami K</u> , Yajima H, Suzuki, M, Ochi H, Ikeda K, Sato S, Ogino H, Ueno, N: Role of Six1 in evolution of vertebrate primary sensory system. 46th Annual Meeting for the Japanese Society of Developmental Biologists, Matsue, Japan, May 28-31, 2013

(部門名) 再生医学研究部

通し番号	
学会282	河野正太、阿部朋行、大貫貴広、 <u>花園豊</u> . ブタに輸注したヒト血小板の体内動態. 第18回日本異種移植研究会 (長崎) 2016年2月20日
学会283	<u>花園豊</u> . 自治医科大学におけるブタ利用研究. 第3回日本先進医工学ブタ研究会(千代田) 2015年10月16-17日
学会284	武石透輝、中野和明、浅野吉則、内倉鮎子、畑江将太、福田暢、八島紗耶香、松成ひとみ、渡邊将人、梅山一大、長屋昌樹、 <u>花園豊</u> 、長嶋比呂志. クサビラオレンジを全身性に発現するミニブタ系統の開発. 第108回繁殖生物学会 (宮崎) 2015年9月17-20日
学会285	中野和明、渡邊将人、松成ひとみ、内倉鮎子、浅野吉則、武石透輝、畑江将太、高草木大地、梅木育麿、福田暢、八島紗耶香、勝俣佑起、梅山一大、長屋昌樹、 <u>花園豊</u> 、長嶋比呂志. 胚盤胞補完法はIL2RG遺伝子ノックアウト免疫不全ブタの免疫細胞を救済する. 第108回繁殖生物学会 (宮崎) 2015年9月17-20日
学会286	福田暢、中野和明、浅野吉則、武石透輝、畑江将太、内倉鮎子、梅木育麿、笠井悠里、勝俣佑起、八島紗耶香、松成ひとみ、渡邊将人、梅山一大、長屋昌樹、 <u>花園豊</u> 、長嶋比呂志. Gamete Intra Fallopian Transfer (GIFT)法による糖尿病発症ミニブタの作出. 第108回繁殖生物学会 (宮崎) 2015年9月17-20日
学会287	八島紗耶香、中野和明、浅野吉則、笠井悠里、勝俣佑起、福田暢、高草木大地、梅木育麿、武石透輝、畑江将太、松成ひとみ、渡邊将人、梅山一大、長屋昌樹、 <u>花園豊</u> 、長嶋比呂志. 胚盤胞補完によって救済されたIL2RG遺伝子ノックアウトキメラブタは正常な繁殖能力を有する. 第108回繁殖生物学会 (宮崎) 2015年9月17-20日
学会288	河野正太、菱川修司、阿部朋行、長田直希、國田智、 <u>花園豊</u> . ブスルファンによる血小板減少モデルブタの作出. 第158回獣医学会学術集会 (十和田) 2015年9月7-9日

学会289	Urabe M, Abe T, Uchibori R, Tsukahara T, Kume A, Mizukami H, <u>Hanazono Y</u> , <u>Ozawa K</u> . Re-evaluation of thymidine kinase mutants as a safety switch for iPS cells. The 21th Annual Meeting of Japan Society of Gene Therapy, Osaka, July 24-26, 2015
学会290	渡邊將人、松成ひとみ、中野和明、梅山一大、長屋昌樹、宮川周士、 <u>花園豊</u> 、中内啓光、長嶋比呂士. ゲノム編集を用いた遺伝子ノックアウトクローンブタの作出効率. 日本動物細胞工学会2015年度大会（青葉）2015年7月9-10日
* <u>学会291</u>	阿部朋行、長尾慶和、原明日香、スブド・ビャンバー、柳瀬公秀、ボラジギン・サントラガ、緒方和子、山口美緒、福森理加、 <u>花園豊</u> . ヒツジ子宮内移植系におけるヒト造血細胞の生着促進・増幅技術の開発. 第17回日本異種移植研究会（下野）2015年3月14日
学会292	Matsunari H, Watanabe M, Nakano K, Uchikura A, Asano Y, Hatae S, Takeishi T, Umeyama K, Nagaya M, Miyagawa S, <u>Hanazono Y</u> , Nakauchi H, Nagashima H. Production efficiency of gene knockout pigs using genome editing and somatic cell cloning. 41th Annual Conference of the International Embryo Transfer Society, Versailles, France, January 10-13, 2015
学会293	Nagao Y, Abe T, Hara A, Ogata K, Yamaguchi M, Sarentonglaga B, Fukumori R, <u>Hanazono Y</u> . Factors affecting hematopoietic engraftment of monkey embryonic stem cells in sheep fetuses. the 41th Annual Conference of the international Embryo transfer Society. Versailles, France, January 10-13, 2015.
学会294	<u>花園豊</u> . ブタを利用するiPS細胞研究：マウスからヒトへの橋渡し. 第3回実験動物科学シンポジウム（山形）2014年12月12日
学会295	<u>花園豊</u> . ブタ体内でヒト血液・臓器を育てる研究について. 第2回日本先進医工学ブタ研究会（三島）2014年10月24-25日
学会296	Mizukami Y, Abe T, Shibata H, Makimura Y, Fujishiro SH, Yanase K, Hishikawa S, Kobayashi E, <u>Hanazono Y</u> . Transplantation-related Immunity of Porcine Induced Pluripotent Stem Cells in the MHC-matched Allogeneic Setting. The 2nd Annual Meeting of Japanese Society of Swine for Advanced Technology and Translational Research, Mishima, October 24-25, 2014
学会297	Abe T, <u>Hanazono Y</u> . Toward the generation of sheep having human blood. The 10th Nikko International Symposium, Shimotsuke, October 17, 2014
学会298	阿部朋行、スブド・ビャンバー、柳瀬公秀、原明日香、長尾慶和、 <u>花園豊</u> . Hematopoietic Engraftment of Human iPS Cells in Sheep after in Utero Transplantation. 第13回自治医科大学シンポジウム（下野）2014年9月5日
学会299	水上喜久、阿部朋行、柴田宏昭、牧村幸敏、藤城修平、柳瀬公秀、菱川修司、小林英司、 <u>花園豊</u> . Transplantation-related Immunity of Porcine Induced Pluripotent Stem Cells in the MHC-matched Allogeneic Setting. 第13回自治医科大学シンポジウム（下野）2014年9月5日
学会300	柳瀬公秀、阿部朋行、スブド・ビャンバー、原明日香、長尾慶和、 <u>花園豊</u> . ヒツジにおけるヒト造血の生着促進技術の開発. 第13回自治医科大学シンポジウム（下野）2014年9月5日
学会301	武石透輝、中野和明、松成ひとみ、林田豪太、浅野吉則、内倉鮎子、畑江将太、大海原雅人、渡邊將人、梅山一大、長屋昌樹、 <u>花園豊</u> 、長嶋比呂志. 全身性にクサビラオレンジを発現するミニブタ交雑種の開発. 第107回日本繁殖生物学会（帯広）2014年8月21-24日
学会302	中野和明、渡邊將人、松成ひとみ、小林美里奈、松村幸奈、坂井理恵子、倉本桃子、林田豪太、浅野吉則、内倉鮎子、梅山一大、長屋昌樹、 <u>花園豊</u> 、長嶋比呂志. ゲノム編集と体細胞クローニングによる免疫不全ブタの作出. 第107回日本繁殖生物学会大会（帯広）2014年8月21-24日

学会303	Mizukami Y, Abe T, Shibata H, Makimura Y, Fujishiro SH, Yanase K, Hishikawa S, Kobayashi E, <u>Hanazono Y</u> . Immune responses against induced pluripotent stem cells in porcine MHC-matched allogenic setting. Swine in Biomedical Research Conference 2014, Raleigh, USA, July 6-8, 2014
学会304	Watanabe M, Nakano K, Matsunari H, Kobayashi M, Matsumura Y, Sakai R, Kuramoto M, Hayashida G, Asano Y, Uchikura A, Umeyama K, Nagaya M, <u>Hanazono Y</u> , Nagashima H. Generation of X-linked SCID pigs by genome editing and somatic cell cloning. Swine in Biomedical Research International Conference 2014, Raleigh, USA. July6-8, 2014
学会305	<u>花園豊</u> . 動物を用いたヒト血液細胞の作出. 第62回日本輸血・細胞治療学会総会(奈良) 2014年5月15日
*学会306	阿部朋行、長尾慶和、柳瀬公秀、原明日香、ボラジギン・サラントラガ、緒方和子、 <u>花園豊</u> . ヒツジ子宮移植系におけるヒト造血細胞の生着・増幅技術の開発. 第61回日本実験動物学会総会(札幌) 2014年5月5日
学会307	<u>花園豊</u> . 幹細胞治療研究における医学と獣医学の連携. 平成25年度獣医学術学会年次大会(千葉) 2014年2月21-23日
学会308	Arai Y, Ohgane J, Fujishiro S, Nakano K, Matsunari H, Watanabe M, Umeyama K, Azuma D, Uchida N, Sakamoto N, Makino T, Yagi S, Shiota K, <u>Hanazono Y</u> , Nagashima, H. Evaluation of porcine induced pluripotent stem cells based on the DNA methylation profile of mouse embryonic stem cell-specific hypomethylated loci. 36th Annual Meeting of the Molecular Biology Society of Japan, Kobe, December 3-6, 2013
学会309	渡邊将人、中野和明、松成ひとみ、松田泰輔、金井貴博、小林美里奈、松村幸奈、坂井理恵子、倉本桃子、林田豪太、浅野吉則、高柳就子、新井良和、梅山一大、長屋昌樹、 <u>花園豊</u> 、長嶋比呂志. Zinc finger nuclease発現mRNAによるIL2R γ 遺伝子ノックアウトブタの作出. 第36回日本分子生物学会(神戸) 2013年12月3-6日
*学会310	Abe T, Masuda S, Sarentonglaga B, Ogata K, Yamaguchi M, Hayashi S, Nagao Y, <u>Hanazono Y</u> . Long-term comparative study on the engraftment of human hematopoietic stem cells in sheep after xenogeneic in utero transplantation. 12th Congress of International Xenotransplantation Association, Osaka, Japan, November 10-13, 2013
学会311	<u>Hanazono Y</u> . Porcine iPS. 12th Congress of International Xenotransplantation Association, Osaka, Japan, November 10-13, 2013
学会312	Nagao, Y, Abe T, Tanaka Y, Sasaki K, Masuda S, Sarentonglaga B, Ogata K, Yamaguchi M, Hayashi S, Kitano Y, <u>Hanazono Y</u> . Factors influencing engraftment of monkey embryonic stem cells in sheep after xenogeneic in utero transplantation. 12th Congress of the International Xenotransplantation Association, Osaka, Japan, November 10-13, 2013
学会313	<u>花園豊</u> . マウスからヒトへ: ブタを利用する橋渡し研究. 第1回日本先進医工学ブタ研究会(大阪) 2013年11月12日
学会314	<u>Hanazono Y</u> . Human-to-animal reversed xenogeneic transplantation for producing human blood in animals. Joint Meeting of the 2nd Symposium of the East Asia Xenotransplantation Association (EAXA) /the 16th Japan Xenotransplantation Association (JXA), Osaka, Japan, November 10, 2013
学会315	阿部朋行、長尾慶和、柳瀬公秀、ボラジギン・サラントラガ、緒方和子、山口美緒、林聡、 <u>花園豊</u> . ヒツジ子宮内異種移植(II): 長期間の造血再構築. 第16回日本異種移植研究会(大阪) 2013年11月10日
学会316	長尾慶和、阿部朋行、柳瀬公秀、ボラジギン・サラントラガ、緒方和子、山口美緒、林聡、 <u>花園豊</u> . ヒツジ子宮内異種移植(I): 生着条件の検討. 第16回日本異種移植研究会(大阪) 2013年11月10日
学会317	Abe T, <u>Hanazono Y</u> . Toward the generation of sheep having human blood. The 10th Nikko International Symposium 2013, Shimotsuke, Japan, October 17, 2013

学会318	花園豊, 再生医学研究: 臨床応用をめざして. 第77回日本皮膚科学会東部支部学術大会 (大宮) 2013年9月21-22日
学会319	新井良和、大鐘潤、藤城修平、中野和明、塩田邦郎、花園豊、長嶋比呂志. 実物としてのマウス多能性幹細胞DNAメチル化プロファイルに基づく幹細胞評価: ブタiPS細胞を例として. 第7回日本エピジェネティクス研究会年会 (奈良) 2013年5月30-31日
学会320	下澤律浩、藤城修平、水上喜久、阿部朋行、花園豊. カニクイザル初期胚を用いたES細胞の特性に関する検討. 第54回日本卵子学会 (千代田) 2013年5月25-26日
学会321	阿部朋行、花園豊. ヒト化ヒツジの作製を目指して. 第60回日本実験動物学会総会ワークショップ (つくば) 2013年5月17日

(部門名) 病態生化学部門

通し番号	
学会322	大森司. ひとめでわかる凝固カスケードの仕組み~日常診療で抗血栓薬を理解しようするために~ (ランチョンセミナー). 第237回日本循環器学会関東甲信越地方会 (東京) 2015年9月26日
学会323	大森司. 血小板機能異常症の病態と診断へのアプローチ (ランチョンセミナー). 第16回日本検査血液学会学術集会 (名古屋) 2015年7月11-12日
学会324	Ohmori T. New approaches to gene and cell therapy for hemophilia, The 25th Congress of the International Society on Thrombosis and Haemostasis (State of the Art Symposium), Tronto, Jun 20-25, 2015
学会325	大森司、水上浩明、片貝祐子、坂田飛鳥、小澤敬也、坂田洋一、西村智. 血友病Aに対するアデノ随伴ウイルスベクターを用いた遺伝子治療法の開発. 第37回日本血栓止血学会学術集会 (山梨) 2015年5月21-23日
学会326	大森司. ITPの病態とITP治療におけるTPO受容体作動薬の役割 (ランチョンセミナー). 第36回日本血栓止血学会学術集会 (大阪) 2014年5月29-31日
学会327	大森司. 実地医家のための出血性疾患の診断と治療. 第529回甲府市内科医会 (山梨), 2014年4月22日
学会328	大森司: 新規経口抗凝固薬の基礎と臨床. 第4回栃木総合診療研究会 (栃木) 2014年6月8日
学会329	大森司: 血友病研究の魅力. 第1回日本血栓止血学会教育セミナー (東京) 2013年10月20日
学会330	大森司. 出血性疾患の診断アプローチ (教育講演). 第75回日本血液学会学術集会 (札幌) 2013年10月11-13日
学会331	Ohmori T. Development of a cell-based therapy for treating hemophilic arthropathy by local injection of transduced MSCs. 第35回日本血栓止血学会学術集会SPCシンポジウム (山形) 2013年5月30日-6月1日

(部門名) 抗加齢医学研究部

通し番号	
学会332	Kuro-o M. Phosphate and FGF23-Klotho endocrine axis in pathophysiology of CKD. 8th International Congress on Uremia Research and Toxicity, Okinawa, Japan, March 13-15, 2014

学会333	<u>Kuro-o M.</u> Chronic kidney disease as a premature aging syndrome. 8th International Congress on Uremia Research and Toxicity, Okinawa, Japan, March 13-15, 2014
学会334	<u>Kuro-o M.</u> FGF23/FGF receptors/Klotho for calcium and phosphate homeostasis. International Society of Nephrology Nexus Symposium, Bergamo, Italy, April 3-6, 2014
学会335	<u>Kuro-o M.</u> Pathogenesis of Vascular Calcification: Phosphate or Calciprotein Particles - Who Is The Culprit? ERA-EDTA, Amsterdam, Netherlands, May 31-June 3, 2014
学会336	黒尾誠. Klotho-FGF内分泌系と腎性老化仮説. 第14回日本抗加齢医学会総会（大阪）2014年6月6-8日
学会337	黒尾誠：CKDと動脈硬化. 第57回日本腎臓学会学術総会（名古屋）2014年7月4-6日
学会338	黒尾誠：CPP、動脈硬化の新規病原物質. 第46回日本動脈硬化学会総会・学術集会（東京）2014年7月10-11日
学会339	<u>Kuro-o M.</u> CKD-MBD: A phosphate-centric view. ASN/JSN Joint Science Symposium, 58th Scientific Meeting, Japanese Society of Nephrology, Nagoya, Japan, June 6, 2015
学会340	黒尾誠. 腎臓と加齢～リンの役割～. 超高齢化社会とCKD. 第58回日本腎臓学会学術総会（名古屋）2015年6月7日
学会341	黒尾誠. Klotho-FGF23系と心肥大・動脈硬化. 第57回日本老年医学会学術集会（横浜）2015年6月14日
学会342	黒尾誠. 慢性腎臓病におけるFGF-Klotho内分泌系の適応と破綻. 第60回日本透析医学会学術集会・総会（横浜）2015年6月26日
学会343	<u>Kuro-o M.</u> FGF23-independent actions of Klotho. American Society of Bone and Mineral Research (ASBMR) Symposium - Crosstalk between kidney and bone: Bench to Bedside. Seattle, USA. Oct 8, 2015
学会344	<u>Kuro-o M.</u> Kidney as the major source of circulating alphaKlotho. Advances in Understanding Klotho Biology in CKD. American Society of Nephrology. San Diego, USA. Nov 6, 2015